

加計呂麻島の動物方言語彙

野原三義・宮城邦治

はじめに

南島の動物方言語彙や民俗分類については、通常の方言研究で部分的に扱われている報告や事典・著書などを除けば、松井（1975a、1975b、1983）や当山（1983、1984、1987）などの報告がある。また、植物方言については天野（1979）の著書が知られている。筆者らは南島に住む人々がどのように自然を認識しているのか、ということに興味を持ち、自然の構成要素である動物の方言語彙の調査を行っている（野原・宮城、1986）が、今回は奄美大島に隣接する加計呂麻島と与路島・請島の動物方言語彙について調査を行い、ある程度の言語資料が聞き取りできたので報告する。この報告は、Ⅰ原資料、Ⅱ方言地図とその解説、Ⅲ民俗分類資料からなっている。

なお、本調査は沖縄国際大学南島文化研究所が1986年から開始した奄美大島瀬戸内町総合調査の一環として行われたものである。大学当局と調査に協力していただいた現地の方々には厚く感謝の意を表します。

調査方法

調査地は加計呂麻島で29集落の中の15地点、与路島が2地点、請島が1地点、合計が18地点である（図1）。調査は1986年8月に8地点、1987年3月に10地点で行った。

各調査地で、方言をよく知っている概ね60代から70代前後の話者を探しだし、直接その人から聞き取りを行った。調査に先立ち、話者の出身地や島外での生活経験の有無などを聞き、できるだけ調査地の方言を提供してもらうように努めた。話者は単数または複数で、その性別にもこだわっていない。調査は、話者に動物図鑑を見せ、調査対象動物の誤解がないように宮城が適宜に説明を加え、野原が方言を聞き書きする方法で行った。また、慎重を期すために調査中の会話はすべてカセットテープに録音した。植物方言などもメモ程度に聞き取りした。調査地と話者は表1に示してある。

調査した動物方言語彙は哺乳類から鳥類・爬虫類・両生類・昆虫類・その他の順に原資料としてまとめ、それを基にして特徴的な方言について方言地図を作成し、その解説をおこなった。また、いくつかの動物方言については民俗分類を試み、加計呂麻島および与路島・請島の人々の自然認識について考察した。

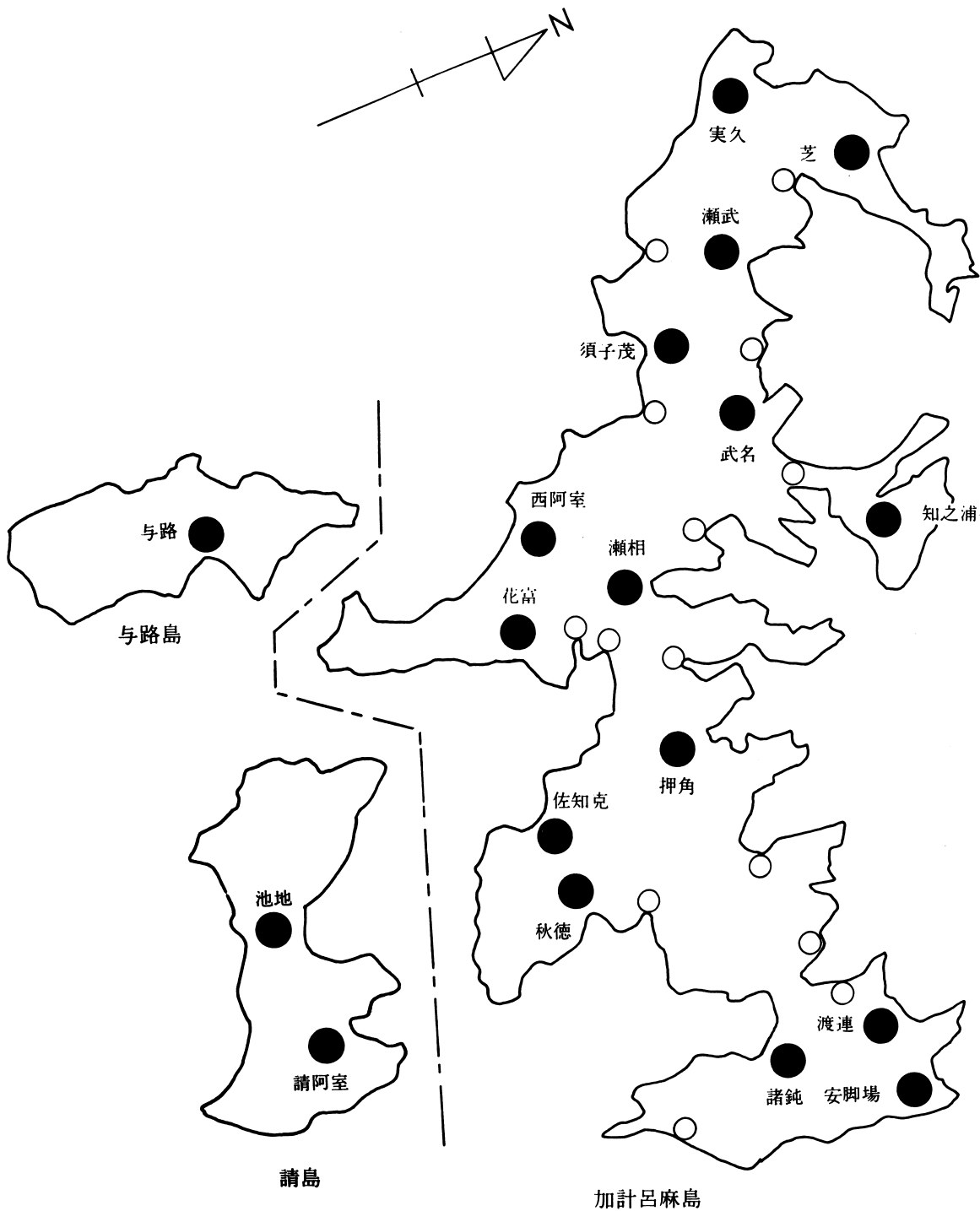


図1 調査地と集落の分布

●は調査した集落。与路島、請島と加計呂麻島との距離は実際の縮尺よりも短縮してある。

表1 調査地名と話者一覧

調査地	話者（生年月日）	性別
加計呂麻島		
実久	宮原博二 (T2・9・1)	男
芝	宮畑ヨネ (M45・7・6)	女
瀬武	喜平可夫 (M43・4・1)	男
須子茂	泉シマ子 (T11・9・13)	女
武名	前田シナ子 (T12・8・1)	女
知之浦	田中恕栄 (M30・11・6)	女
西阿室	祈 福隆 (M38・11・8)	男
	茂村真男 (60才)	男
瀬相	永井 忠 (M42・9・19)	男
花富	山田栄二 (M41・8・29)	男
押角	押井 彬 (T9・9・26)	男
	中村ユキ子 (T8・11・15)	女
佐知克	福田ノリ子 (T3・11・8)	女
	福田イネ (T6・3・25)	女
	西 タケ子 (T1・12・4)	女
秋徳	池田義男 (T8・1・5)	男
渡連	靱山貞雄 (T6・6・20)	男
安脚場	数島宮福 (80代?)	男
諸鈍	山下八重子 (T15)	女
	吉川八千代 (T5)	女
与路島		
与路	栄 ムメ (S5・8・21)	女
請島		
池地	福原哲二 (T12・9・1)	男
請阿室	久保成雄 (S6・12・16)	男

調査結果

I 原資料

加計呂麻島と与路島・請島で採録できた動物方言語彙の他に若干の植物方言語彙をまとめたものである。それぞれの動物群について通し番号をつけ、地域間の比較が容易にできるようにしてある。調査地名の右には話者の氏名と生年月日を明記してある。

加計呂麻島

実久

宮原博二 (T2・9・1)

〔哺乳類〕

M 1	コウモリ類	ko:mori
M 2	ネズミ類	nīdīm
M 3	ネコ	mja:
M 4	イヌ	?iŋ
M 5	イノシシ	ʃifi
M 6	ブタ	?wa:
M 7	ウシ	?ufi
M 8	ヤギ	çindza

〔鳥類〕

B 2	アジサシ類	sīrkap'。 gjaran
B 3	サギ類	sagja
		ʃirusagja 白いサギ
		k'urusagja 黒いサギ
B 4	バン	kumīru
B 5	チドリ類	t'ʃidʒurja
B 6	ヤマシギ類	ʃi:gja 製糖期によく見かけた
B 7	サシバ (タカ)	taha
B 8	コノハズク類	t'ikoho
		mja:t'ikoho
B 9	ミフウズラ	NR
B 10	ハト類	hato
	ズアカアオバト	?aobato
	キジバト	karabato。 pēpēppēppēと鳴く
	カラスバト	?ufibato。 u:と鳴く
B 11	カワセミ	kamdu:r
B 12	アカシヨウビン	kukkja:ru

B 13	キツツキ類	ki:tikkja	
B 14	ツバメ類	matagarasu	
B 15	セキレイ類	NR	
B 16	ヒヨドリ	çu:sĩ	
B 17	アカヒゲ	?akaçigi	
B 18	イソヒヨドリ	?ifo:sĩgum	
B 19	ウグイス	mafikjo	
B 20	セッカ	NR	
B 22	メジロ	medžiro	sa:mĩ という言葉は聞いたことがない。おじいさん達が sa:mĩ kago と言っていたが何の鳥を入れる籠だったのかわからない。
B 23	スズメ	jumunduri	
B 24	ルリカケス	çu:fa	
B 25	ハシブトガラス	garasu	
B 26	ニワトリ	niwaturi	
	トリ一般	tu'r	
	〔爬虫類〕		
R 1	ヤモリ類	kuranaprja	
R 2	トカゲ類	dinagirja	
R 3	キノボリトカゲ	fatomja	
R 4	ヘビ一般	mufi。	madžimuŋ とも言う
R 5	リュウキュウアオヘビ	?o:nak	
R 6	ガラスヒバァ	gara:sip	
R 7	アカマタ	mattap	
R 8	ハン (ハイ)	ça:çaŋ	
R 9	ハブ	matfimun。	kinhap (金ハブ)
R 10	ヒメハブ	kwahadžarak	
R 11	カメ類	kamĩ	
	〔両生類〕		
A 1	シリケンイモリ	sitimo'r	
A 2	カエル類	biki	田圃にいる (ヌマガエル)
		?ataribiki	山にいる大きいカエル
		gaku	
		gakunu nakjundo:	(カエルが鳴くぞう)
A 3	オタマジャクシ	NR	

〔昆虫類・その他〕

I 1	チョウ (ガ)	habëra
		bĩmbata: スズメガの一種?
I 2	セミ類	kju:wa
		kanĩgju:wa 山で鳴くセミ (アブラゼミ?)
I 3	トンボ類	?ëhë:da
		?ëhë:da イトトンボ類
		?uφugamatʃi ヤンマ類 (ĩ)
		jamato?uφugamatʃi ギンヤンマ
		雌を取ってきて雄を釣る
I 4	バッタ類	gata 田圃にいる
I 5	カマキリ類	?inʃatomja
I 6	ゴキブリ類	kunnjato, jamatomufi
I 7	ハチ類	hatʃi
	スズメバチ	t'iburubatʃi
	アシナガバチ	?ahabatʃi
	チビアシナガバチ	gajabatʃ(i)
	ジバチsp	dʒibatʃ(i) 泥の中に巣をつくる
I 8	アリ類	?aŋ
		k'uru?aŋ 黒いアリ
		?aha?aŋ 赤いアリ
I 9	ハエ類	φëi
		?o:bëi 銀バエ
		?ufibëi 牛につくハエ
		?umambëi 馬につくハエ
I 10	カ類	gadʒam
I 11	クモ類	kubu
		jaŋkubu 家にいるクモ
I 12	ヤスデ類	tunduro
I 13	ムカデ類	mukade
I 14	カタツムリ類	tindar (rは、ふるえ音)
I 15	ナメクジ類	nabĩkudʒiri
	シロアリ類	ʃirjam
	アオドウガネ?	dʒara

〔海産動物〕

S 1	カニ類	gaŋ
-----	-----	-----

	ʔiʃogaŋ	海にいるカニ
	magaŋ	川にいる髭のあるカニ
	ʔahagaŋ	赤いカニ
S 2	エビ類	ʔi:p
	sei	川にいる小さなエビ
	tanga	テナガエビ類
S 4	貝類	minja
	tammja	海にいるカイ
	タニシ	
S 5	タコ類	tuho
S 6	イカ類	ʔikja
	sīgar	
	kubufumi	コウイカ
S 7	ウニ類	gatiti
S 10	魚類	
	ウナギ	ʔunak
	ウツボ類	ʔudu
	エラブウナギ	ʔirapʔunak
	[植 物]	
P 1	サトイモ	ʔumu
	mudzi	サトイモの茎
	ta:ʔumu	タイモ
P 2	サツマイモ	hanusi
	kara	サツマイモの茎
P 3	ヤマイモ類	ko:ʃa
	ʔahako:ʃa	赤いヤマイモ
	firjuko:ʃa	白いヤマイモ
P 8	イヌマキ	kja:gī
P 9	イタジイ	ʃiː
P 10	ソテツ	sīti:ti
	nari	ソテツの実
	sītitidʒeŋ	ソテツのデンプン
	dʒikudʒeŋ	幹の中心の良質のデンプン
P 12	ガジマル	gatimar
P 13	コメ	kumī
P 14	ムギ	mugi
P 15	アワ	ʔu:ʔawa

P 16	キビ	k'imi
P 17	サトウキビ	ugi
	コウリヤン	to:gim
	トウモロコシ	to:kip

〔付記〕

畑	hatehë
水田	ta:
	naetfi. nonfiro 苗代
虹	nop

古仁屋は、今はkunjaと言うが、昔はçigjaと言った。çigja ttſuとは古仁屋の人のことである。(アガリ以前の古い言い方としてのヒガを残しているようだ)

芝 (fiba)

宮 畑 ヨ ネ (M45・7・6)

〔哺乳類〕

M 2	ネズミ類	nīdīm
M 3	ネコ	mja:。 mjaŋkwa, kwa:mja (子ネコ)
M 4	イヌ	?iŋ
M 6	ブタ	?wa:。 ?waŋkwa (子ブタ)
M 7	ウシ	?uſi
M 8	ヤギ	çindza。 çindzaŋkwa (子ヤギ)
M 9	ウマ	mma

〔鳥類〕

B 2	アジサツ類	sīrukaku。 sīrukaku maju (きれいな眉)
B 3	サギ類	sagja:
B 4	バン(?)	kumīr
B 5	チドリ類	tſidzorja。 hamatſidzorja
B 6	(アマミ) ヤマシギ	fi:gja
B 7	サンバ(タカ)	taha
B 8	コノハズク類	tīko:ho
B 10	ハト類	hato
	ズアカアオバト	pī:hato
	キジバト	hato
	カラスバト	?uſibato
B 11	カワセミ(?)	kamīdur
B 12	アカショウビン	kukkjaru
B 13	キツツキ類	kī:tikkja

B14	ツバメ類	tsubame。	matagarasuとは聞かない
B16	ヒヨドリ	çu:sĩ	
B17	アカヒゲ	?akaçigi	
B19	ウグイス	mafikjo	
B22	メジロ	medziro。	sa:mĩとは聞いたことがない
B23	スズメ	jumundur	
B25	ハシブトカラス	gara:sĩ。	ka:ka:と鳴く
B26	ニワトリ	tur	

wutur 雄ドリ

mĩ:tur 雌ドリ

çijoka ヒヨコ

tamago(今) kuga:(昔) 卵

?açiru

kamo

アヒル

カモ類

〔爬虫類〕

R 1	ヤモリ類	jamo:r	
R 2	トカゲ類	t'ina:girja	
R 3	キノボリトカゲ(?)	timmaburja	と昔の人は言っていたようだ
R 4	ヘビ類	mu:fi	
R 5	リュウキュウアオヘビ	?o:nak	
R 6	ガラスヒバァ	gara:sĩp	
R 7	アカマタ	matta(:)p	
R 8	ヒャン	ça:ça:ŋ	
R 9	ハブ	matfimuŋ。	kinhap 黄色い小さな毒蛇
R10	ヒメハブ	kawadzarap	
R11	カメ類	kamĩ:	

〔両生類〕

A 1	シリケンイモリ	sĩmo:r	
A 2	カエル類	biki,	?o:tombikkjaとは聞いたことがない
A 3	オタマジャクシ	bikinƙwa。	taju:とも言うかも知れない

〔昆虫類〕

I 1	チョウ (ガ)	habëra	
I 2	セミ類	gĩ:gja。	gi:gja gi:gjaと鳴く 全部gi:gjaと言う
I 3	トンボ類	?içe:da	
		?o:?içe:da	青いトンボ

	ʔakaʔiçe:da	赤いトンボ
	ʔinaʔiçe:da	小さいトンボ
	tĩngo:henda	(ギンヤンマ)
		糸にくくりつけjama:da tĩngo:he:da kaŋko:kaŋko: (山だ、ギンヤンマこっちへ来いこっちへ来い)と言 って、このトンボを釣った
I 4	バツタ類	gata:
I 5	カマキリ類	ʃato:mja:
I 7	ハチ類	ha:tʃi
	スズメバチ	tiburubaʔtʃi
I 9	ハエ類	ʔëi
		ʔo:bëi 銀バエ
I 10	カ	gadʒaŋ
		jamagadʒaŋ 山にいるカ
I 11	クモ類	kubu:。 kubunʃi: (クモの巣)
I 14	カタツムリ類	tinda:r
I 15	ナメクジ類	nabikudʒir
	[海産動物]	
S 1	カニ類	gaŋ
		ʔiʃogaŋ 海にいるカニ
		magaŋ 川にいる大きいカニ
		timma 畑などで穴を掘るカニ
S 10	魚類	ʔiju
	ウナギ	ʔuna:k
	フナ	ku:ju
	コイ	koi
	カツオ	kasu:。 ʔajagaso (綾の入っているカツオ)
	[植 物]	
P 1	サトイモ	ʔumu:
		mudʒi: 田に植える。芋は食べない
P 2	サツマイモ	hanu:su
P 3	ヤマイモ	ko:ʃa
		ʔahako:ʃa 赤いヤマイモ
		ʃirjuko:ʃa 白いヤマイモ
P 4	木	kĩ:
P 9	イタジイ	ʃi:gĩ

P11 マツ matigi
ツワブキ tiwafja 豚肉と一緒に炊いて正月に食べる

瀬 武

喜 平 可 夫 (M43・4・1)

〔哺乳類〕

M1 コウモリ類 ko:muɾu
M2 ネズミ類 niðim(i)
M3 ネコ mja:
M4 イヌ ?iŋ
M5 イノシシ fifi
M6 ブタ ?wa:
M7 ウシ ?uɟi
M8 ヤギ ɟindʒa
M9 ウマ ?uma
M10 ウサギ ?usa'k

〔鳥 類〕

B3 サギ類 sagja:
B4 バン kumiru
B5 チドリ類 hamatʒidori
B7 サシバ(タカ) taha
B8 コノハズク類 mja:tikoho
B9 ミフウズラ NR
B10 ハト類 hato
 ズアカアオバト ?aobato
 キジバト karabato
 カラスバト ?ufibato
B11 カワセミ kamdʒori
B12 アカショウビン kukja:ru
B13 キツツキ類 ki:tikkja
B14 ツバメ類 matagarasu
B16 ヒヨドリ ɟu:sī
B17 アカヒゲ ?akaɟige
B18 イソヒヨドリ ?ifo:t'igu。 ?ifoとは海のこと
B19 ウグイス ?uguisu。 mafikjoの親
 mafikjo ウグイスの子供
B22 メジロ medʒiro

B23	スズメ	jumunduri(ggwa)
B24	ルリカケス	jamabju:fa
B25	ハシブトガラス	garasu
〔爬虫類〕		
R 1	ヤモリ類	jamori
R 2	トカゲ類	dīnagirja
R 3	キノボリトカゲ	tabakuϕukja
R 4	ヘビ類	mufi
R 5	リュウキュウアオヘビ	?o:nak
R 6	ガラスヒバァ	garasup
R 7	アカマタ	mattap
R 8	ヒャン	ça:çaŋ 尾で刺す
R 9	ハブ	matʃimun (昔) habu (今)
R10	ヒメハブ	kuwadʒarap
R11	カメ類	kamī
〔両生類〕		
A 1	シリケンイモリ	so:dīmori
A 2	カエル類 アマミアオガエル	biki: 田圃にいるカエル ?o:biki:
A 3	オタマジャクシ	NR
〔昆虫類〕		
I 1	チョウ	tʃo:tʃo:
I 2	セミ類	gi:gja 小さいセミ jamatogi:gja 山で鳴く大きいセミ。ウーンウーンと鳴く
I 3	トンボ類	he:da jamatohe:da ヤンマ類
I 4	バッタ類	gata
I 5	カマキリ類	?umifato
I 6	ゴキブリ類	kunnjato
I 7	ハチ類 スズメバチ アシナガバチ チビアシナガバチ ジバチSP	hatʃi tiburuba:tʃi ?ahaba:tʃi gajabatʃi mitʃabatʃi
I 9	ハエ類	ϕëi。 ϕei
I 10	カ類	gadʒam

I 11	クモ類	kubu
I 14	カタツムリ類	tinda:r
I 15	ナメクジ類	nabikudziri
	[植 物]	
P 1	サトイモ	?umu mudz̥i. to:mudz̥i 茎
P 2	サツマイモ	hanu:s̥i
P 3	ヤマイモ	ko:fa ?ahako:fa 赤いヤマイモ firjuko:fa 白いヤマイモ

須子茂

泉 シマ子 (T11・9・13)

[哺乳類]

M 1	コウモリ	ko:mor
M 2	ネズミ類	nīdīm 大きな声で悪口を言うと、上にいるのが聞いて物をかじるぞ、と言われた。jannufiと聞いたこともある。
M 3	ネコ	mja:
M 4	イヌ	?in
M 5	イノシシ	fifi (昔) ?ino:fifi (今)
M 6	ブタ	?wa:
M 7	ウシ	?uf̥i
M 8	ヤギ	çindʒa
M 9	ウマ	?uma
M 10	ウサギ	?usa:k

[鳥 類]

B 1	カワウ	?ato:ho: 海にいる黒い鳥
B 2	アジサシ類	kasodur(i) カツオドリのこと?
B 3	サギ類	firjusagja
B 4	バン	kumīru
B 5	チドリ類	tʃidʒo(:)rja
B 6	(アマミ) ヤマシギ	fi:gja 油がのって美味しい
B 7	サシバ	taha
B 8	コノハズク類	mja:tikoho
B 10	ハト類	hato
	ズアカアオバト	?o:bato

キジバト	karabato。	pī:hato	pī:pī:pīと鳴く
カラスバト	?ufibato		
B11 カワセミ	kanduri		
B12 アカショウビン	kukaru		これがなくと海亀が卵を産む
B13 キツツキ類	kī:tikkja		
B14 ツバメ類	tsubame		matagarasuとは聞かない
B15 セキレイ類	NR		
B16 ヒヨドリ	çu:sī		
B17 アカヒゲ	?akaçigi		
B18 イソヒヨドリ	?ifo:kugum		
B19 ウグイス	?uguisu		
	mafikjo		ウグイスの子供
B20 セッカ	çibari		
B22 メジロ	medçiro		昔はsa:mīと言った気がする
B23 スズメ	jumunduri		
B25 ハシブトガラス	gara:su		
B26 ニワトリ	tur		
〔爬虫類〕			
R 1 ヤモリ類	jamori		
R 2 トカゲ類	dīnagirja		
R 3 キノボリトカゲ	mafokamja		塩を食わずと元気になる
R 4 ヘビ類	mufi		嘉入ではjaro:と言うと
R 5 リュウキュウアオヘビ	?o:nap		
R 6 ガラスヒバァ	gara:sup		
R 7 アカマタ	mattap		
R 8 ヒャン	ça:çaŋ		
R 9 ハブ	hap		
R10 ヒメハブ	kuwadçarap		
R11 カメ類	kamī		
〔両生類〕			
A 1 シリケンイモリ	so:tumuri		きれいな水にすむ
A 2 カエル類	biki:		
	?atarbiki:		山にいる大きなカエル
アマミアオガエル	?o:biki		
A 3 オタマジャクシ	?otamadçakufi		

〔昆虫類・その他〕

I 1	チョウ	habira	靈的なものに関する
I 2	セミ類	gjafi	
I 3	トンボ類	he:da	
I 4	バッタ類	gita:	
I 5	カマキリ類	fato	
I 6	ゴキブリ類	kunnjato(大昔) jamatomufi(昔) gokiburi(今)	
I 7	ハチ類	hatfi	
	スズメバチ	tiburubatfi	
	アシナガバチ	?ahabatfi	
	チビアシナガバチ	gajabatfi	
	ジバチSP	d3ibatfi	
I 8	アリ類	?aŋ	
I 9	ハエ類	φēi	
I 10	カ類	gad3am	
I 13	ムカデ類	mukade	
I 14	カタツムリ類	tindari	
I 15	ナメクジ類	nabikud3iri	

〔海産動物〕

S 1	カニ類	gaŋ	
S 2	エビ類	?ip	
		tanga	田圃にいる。テナガエビ類
S 4	貝類	?ufiggwa	タカラガイの仲間
S 5	タコ類	tuho	
S 6	イカ類	?ikja:	
S 7	ウニ類	gatitʃ	食用
		juni	
		kurujuni	ガンガゼ
		?uba	
S 8	ナマコ類	fikiri	
		tuhofikiri	食用にするナマコ
S 10	魚類	?iju	

〔植 物〕

P 1	サトイモ	?umu:	
		mud3i	茎
P 2	サツマイモ	hanusī	ツルはkaraと言う

P 3 ヤマイモ	ko:fa	
	ʔaha:ko:fa	赤いヤマイモ
	firjuko:fa	白いヤマイモ
P 8 イヌマキ	kja:gī	
P 10 ソテツ	sītiti	
	nari	ソテツの実
不明	kamīna	野菜の一種

武 名

前 田 シナ子 (T12・8・1)

〔哺乳類〕

M 1 コウモリ類	ko:mori
M 2 ネズミ類	nīdīm
M 3 ネコ	mja:
M 4 イヌ	ʔiŋ
M 5 イノシシ	fifi
M 6 ブタ	ʔwa:
M 7 ウシ	ʔufj
M 8 ヤギ	çindʒa
M 9 ウマ	ʔuma
M 10 ウサギ	ʔusa:k

〔鳥 類〕

B 2 アジサン類	sigikabu
B 3 サギ類	sagja:
B 4 パン	NR
B 5 チドリ類	NR
B 6 (アマミ) ヤマシギ	fj:gja
B 7 サンバ (タカ)	taha
B 8 コノハズク類	tikoho
	mja:tikoho
B 10 ハト類	hatu
ズアカアオバト	ʔo:bato
キジバト	pī:hato
カラスバト	ʔufibato
B 11 カワセミ	kamdʒo:ri
B 12 アカシヨウビン	kukkja:ru'
B 13 キツツキ類	kī:tikkja

B14 ツバメ類	tsubame。 matagarasuと聞くこともある
B15 セキレイ類	NR
B16 ヒヨドリ	çu:sī
B17 アカヒゲ	?akaçigi
B18 イソヒヨドリ	?ifo:tigum
B19 ウグイス	mafikjo
B20 セッカ	tfintfindori
B22 メジロ	medziro 昔の人はsa:miと言った
B23 スズメ	jumundur(i)
B25 ハシブトガラス	garasu
B26 ニワトリ	niwaturi
カモ類	kamo
〔爬虫類〕	
R 1 ヤモリ類	jamori
R 3 キノボリトカゲ	kufokamja
R 4 ヘビ類	muſi
R 5 リュウキュウアオヘビ	?o:nap
R 6 ガラスヒバァ	gara'sup
R 7 アカマタ	mattap
R 8 ヒャン	ça:çaŋ
R 9 ハブ	hap。 matſimun
R10 ヒメハブ	hawadzarap
R11 カメ類	kamī
〔両生類〕	
A 1 シリケンイモリ	NR
A 2 カエル類	biki
アマミアオガエル	?o:biki
〔昆虫類・その他〕	
I 1 チョウ	habira。 ga: (ガ)
I 2 セミ類	gi:ja
I 3 トンボ類	?ihe:da: kani?ihe:da。 kanitombo ヤンマ類
I 4 バッタ類	gata'
I 5 カマキリ類	?i:fato
I 6 ゴキブリ類	k'unnjato
I 7 ハチ類	hatſi

スズメバチ	tiburubatfi.
チビアシナガバチ	gajabatfi
ジバチsp	dʒibatfi
I 8 アリ類	?aŋ
I 9 ハエ類	φēi
I 10 カ類	gadʒam
I 11 クモ類	k'ubu
I 14 カタツムリ類	tindar
I 15 ナメクジ類	nabikudʒiri
〔海産動物〕	
S 1 カニ類	gaŋ
	magaŋ 川にいるカニ
	gasama 海にいるカニの一種
S 2 エビ類	?i:p イセエビ類
	taŋgaŋ 田圃にいる (テナガエビ?)
	sēi 小さいエビ
	kutʃigaŋ ゾウリエビ?
S 7 ウニ類	gatitti 食用
	juni 黒い
〔植 物〕	
P 1 サトイモ	?umu
	ta:ʔumu タイモ
	mudʒi 茎
	to:mudʒi 畑に植える
P 2 サツマイモ	hanu:sī
P 3 ヤマイモ	ko:fa
〔付記〕	
虹	no:t

知之浦 (t'ʃinoura)

田 中 恕 栄 (M30・11・6)

〔哺乳類〕

M 1 コウモリ類	ko:mori
M 2 ネズミ類	nezumi。 nīdimi
M 3 ネコ	mja:
M 4 イヌ	?iŋ
M 5 イノシシ	fifi。 ?inofifi

M 6	ブタ	ʔwa:	
M 7	ウシ	ʔufi	
M 8	ヤギ	çindʒa	
M 9	ウマ	ʔuma	
	ジネズミ類	dʒaha:	ワタセジネズミ?

〔鳥類〕

B 7	サシバ (タカ)	taha	
B 8	コノハズク類	k'o:ho。 tsukoho	
		mja:tsukoho:	
B 10	ハト類	hato	
	ズアカアオバト	ʔo:hato。 pī:hato	
	キジバト	karahato	
	カラスバト	ʔufibato	
B 11	カワセミ	kamduri	
B 12	アカショウビン	NR	
B 14	ツバメ類	matagarasu	
B 16	ヒヨドリ	çu:su	
B 17	アカヒゲ	ʔakaçigi	
B 19	ウグイス	mafikjo	
B 22	メジロ	medjiro	
B 23	スズメ	jumunduri	
B 24	ルリカケス	çu:fa。 jamabju:fa	
B 25	ハシブトガラス	gara:su	
B 26	ニワトリ	tur	
		çijoko	ヒヨコ

〔爬虫類〕

R 4	ヘビ類	mu:fi	
R 5	リュウキュウアオヘビ	ʔo:nagi	
R 6	ガラスヒバァ	gara:sup	
R 7	アカマタ	matta`p	
R 8	ヒャン	ça:çaŋ	
R 9	ハブ	matjimun	
R 10	ヒメハブ	k'uwa:dʒarap	

〔両生類〕

A 1	カエル類	biki:	
-----	------	-------	--

〔昆虫類〕

I 1	チョウ	habi:ra
I 2	セミ類	gi:gja
I 3	トンボ類	hë:da
I 4	バッタ類	gata:

〔海産動物〕

S10	サカナ類	?ju:
-----	------	------

〔植物〕

P 1	サトイモ	?umu
P 2	サツマイモ	hanusu
P 3	ヤマイモ	ko:fa

西阿室(1)

祈 福 隆 (M38・11・8)

〔哺乳類〕

M 1	コウモリ類	ko:mori'
M 2	ネズミ類	nedzumi:
M 3	ネコ	mja:
M 4	イヌ	?in
M 5	イノシシ	?inoʃifi
M 6	ブタ	?wa:
M 7	ウシ	?ufi。 幼児語はmu: kuti: 雄ウシ ?unami: 雌ウシ
M 8	ヤギ	çindʒa:
M 9	ウマ	mma'
M10	ウサギ	?usa:gi

〔鳥類〕

B 3	サギ類	ʃirosagi:
B 7	サシバ (タカ)	taha
B 8	コノハズク類	mja:tkoho:
B10	ハト類	hato:
	ズアカアオバト	?aubato'
	キジバト	karabato'
	カラスバト	?ufibato'
B11	カワセミ	NR
B12	アカショウビン	kukkaro:

B13	キツツキ類	kī:tukkja:	
B14	ツバメ類	mata'gara:su	尾が二つに切れている
B15	セキレイ類	NR	
B16	ヒヨドリ	NR	
B19	ウグイス	NR	
B20	セッカ	NR	
B22	メジロ	sa:mī。	mīはかなりmeに近い音である
B23	スズメ	jumunduri:	
B25	ハシブトガラス	gara:su	
B26	ニワトリ	tori:	
	カモ類	kamo:	
	〔爬虫類〕		
R 1	ヤモリ類	jamori	
R 2	トカゲ類	dina'girja:	二股の尾のトカゲを漁船に乗せると大漁になる
R 3	キノボリトカゲ	jadommaburja:	
R 4	ヘビ類	
R 5	リュウキュウアオヘビ	?o:naki	
R 6	ガラスヒバァ	gara:subi。	gara:supu
R 7	アカマタ	mattabu:。	?ahamattabu
R 8	ハン	ça:çari	
R 9	ハブ	madzimun	habu'
R10	ヒメハブ	ka:džara:k(i)	
R11	カメ類	kamī:	
	〔両生類〕		
A 1	シリケンイモリ	so:domori	
A 2	カエル類	biki:	小さいカエルを魚釣の餌にした
		?amagaeru	
A 3	オタマジャクシ	NR	
	〔昆虫類・その他〕		
I 1	チョウ	tfo:tfo:	
	セミ類	?asa:sa	
	トンボ類	?e:da:	小さいトンボ
		ju'fitfo:	大きいトンボ
I 4	バッタ類	gīta:。	geta:
I 5	カマキリ類	(f)šato:	踊らせて遊んだ

I 6	ゴキブリ類	k'unnjato:
I 7	ハチ類	hatʃiː
	スズメバチ	t'iburubatʃi:
	アシナガバチ	?akabatʃi:
	チビアシナガバチ	gajabatʃi:
I 9	ハエ類	ɸii
		?o:bii。 ?o:bei 腐ったものにつく
I 10	カ類	gadʒa:m(i:)
I 11	クモ類	kobogasi:
I 14	カタツムリ類	t'indarigjo:
I 15	ナメクジ類	nabekudʒi
	[海産動物]	
S 1	カニ類	gaŋ
S 2	エビ類	?ebi: ?eːp イセエビ?
		taŋga: 川にいるエビ
S 7	ウニ類	gatiti:
S 8	ナマコ	to:fikiri
S 10	魚類	?ju:
	ウツボ	?udzi:
	サメ	sabaː
	エイ	?i:saba:
	ハリセンボン	?abasi:
	アイゴ	?ei
	アオブダイ	?irabutʃi:
	カツオ	kasu:

その他にも魚類の方言語彙が多く出たので付記しておく

maguro	hatʃi:
ʃibi:	?aobatʃi:
?akame:	marugara
kamaːsu:	kamaːtʃi
saba:dikira:	gatsun
katahasi:	?ufigjara:
tsinomari	dikiro:
?akaːurumi	teika:
?akana:	jamatobi:
marugatsu	o:matsu

B23	スズメ	jumundri
B24	ルリカケス	jamaçu:fa。 jamabi:fa
B25	ハシブトガラス	gara:sī

〔爬虫類〕

R 1	ヤモリ類	jamur
R 2	トカゲ類	dīna:ga。 dina:gja
R 3	キノボリトカゲ	jadommaburja
R 4	ヘビ類	?
R 5	リュウキュウアオヘビ	?o:nattap
R 6	ガラスビバァ	garasup
R 7	アカマタ	?ahamattabu
R 8	ヒャン	ça:çabu 夕方出ると天気になる
R 9	ハブ	habu kimmun ケンムンのことでもある
R10	ヒメハブ	kawadzara
	エラブウミヘビ	?irapnap

〔両生類〕

A 2	カエル類	tambiki 小さいカエル
		?o:biki アマミアオガエル?
		atarbiki 食用ガエル
A 3	オタマジャクシ	buru:

〔昆虫類・その他〕

I 2	セミ類	?asa:sa 小さいセミ
		?abura:?asa:sa 山にいる大きいセミ
I 3	トンボ類	jufitfa
		?imajufitfo 普通のトンボ
		?ahajufitfo 赤いトンボ
		jamatujufitfo ヤンマ類
		je:da, ?ehe:da 川にいる目の出たトンボ
I 11	クモ類	kubu:

〔植物〕

P12	ガジマル	gadimari
-----	------	----------

瀬 相(seso)

永 井 忠 (M42・9・19)

〔哺乳類〕

M 1	コウモリ類	ko:mori
M 2	ネズミ類	nīdīmi

M 3	ネコ	mja	
M 4	イヌ	?in	
M 5	イノシシ	fifi	
M 6	ブタ	?wa	
		?wanɣwa	子ブタ
M 7	ウシ	?uʃi	
M 8	ヤギ	ɕindʒa	
M 9	ウマ	mma	
	ジネズミ類	jamanidimi	ワタセジネズミ?
		fimanidimi	

〔鳥 類〕

B 2	アジサシ類	sirka:ku	
B 3	サギ類	sagja	
B 4	バン	NR	
B 5	チドリ類	tʃidori	
B 6	(アマミ) ヤマシギ	ʃi:gja	昼間は見ない。夜飛んでいる。
B 7	サシバ(タカ)	taha	
B 8	コノハズク類	tikoho	
		mja:tikoho	
B 9	ミフウズラ	NR	
B 10	ハト類	hato	
	ズアカアオバト	?aobato	
	キジバト	karabato	
	カラスバト	?uʃibato	
B 11	カワセミ	kamidʒori	
B 12	アカショウビン	kukkaru	
B 13	キツツキ類	kidutʃikja	
B 14	ツバメ類	matagarasu	
B 16	ヒヨドリ	ɕu:sɨ	
B 17	アカヒゲ	?akaɕigi	
B 18	イソヒヨドリ	NR	
B 19	ウグイス	?uguisu	
		mafikjo	ウグイスの子。
B 20	セッカ	ɕibari	
B 22	メジロ	medʒiro,	medʒiroggwa
B 23	スズメ	jumundur	

B24	ルリカケス	jamaçu:fa
B25	ハシブトガラス	garasī
B26	ニワトリ	tur。 kuga (昔), tamago(今) 卵
	カモ類	kamo
	〔爬虫類〕	
R 1	ヤモリ類	dinagirja
R 2	トカゲ類	NR
R 3	キノボリトカゲ	kuʃokuja。 timmaburjaとは魚の名前
R 4	ヘビ類	mufi。 普通の虫は?ummufi
R 5	リュウキュウアオヘビ	?o:nadʒiri
R 6	ガラスヒバァ	gara:sīp
R 7	アカマタ	mattap
R 8	ヒャン	ça:çaŋ
R 9	ハブ	habu
R10	ヒメハブ	kwahadʒarap
R11	カメ類	kamī
	〔両生類〕	
A 1	シリケンイモリ	sīʃtumor(i)
A 2	カエル類	biki
		?o:biki アマミアオガエル
		?ataribiki 大きいカエルで食べられる。
A 3	オタマジャクシ	biru
	〔昆虫類・その他〕	
I 1	チョウ (ガ)	habīrja
I 2	セミ類	gi:ja
I 3	トンボ類	?içeda
I 4	バッタ類	gata
I 5	カマキリ類	?iʃʃatobannja
I 6	ゴキブリ類	kunnjato
I 7	ハチ類	hatʃi
	スズメバチ	t'iburubatʃi
	アシナガバチ	?ahabatʃi
	チビアシナガバチ	gajabatʃi
	ジバチSP	mitʃabatʃi
I 9	ハエ類	φēi
I 10	カ類	gadʒaŋ

I 11	クモ類	kubu。 kubunsi	クモの巣
I 14	カタツムリ類	tindar	
I 15	ナメクジ類	nabikudziri	
	[海産動物]		
S 1	カニ類	magan	田にいる毛のはえているカニ
		?afigan	川にいるカニ
		timma	田の畦に穴を開けるカニ
S 2	エビ類	?ip	イセエビ類
		tanga	テナガエビ類
S 4	貝類	?ufiggwa	タカラガイ類
S 7	ウニ類	juni。 gatiti	
S 10	魚類		
	ウナギ	?unak	
	[植物]		
P 1	サトイモ	?umu	
P 2	サツマイモ	hanusi	
		kara	サツマイモの蔓
P 3	ヤマイモ	ko:fa。 jaman	
		?ahako:fa	赤くて丸い。simako:faとも言う
		firjuko:fa	白いヤマイモ
		taiwaniko:fa	太くて長いヤマイモ
P 4	木	ki:	
P 5	草	kusa	
P 6	竹	dehe	
P 7	蔓	katra	
P 8	イヌマキ	kja:gī	
P 9	イタジイ	fi:gī	
P 10	ソテツ	sutit	
		nari	ソテツの実
P 11	マツ	matigi	
P 12	ガジマル	gatmar。 gatmargi	

花 富(kidum)

山 田 栄 二 (M41・8・29)

[哺乳類]

M 2	ネズミ類	nidim
M 3	ネコ	mja:

M 4	イヌ	?in	
M 5	イノシシ	jifi(昔)。	?ino:jifi(今)
M 6	ブタ	?wa:	
M 7	ウシ	?ufi	
M 8	ヤギ	çindza:	
M 9	ウマ	?uma:	
	[鳥類]		
B 1	カワウ	?ato:ho:	
B 2	アジサン類	sirikak	夏にやって来る。
B 3	サギ類	NR	
B 4	バン	kimī:r	
B 6	(アマミ) ヤマシギ	ji:gja	夜行性。あまり飛ばない。美味。
B 7	サンバ (タカ)	taha	
B 8	コノハズク類	k'uφo:	
		mja:tikoho:	
B 10	ハト類	hato	
	ズアカアオバト	?o:bato	
	キジバト	karabato。	pipippi:ppi:と鳴く
	カラスバト	?ufibato	
B 11	カワセミ	kamdu:r(i)	
B 12	アカショウビン	kukkjaru	これが鳴くと海亀が卵を産みに上がる
B 13	キツツキ類	tikkja:	
B 14	ツバメ類	matagara:su	
B 16	ヒヨドリ	çu:sī	
B 17	アカヒゲ	?akaçigi	
B 18	イソヒヨドリ	?ifokukum	
B 19	ウグイス	?uguisu	
		mafikjo:	
B 20	セッカ	tjimtjimdur(i)	
B 22	メジロ	?	
B 23	スズメ	jumundur	
B 24	ルリカケス	jamaçu:fa	
B 25	ハシブトガラス	gara:sī	
	[爬虫類]		
R 4	へビ類	mufi	
5	リュウキュウアオへビ	?o:nap	

R 6	ガラスヒバァ	gara:sup	ガラスヒバァ
R 7	アカマタ	nattap	アカマタ
R 8	ヒャン	ça:çaŋ	ヒャン
R 9	ハブ	matʃimɯŋ(昔)。	habu(今)
		k'i:nap	金ハブ
R10	ヒメハブ	kuwadʒarap	ヒメハブ
R11	カメ類	kami:	カメ類
	〔両生類〕		
A 1	シリケンイモリ	sitimo:r	シリケンイモリ
A 2	カエル類	biki	カエル類
	〔昆虫類・その他〕		
I 1	チョウ	tʃo:tʃo	チョウ
I 2	セミ類	k'i:ja (総称)	セミ類
I 3	トンボ類	?ihe:da。 ?e(he):da	トンボ類
		ja:maʔehe:da	ヤンマ類
I 4	バッタ類	gata:	バッタ類
I 5	カマキリ類	?ifito:mjai	カマキリ類
I 7	ハチ類	hatʃi	ハチ類
	スズメバチ	tiburuba(:)tʃi	スズメバチ
	アシナガバチ	?ahabatʃi	アシナガバチ
	チビアシナガバチ	gajabatʃi	チビアシナガバチ
I 11	クモ類	k'umu。 k'ubu:	クモ類
I 14	カタツムリ類	tindaru。 katatsumuri	カタツムリ類
	〔海産動物〕		
S 1	カニ類	magan	田にいるカニで美味しい。
S 2	エビ類	?i:p	イセエビ類
		tangan	テナガエビ類
		sei	小さなエビ
S 4	貝類	tammja:	タニシ
S10	魚類		
	ウナギ	?una:k	ウナギ
	〔植物〕		
P 1	サトイモ	?umu:	サトイモ
P 2	サツマイモ	hanu:sĩ	今は?imo
P 3	ヤマイモ	jamaimo	山に自生しているヤマイモ
		ko:ʃa	人間が植えてあるヤマイモ

P 4	木	ki:
P 5	草	kusa
P 6	竹	dīē:
P 7	蔓	katra:
P 9	イタジイ	ʃi: gī:は付かない。実で粥を作った
P 11	マツ	matigī:
	〔付記〕 しょいこ	tiru
	孫	maga

押 角(?ufikjaku)

押 井 彬 (T 9・9・26)

中 村 ユキ子 (T 8・11・15)

〔哺乳類〕

M 1	コウモリ類	ko:mur
M 2	ネズミ類	nīdīm
M 3	ネコ	mja:
M 4	イヌ	?iŋ
M 5	イノシシ	ʃiʃi(昔)。?inosiʃi(今)
M 6	ブタ	?wa:
M 7	ウシ	?uʃi
M 8	ヤギ	çindʒa
M 9	ウマ	?uma

〔鳥 類〕

B 1	カワウ	NR
B 2	アジサシ類	ʃirikam
B 3	サギ類	sagja:
B 4	バン	NR
B 5	チドリ類	hamatʃidori
B 6	(アマミ) ヤマシギ	ʃi:gja 山にいる鳥
B 7	サンバ (タカ)	taha
B 8	コノハズク類	tikkoho
		mja:tikoho
B 10	ハト類	hato
	ズアカアオバト	?o:bato 鳴くと嫌う
	キジバト
	カラスバト	?ufibato
B 11	カワセミ	kamdur(i) 神様の鳥だから石を投げるな

B12	アカショウビン	k'ukkjaru
B13	キツツキ類	NR
B14	ツバメ類	tsubame
B15	セキレイ類	NR tahadur(i) かも知れない
B16	ヒヨドリ	çu:sī 昔はよく食べた
B17	アカヒゲ	?akaçigi
B18	イソヒヨドリ	?ifokukum
B19	ウグイス	mafikjo 昔は?uta:fikagoで捕った
B21	サンコウチョウ	dinaga
B22	メジロ	sa:mī
B23	スズメ	jumundur(i)
B24	ルリカケス	NR
B26	ニワトリ	tu'r. tamago (卵)
〔爬虫類〕		
R 1	ヤモリ類	jamori
R 2	トカゲ類	NR
R 3	キノボリトカゲ	kufokuja
R 4	ヘビ類	mufi
R 5	リュウキュウアオヘビ	?o:nagir
R 6	ガラスヒバァ	gara:sup
R 7	アカマタ	matta:p
R 8	ヒャン	ça:çaŋ
R 9	ハブ	hagomuŋ. hagomununu uddo: (ハブがいるぞー)
R10	ヒメハブ	kwahadzara:p
R11	カメ類	kami
〔両生類〕		
A 2	カエル類	biki
		?o:biki アマミアオガエル
		?ottombiki 山にいる大きいカエル
A 3	オタマジャクシ	biru
〔昆虫類・その他〕		
I 1	チョウ (ガ)	habëra. tfo:tfo
I 2	セミ類	k'i:ja. ki:jaki:jaと鳴く
I 3	トンボ類	?eheda
		jama?eheda
I 4	バッタ類	gata

I 5	カマキリ類	ʔifato。	いぼをかませる
I 7	ハチ類	hatʃi	
	スズメバチ	tiburubatʃi。	t'iburi (頭)
	ジバチsp	mitʃabatʃi。	mitʃa (土)
I 8	アリ類	ʔa:r。	ʔaŋ
I 9	ハエ類	ɸë:	
I 11	クモ類	kubu	
		marukubu	丸いクモで喧嘩をさせた
			コガネグモsp?
	不明	sibë	夜の明りに集まる小さな虫 フン虫?
	[海産動物]		
S 1	カニ類	gaŋ	
		ko:gaŋ	川にいるカニ
		timma	爪が赤いカニ。豚と喧嘩をさせた
			オカガニsp?
S 2	エビ類	tanga	テナガエビ類
		së:	小さなエビ
S 3	ヤドカリ類	ʔamaŋ	
S 10	魚類	ʔju:	
	ウナギ	una:k	
	フナ	ɸuna	
	メダカ	taju	
	[植物]		
P 1	サトイモ	ʔumu	
		mudʒi。	ta:ʔumuの茎。畦に植えた。
P 2	サツマイモ	hanu:sī	
P 3	ヤマイモ	ko:ʃa	
P 4	木	kī:	
P 5	草	kusa	
P 6	竹	dëhë	
	ホウライチク	k'imdʒehe	生け垣を作る
	ホテイチク	jamadëhë	山竹 tiru (籠) などを作る
P 7	蔓	katra	
P 8	イヌマキ	kja:gī。	kja:gīnu mi イヌマキの実
P 10	ソテツ	sītī:tī	
		nari	ソテツの実

P 11	マツ	matigi:
P 12	ガジマル	gatma:r
P 13	コメ	kumi。 ?ini 稲
	ゲッキツ	gingit
	モッコク	?ahamomo
	ヤマモモ	mumogi
	チガヤ	makaja
	不明	juho 櫛を作る木
	棒	boho シイの木の棒

〔付記〕

長雨	nagamë?arap。 その頃にホトトギスが鳴く
いらか	?irikja
ままごと	munkar
尾 (動物)	dībo:

押角は、秋徳などと異なり、おっとり haſihaſi した表現をするとのこと

佐知克 (sad3o:ho)

福田 イネ (T 6・3・25)

福田 ノリ子 (T 3・11・8)

西 タケ子 (T 元・12・4)

〔哺乳類〕

M 1	コウモリ類	ko:mori
M 2	ネズミ類	nīdīm
M 3	ネコ	mja:
M 4	イヌ	?iŋ
M 5	イノシシ	?inosifi。 ſifi
M 6	ブタ	?wa:
M 7	ウシ	?uſi
M 8	ヤギ	çindza:
M 9	ウマ	?uma:

〔鳥類〕

B 1	カワウ	?atoho
B 2	アジサシ類	ſirika:p
B 3	サギ類	sagja。 ſirusagja
B 4	バン	kimir
B 5	チドリ類	hamatſidori
B 6	(アマミ) ヤマシギ	ſi:gja 山にいる。夜行性でありあまり飛ばない

B 7	サシバ (タカ)	taha	
B 8	コノハズク類	k'u:ɸo:	
		mja:tkuɸo	
B 10	ハト類	hato	
	ズアカアオバト	?o:bato	
	キジバト	karabato	
	カラスバト	?ufibato	
B 11	カワセミ	kamdur	
B 12	アカショウビン	kukja:ru	
B 13	キツツキ類	kī:tikkja	
B 14	ツバメ類	matagarasu	今はtsubameと言う
B 16	ヒヨドリ類	ɕu:sī _(u)	
B 17	アカヒゲ	?akaɕigi	
B 18	イソヒヨドリ	?ifokukum	海の岩の端で鳴いている
B 19	ウグイス	mafikjo:.	ugujusi
B 20	セッカ	NR	
B 22	メジロ	medziro	
B 23	スズメ	jumundur	
B 24	ルリカケス	jamaɕu:ʃa	
B 25	ハシブトガラス	gara'su	
B 26	ニワトリ	tur	
	卵	kuga (昔)	tamago (今)
	〔爬虫類〕		
R 1	ヤモリ類	jamori	
R 2	トカゲ類	dinagirja	
R 3	キノボリトカゲ	mafukuja	
R 4	ヘビ類	mufi	
R 5	リュウキュウアオヘビ	?o:nagir	
R 6	ガラスヒバァ	garasup _(bi)	
R 7	アカマタ	matta:p	
R 8	ヒャン	ɕa:ɕaŋ	
R 9	ハブ	matfimun	
R 10	ヒメハブ	kuwadzara:p	
	〔両生類〕		
A 1	シリケンイモリ	NR	
A 2	カエル類	biki:	

A 3 オタマジャクシ

〔昆虫類・その他〕

I 1 チョウ (ガ)

I 2 セミ類

I 3 トンボ類

I 4 バッタ類

I 5 カマキリ類

I 7 ハチ類

スズメバチ

アシナガバチ

チビアシナガバチ

ジバチsp

I 8 アリ類

I 9 ハエ類

I 10 カ類

I 11 クモ類

I 14 カタツムリ類

I 15 ナメクジ類

〔海産動物〕

S 1 カニ類

S 2 エビ類

S 4 貝類

S 10 魚類

〔植物〕

P 1 サトイモ

tambiki: 田圃にいる小さいカエル。

?ataribiki 山にいる大きいカエル。食べられる

taju:

tabiru ヒル (?) のことだと言う

habëra(昔)。 tfo:tfo(今)

k'i:ja

?ihe:da

kani:man ヤンマ類

gata:

sato。 おかしなしぐさで舞わすことを ?ifitoban という

hatji

t'iburubatji

?ahabatji

gajabatji

?an?kobatji 地面に穴を掘る。これが飛ぶと梅雨が上がる

?an

φëi

gadzan

kubu

tindar

nabëkudziri

gan

magan 畦に穴を開ける毛の生えたカニ

?ahagan 田にいるカニ

?i:p イセエビ類

tan?a テナガエビ類

sëi 小さなエビ類

tammja

?ju:

?umu 畑の溝などに植えた

?aha?umu 根茎が赤い

mudzi イモは食べられない

P 2	サツマイモ	hanusi
P 3	ヤマイモ	kofa
P 4	木	kī
P 5	草	kusa:
P 6	竹	dihē
P 7	蔓	katra:
P 8	イヌマキ	kja:gī
P 9	イタジイ	fi:gī
P 10	ソテツ	siti:ti
		nari ソテツの実
P 11	マツ	matigī
	[付記]	
	畏	wana:。 jama:

秋 徳 (?aktok)

池 田 義 男 (T 8・1・5)

[哺乳類]

M 1	コウモリ類	ko:mori
M 2	ネズミ類	nīdīm
M 3	ネコ	mja:
M 4	イヌ	?iŋ
M 5	イノシシ	?inoŋiŋi
M 6	ブタ	?wa:
M 7	ウシ	?uŋi
M 8	ヤギ	çindʒa
M 9	ウマ	?uma

[鳥 類]

B 1	カワウ	?atoho
B 2	アジサシ類	sirika:ku
B 3	サギ類	sagja
		firjusagja 白いサギ
		kurusagja 黒いサギ
B 4	バン	gumiri
B 5	チドリ類	tŋidori
B 6	(アマミ) ヤマシギ	fi:gja 夜行性
B 7	サシバ (タカ)	taha
		çakusa タカの一つでtahaより強い

B 8	コノハズク類	ko:ho:	
		mja:tiko:ho:	
B10	ハト類	hato	
	ズアカアオバト	?aobato	pī:pato:と鳴く
	キジバト	karabato	kukukku:kku:と鳴く
	カラスバト	?ufibato	mo:と鳴く
B11	カワセミ	ko:gaŋ	
B12	アカショウビン	?itfugahaŋ	itfu (美しい) 絹糸はitfugiŋと言う
B13	キツツキ類	kitsutsuki	
B14	ツバメ類	matagarasu(昔)	tsubame(今)
B15	セキレイ類	NR	
B16	ヒヨドリ	çu:sī	
B17	アカヒゲ	?akaçigi	
B18	イソヒヨドリ	?ifokugun	
B19	ウグイス	mafikjo'	
B22	メジロ	sa:miggwa	今はmedziroと言う
B23	スズメ	jumunduri	人が話すように鳴くからそういう。
		suzume	
B24	ルリカケス	çu:fa	
B25	ハシブトガラス	garasu	
B26	ニワトリ	tur(u)	
	[爬虫類]		
R 1	ヤモリ類	jamori	
R 2	トカゲ類	mafukuja。	kufokuja
R 4	ヘビ類	muji	
R 5	リュウキュウアオヘビ	?o:nadziri	
R 6	ガラスヒバァ	garasibi	
R 7	アカマタ	mattap	
R 8	ヒャン	ça:çaŋ	
R 9	ハブ	matjimun	
R10	ヒメハブ	kawadaraki:	
R11	カメ類	kamī	
	[両生類]		
A 1	シリケンイモリ	imori	
A 2	カエル類	tambiki	
		?ataŋ	山にいる

A 3 オタマジャクシ

〔昆虫類・その他〕

I 1 チョウ (ガ)

I 2 セミ類

I 3 トンボ類

I 4 バッタ類

I 5 カマキリ類

I 7 ハチ類

スズメバチ

アシナガバチ

チビアシナガバチ

ジバチsp

I 8 アリ類

I 9 ハエ類

I 10 カ類

I 11 クモ類

I 14 カタツムリ類

I 15 ナメクジ類

〔海産動物〕

S 1 カニ類

S 2 エビ類

S 3 ヤドカリ類

S 10 魚類

〔植物〕

P 1 サトイモ

P 2 サツマイモ

gaku 雨の前にga:kugakuと鳴く

tabiru

haburu。 tʃo:tʃo

k'irja

?asasa クマゼミ

kani?asasa アブラゼミ

?ihe:da。 he:da

kanimaŋ ヤンマ類

gita

?ifitobaŋ

hatʃi

t'iburubatʃi。 (t'iburi 頭)

?ahabatʃi

gajabatʃi

dʒibatʃi

?aŋ

ɸë:

gadʒam

kubo

manʃeŋ オオジョロウグモ?

tindari

nabikudʒir(i)

gaŋ

magaŋ 川にいる毛の生えたカニ

?aʃigaŋ 大きな穴を作るカニ

?i:p イセエビ類

tanga テナガエビ類

së: 小さなエビ類

?amam

?ju:

?umu

mudʒi 葬式の時に刻んで使う

hanusj̄

P 3 ヤマイモ	ko:fa
P 4 木	kī:
P 5 草	kusa
P 6 竹	dīhē:
P 7 蔓	katira:
P 8 イヌマキ	kja:gī
P 9 イタジイ	fi:gī
P 10 ソテツ	fitit(i)
	nari: ソテツの実
P 11 マツ	matigī:

〔付記〕

小鳥を捕る罫
波

?	utafi	
	naguri	
?	inanaguri	小さな波
?	uφunaguri	大きい波
	jandonami	最も大きい波

渡 連 (durin)

榎 山 貞 雄 (T 6・6・20)

〔哺乳類〕

M 1 コウモリ類	ko:mor
M 2 ネズミ類	nīdīm
M 3 ネコ	mja:
M 4 イヌ	?in
M 5 イノシシ	fifi
M 6 ブタ	?wa:
M 7 ウシ	?ufi
M 8 ヤギ	çindʒa
M 9 ウマ	?uma
M 10 ウサギ	?usagi

〔鳥 類〕

B 1 カワウ	?ato:ho:
B 2 アジサン類	sīrika(:)ku
	jaʃ 不明 キビナゴをねらっている鳥
B 3 サギ類	sagja
B 4 パン	kīmir
B 5 チドリ類	tʃidʒo:rja

B 6 (アマミ) ヤマシギ	fi:gja:	夜行性だから昼の方が捕りやすい。fi:gja:do: suiにして食べた
B 7 サシバ (タカ)	taha	
B 8 コノハズク類	tikoho'	
B 9 ミフウズラ	NR	
B 10 ハト類	hato	
ズアカアオバト	?o:bato	
キジバト	karabato	畑に降りて害を与える
カラスバト	?ufibato	
B 11 カワセミ	kamdur	撃つと頭が痛くなるから捕るな、と老人が言 っていた
B 12 アカシヨウビン	kuφa:ru:	
B 13 キツツキ類	kīdī:tukja	
B 14 ツバメ類	matagaras	
B 15 セキレイ類(?)	tahandur	
B 16 ヒヨドリ	çu:sī	家の中に入って梁にとまったら不吉 (munufir- jafi) なので、厄払いのために一晩くらい浜に家 を作って泊まる。これをturumadeと言う。これ はヒヨドリに限らないがスズメが入ってもたい したことはない。
B 17 アカヒゲ	?akaçigi	
B 18 イソヒヨドリ	?isosukum	
B 19 ウグイス	?uguisu	
	mafikuda	ウグイスの子供。ゴム銃で撃って食べた
B 20 セッカ	çibar.	tʃintʃindur
B 22 メジロ	medziro	
B 23 スズメ	sudzumi	昔はjumundurと言った
B 24 ルリカケス	çu:fa	
B 25 ハシブトガラス	gara:su	
B 26 ニワトリ	tur	
カモ類	kamo	
〔爬虫類〕		
R 1 ヤモリ類	jamor	
R 2 トカゲ類	dīna:gira	尾 (dībo:) がよく切れる。 砂地に潜って いる
R 3 キノボリトカゲ	kufokuja.	(kufo コシヨウ)

R 4	へビ類	muʃi	
R 5	リュウキュウアオヘビ	ʔo:nadʒiri	
R 6	ガラスヒバァ	garasibi:	
R 7	アカマタ	mattap	
R 8	ヒャン	ça:çaŋ	
R 9	ハブ	matʃimuŋ	
R 10	ヒメハブ	kuʔadʒirja:	田の畦に多い
R 11	カメ類	kami	
	〔両生類〕		
A 1	シリケンイモリ	so:timura	しっぽが二つあると縁起がよい。天からおちて来るといわれる
A 2	カエル類	biki	
		ʔataribiki	山にいる大きいカエル
A 3	オタマジャクシ	bikiggwa	
	〔昆虫類・その他〕		
I 1	チョウ (ガ)	habira (小さいチョウ)	tʃo:tʃo
I 2	セミ類	k'i:ja:	
		kanik'i:ja:	大きいセミ
I 3	トンボ類	ʔe:da	
		ʔahaʔe:da	
		jamaturja	ヤンマ類。おとりの雌で雄を捕まえる。 jamaturja: koi koiと唱えた
I 4	バッタ類	gata:	
I 5	カマキリ類	ʔiʃitobaŋ	タバコのヤニを食わせて音楽に合わせて踊らす。家に入ると縁起が良い。
I 7	ハチ類	ha:tʃi	
	スズメバチ	tiburuba:tʃi	
	アシナガバチ	ʔaha:ba:tʃi	
	チビアシナガバチ	gajaba:tʃi	
I 8	アリ類	ʔaŋ	
I 9	ハエ類	ʔë:	
I 10	カ類	gadʒaŋ	
I 11	クモ類	kubu。 kubun si:	クモの巣
I 13	ムカデ類	mukade	
I 14	カタツムリ類	tindar	
I 15	ナメクジ類	nabikudʒir	

虫一般

muʃi

?undʒo:muʃi 毛虫の一種

kʃa:gi:muʃi イヌマキにつく虫

ja:kimuʃi ホウセンカにつく虫(tamakuraホウセンカ)

〔海産動物〕

S 1 カニ類

gaŋ

S 2 エビ類

?ip イセエビ類

taŋga テナガエビ類

sə: 小さなエビ類

S10 魚類

?ju:

ウナギ

?unak

〔植物〕

P 1 サトイモ

?umu

mudʒi 畑に植える。茎は白い。お盆のとききざんで供える

P 2 サツマイモ

hanusi

P 3 ヤマイモ

jamaimo

ko:ʃa

ʃi:ru:ko:ʃa 白いヤマイモ

?aha:ko:ʃa 赤いヤマイモ

P 4 木

ki:

P 6 竹

dihē

P 7 蔓

katira:

P 8 イヌマキ

kja:gi

kja: イヌマキの実。昔よく食べた

P 9 イタジイ

ʃi:gi:

P10 ソテツ

ʃi:ti:ti ʃi:ti:ti ʃi:ti:ti ʃi:ti:ti ソテツ粥

nari 実一般

P11 マツ

matigi:

〔付記〕

砂地

kanekudʒi

食べる

kami

茶召しあがれ

tʃa: miʃori

君(きみ)

?ura

貴方

nami。 nammja: (貴方は)

安脚場

数 島 宮 福 (80代の男性)

〔哺乳類〕

M 1	コウモリ類	kɔmɔri
M 2	ネズミ類	nĩdĩm
M 3	ネコ	mja:
M 4	イヌ	?in
M 5	イノシシ	fifi
M 6	ブタ	?wa:
M 7	ウシ	?ufi
M 8	ヤギ	çindʒa:
M 9	ウマ	?uma
M 10	ウサギ	?usa:k

〔鳥 類〕

B 1	カワウ	?at'o'ho'
B 3	サギ類	sagja:
B 4	バン	kĩmiru(ggwa)
B 5	チドリ類	tʃidori
B 6	(アマミ) ヤマシギ	fj:ɡja:
B 7	サシバ (タカ)	taha
B 8	コノハズク類	tiko:ho: tiko:ho:と鳴く mja:tiko:ho: mja:mja:と鳴く
B 9	ミフウズラ	?udzura
B 10	ハト類	hato
	ズアカアオバト	?o:bato:
	キジバト	karabato:
	カラスバト	?ufibato:
B 11	カワセミ	kamduri
B 12	アカショウビン	kwaha:ru: 農作物が繁茂する頃に鳴く
B 13	キツツキ類	kutu:dukja
B 14	ツバメ類	matagaras
B 15	セキレイ類	tʃintʃin ta:ɸuna:ɡja:
B 16	ヒヨドリ	çu:sĩ
B 17	アカヒゲ	?aka'çige
B 18	イソヒヨドリ	?iso:sikum
B 19	ウグイス	?uguisu
	maʃikuda	大きくなったらウグイスになる

B20	セッカ	gaja:jumunduriggwa
B22	メジロ	medziro
B23	スズメ	jumunduri(ggwa)
B25	ハシブトガラス	gara'su
	カモ	kamo
	不明	kaptfoho: 海に潜って魚をとる

〔爬虫類〕

R 1	ヤモリ類	jamori
R 2	トカゲ類	dina:gira:
R 3	キノボリトカゲ	kufo:kuja
R 4	ヘビ類	mufi. mufinu uddo ヘビがいるぞ
R 5	リュウキュウアオヘビ	?o:na:dzi
R 6	ガラスヒバァ	gara:sicip
R 7	アカマタ	matta:p
R 8	ヒャン	ca:ca:n
R 9	ハブ	matfimuŋ. habu'
R10	ヒメハブ	kwaha:d3irjak
R11	カメ類	kami

〔両生類〕

A 1	シリケンイモリ	sotsumura
A 2	カエル類	biki:
		?ataribiki 大きいカエル
		?o:biki: アマミアオガエル
A 3	オタマジャクシ	bikinukwa:. bikiŋkwa

〔昆虫類・その他〕

I 1	チョウ	habira:
		?o:habira 青いチョウ
		firuhabira' 白いチョウ
I 2	セミ類	k'i:ja' 小さいセミ
		?asa:sa 大きいセミ
I 3	トンボ類	?e:da:
		?ahae:da 赤いトンボ
		jama:turja: ヤンマ類
I 4	バッタ類	gata:
I 5	カマキリ類	?ifito:baŋ
I 6	ゴキブリ類	kundza'to:

I 7	ハチ類	hatfi
	スズメバチ	tiburubatfi
	アシナガバチ	?aha'batfi
	チビアシナガバチ	gaja'batfi
I 10	カ類	gadʒaŋ
I 11	クモ類	kubu:
I 13	ムカデ類	muka'de。 jamamuka'de
I 14	カタツムリ類	tindarigjo'
I 15	ナメクジ類	nabikudʒiri
〔海産動物〕		
S 1	カニ類	magaŋ 毛が生えているカニ fi:gaŋ 畑に穴を開ける小さなカニ
S 2	エビ類	?i:p taŋga: 川にいる
S 4	貝類	tammja' タニシ jakugë ヤコウガイ magai ? kurubu ? mariminja' アワビの一種 jugwarami ?
S 7	ウニ類	gati'ti 実(卵巣)が多い juni

諸 鈍

山 下 八重子 (T15生)

吉 川 八千代 (T5生)

〔哺乳類〕

M 1	コウモリ類	ko:mori
M 2	ネズミ類	niðim
M 3	ネコ	mja:
M 4	イヌ	?iŋ
M 5	イノシシ	ʃifi
M 6	ブタ	?wa:。 ?wanʒkwa' 子ブタ
M 7	ウシ	?ufi
M 8	ヤギ	çindʒa
M 9	ウマ	?uma'

〔鳥類〕

B 1	カワウ	ʔato:ho:	
B 3	サギ類	sagja	
B 4	バン	kumir(u)	
B 5	チドリ類	tʃidʒu:rja:	
B 6	(アマミ) ヤマシギ	ʃi:gja:	
B 7	サンバ (タカ)	tahaʔ	
B 8	コノハズク類	tjiko:ho	
		mja:tiko:ho:	ネコの鳴き声に似る
B10	ハト類	hato	
	ズアカアオバト	ʔo:bato	
	キジバト	kara:bato	
		pī:pato。	pīpīppīpīと鳴く
	カラスバト	ʔufibato	
B11	カワセミ	kamduri	
B12	アカショウビン	k'ʊʃa:ru。	kuwaru
			カラスの赤い着物と取り替えて、鳥につつかれている。
B13	ツバメ類	mata:garasu	
B16	ヒヨドリ	çu:sī。	çu:duri
B17	アカヒゲ	ʔakaçigi(durigwa)	
B18	イソヒヨドリ	ʔifo:kuguŋ	
B19	ウグイス	mafikjo	大きくなったらウグイスになる
B22	メジロ	medziro	sa:mīとは聞かない
B23	スズメ	jumunduri	
B25	ハシブトガラス	gara(:)su	
B26	ニワトリ	niwa:turi。	kuga (卵)

〔爬虫類〕

R 1	ヤモリ類	jamori	
R 2	トカゲ類	dina:girja	尻尾が切れるのでそう言う
R 3	キノボリトカゲ	kufo:kuja	
R 4	ヘビ類	muʃi	
R 5	リュウキュウアオヘビ	ʔo:nadziri	
R 6	ガラスヒバァ	gara:subi。	garasubi:
R 7	アカマタ	mattap。	matabu:
R 8	ヒャン	ça:çaŋ	
R 9	ハブ	matʃumuŋ。	habu

R 10	ヒメハブ	kuwa:dʒirak
R 11	カメ類	kami
	[両生類]	
A 2	カエル類	biki
		?ataribiki 大きいカエル
		?o:biki アマミアオガエル
A 3	オタマジャクシ	NR
	[昆虫類・その他]	
I 1	チョウ (ガ)	habëru。 tʃotʃo
I 2	セミ類	k'i:ja ミーミーとかシャンシャンと鳴く
I 3	トンボ類	?e:da
I 4	バッタ類	gata
		?appami gata 大きいバッタ
I 5	カマキリ類	?ifitobaŋ
I 6	ゴキブリ類	k'unnjato
I 7	ハチ類	hatʃi
	スズメバチ	t'iburubatʃi
	アシナガバチ	?ahabatʃi
	チビアシナガバチ	gajabatʃi
	ジバチsp	dʒibatʃi
I 9	ハエ類	φë:
I 10	カ類	gadʒam
I 11	クモ類	kubu(:)
I 14	カタツムリ類	t'indari
I 15	ナメクジ類	nabī'kudʒiri
	[海産動物類]	
S 1	カニ類	gaŋ
		timma:
S 2	エビ類	?i:p
		tanga 川にいる
		së: 小さいエビ
S 3	ヤドカリ類	?amam
S 5	タコ類	toho
S 6	イカ類	?ikja
S 7	ウニ類	gatiti 食用にする
		juni

S10 魚類

ʔiju
 ʔabasī ハリセンボン
 ʔo:ʔurume タカサゴ
 nikjo: ユゴイの一種
 tigīra ボラの子ども

〔植物〕

P 1 サトイモ

ʔumu
 ta:ʔumu タイモ

P 2 サツマイモ

mudzi 茎
 hanusī. kara 蔓や葉のこと

P 3 ヤマイモ

ko:fa

P 8 イヌマキ

kja:gī

P10 ソテツ

sītiti

〔付記〕

虹

no:k

与路島

与路

栄 ム メ (S5・8・21)

〔哺乳類〕

M 1 コウモリ類

ko:mori

M 2 ネズミ類

nīdu'm

M 3 ネコ

mja:

M 4 イヌ

ʔiŋ

M 5 イノシシ

ʃifi:

M 6 ブタ

ʔwa:

M 7 ウシ

ʔuʃ

M 8 ヤギ

çindʒa

M 9 ウマ

ʔuma

M10 ウサギ

ʔusa:k

〔鳥類〕

B 2 アジサン類

suruka:p

B 3 サギ類

ʃiru'sak

B 4 バン

ku:ru(gwa)。 kē:ru

B 5 チドリ類

tʃidʒu'rja:

B 7 サンバ (タカ)

taka

B 8 コノハズク類

tukoho:

B 10	ハト類 カラスバト	hato ʔufibato。 mo:mo:と鳴く
B 11	カワセミ	kamdzori'
B 12	アカショウビン	kukkaru
B 13	キツツキ類	NR
B 14	ツバメ類	matagarasu これが飛ぶと雨になる
B 16	ヒヨドリ	çu:sĩ
B 17	アカヒゲ	ʔakaçigi:
B 19	ウグイス	majikjo:
B 22	メジロ	medzïro。 sa:mĩとは言わない
B 25	ハシブトガラス	gara:su
B 26	ニワトリ カモ	turi。 koga (卵) utur 雄鳥 mitur 雌鳥 kao
〔爬虫類〕		
R 1	ヤモリ類	NR
R 2	トカゲ類	donogirja:
R 3	キノボリトカゲ	timmaburja。 上ばかり見ているからこういうとのこと
R 4	ヘビ類	……
R 5	リュウキュウアオヘビ	o:nor
R 6	ガラスヒバァ	hë'p
R 7	アカマタ	matta'p
R 8	ヒャン	ça:n
R 9	ハブ	hap。 bë'
R 10	ヒメハブ	kwa:dzarak
R 11	カメ類	kauĩ
〔両生類〕		
A 1	シリケンイモリ	sotmor
A 2	カエル類	biki:
		ʔawagaku: アマガエル?
A 3	オタマジャクシ	bikinu kwa:。 otamadzakufi
〔昆虫類・その他〕		
I 1	チョウ (ガ)	habura: tso:tfo
I 2	セミ類	k'i:ja' k'i:ja k'i:jaと鳴く
I 3	トンボ類	ʔë:da'

	ʔa:ədaː	
I 4 バッタ類	gataː	
I 5 カマキリ類	ʔifatomai	
I 6 ゴキブリ類	k'unnjato	
I 7 ハチ類	haːtʃi	
スズメバチ	t'uburubatʃi	tuburu (頭) のような巣をつくる
チビアシナガバチ	gajabaːtʃi	
ジバチsp	mitʃabaːtʃi	mitʃaとは土のこと
I 8 アリ類	ʔaːŋ	
I 9 ハエ類	ʔəi	
	kimbəi	キンバエ
I 10 カ類	gadʒaːm	
I 11 クモ類	kubu。	kubun su:クモの巣
I 12 ヤスデ類	tinduru	
I 14 カタツムリ類	tundari	
I 15 ナメクジ類	nabəkudʒiri	
[海産動物]		
S 1 カニ類	gan	
	magan	川にいるカニ
	hamma	浜にいるカニ
	gasamaː	ガザミ
S 2 エビ類	ʔi:p	
	taŋga	川にいる
S 3 ヤドカリ類	ʔawa:m	
S 4 貝類	minja	
	tammja	タニシ
S 5 タコ類	to:	
S 6 イカ類	ʔikja:	
S 7 ウニ類	gatuːtʃi	
S 10 魚類	ʔiju	
	ʔaba:sī	ハリセンボン
	ʔudu:	ウツボ
	saba	サメ
	ʔi:	エイ
	ʔerabutʃi	ブダイの一種
	çiki:	スズメダイの一種

marugara ヒラアジの一種

nebari メバルの一種

?ifinebari メバルの一種

〔植物〕

P 1 サトイモ

?umu

ta:mu タイモ

mudzi 茎

P 2 サツマイモ

hanusi。 kara 蔓や葉

P 3 ヤマイモ

ko:fa

?a:ko:fa

firuko:fa

P 4 米

kī:i

P 12 ガジマル

gatma:ri

カボチャ

t'ubu'r

木の葉

kīdʒiba

花

hana

〔付記〕

虹

no:k

請 島

池 地 (?iki)

福 原 哲 二 (T12・9・1)

〔哺乳類〕

M 2 ネズミ類

nīdim

M 3 ネコ

mja:

M 4 イヌ

?iŋ

M 5 イノシシ

fifi

M 6 ブタ

?wa

M 7 ウシ

?ufi

M 8 ウマ

?mma

M 10 ウサギ

?usak

〔鳥 類〕

B 1 カワウ

bimbosak

B 2 アジサン類

sirikap

B 3 サギ類

sa:k

B 4 バン

gīmīr(i)

B 5 チドリ類

t'fidʒurja

B 6 (アマミ) ヤマシギ	ʃi:gja	夜行性で山にいる
B 7 サシバ (タカ)	ta:	
B 8 コノハズク類	tikoho	
	mjatko	
B 10 ハト類	hato	
ズアカアオバト	ʔo:bato	
キジバト	karabato	
カラスバト	ʔufibato	牛のように鳴く
B 11 カワセミ	kamdurggwa	
B 12 アカシヨウビン	kjokkjoro(:)	
B 13 キツツキ類	kī:tikkja	
B 14 ツバメ類	matagarasī	
B 16 ヒヨドリ	çusī	
B 17 アカヒゲ	ʔakaçigi	
B 18 イソヒヨドリ	ʔifjikugum	
B 19 ウグイス	mafikjo	ホーホケキョともチャッチャツとも鳴く
B 21 サンコウチョウ	dīnagadur	
B 22 メジロ	medziro.	sa:mīggwaと祖母が昔に言ったようだ
B 23 スズメ	jumudur	
B 24 ルリカケス	jamaʔju:fa	ʔja:faとは啞のこと
B 25 ハシブトガラス	garasī	
B 26 ニワトリ	tur	
〔爬虫類〕		
R 1 ヤモリ類	NR	
R 2 トカゲ類	dīnagirja	
R 3 キノボリトカゲ	mafokuja	
R 4 ヘビ類	çip	
R 5 リュウキュウアオヘビ	ʔo:nak	
R 6 ガラスヒバァ	çip	
R 7 アカマタ	mattap	
R 8 ヒャン	çaŋ	
R 9 ハブ	madzimun.	mufi
R 10 ヒメハブ	kwa:dgarap	
R 11 カメ類	kamī	
〔両生類〕		
A 1 シリケンイモリ	sodumor	

A 2	カエル	biki	カエル
		gaku	アオガエル? 鳴くと雨が降る
A 3	オタマジャクシ	NR	オタマジャクシ
	[昆虫類・その他]		
I 1	チョウ(ガ)	habira	チョウ
I 2	セミ類	?amagak	セミ
		?asasa	山にいる大きいセミ
I 3	トンボ類	?ända	トンボ
		?a:saŋ ända。	?a:saŋ 赤い
		jamaända	トンボ
I 4	バッタ類	gata	バッタ
I 5	カマキリ類	jumu	カマキリ
I 8	アリ類	?aŋ	アリ
I 9	ハエ類	φëi	ハエ
I 10	カ類	gadʒam	カ
I 11	クモ類	kubu	クモ
	[海産動物]		
S 1	カニ類	gaŋ	カニ
		ta:gaŋ	毛が生えているカニ
		gīdīma:gaŋ	紫色のカニ(オカガニ?)
		hamma	……
S 2	エビ類	?i:p	エビ
		taŋga	エビ
		sëi	小さなエビ
S 3	ヤドカリ類	?amam	ヤドカリ
S 10	魚類		
	ウナギ	?unak	ウナギ
	フナ	φuna	フナ
	メダカ	taju。	tajuggwa
	不明	mikjo	オオグチュゴイ?
	[植物]		
P 1	サトイモ	?umu	サトイモ
		ta:umu	田圃に植える
		mudʒi	茎
	クワズイモ	baʃ	クワズイモ
P 2	サツマイモ	hanusj	サツマイモ

P 3	ヤマイモ	ko:fa
P 4	木	kī
P 5	草	kusa
P 6	竹	dē
	ハウライチク	kēmdʒe
P 7	蔓	kadira
P 8	イヌマキ	kja:gī
P 9	イタジイ	ʃi:gī
		ʃi: 椎の実
P 10	ソテツ	sītītī
		nari ソテツの実
P 11	マツ	matu
P 13	コメ	kumī。 ?ini イネ
	苗	nēi。 mom モミ
	トベラ	tubira

〔付記〕

海	?umi:	潮干狩	?ifu
浜	hama	生えている	mī:tuŋ

請阿室 (?uki:)

久保成雄 (S6・12・16)

〔哺乳類〕

M 1	コウモリ類	ko:mori
M 2	ネズミ類	nīdīm
M 3	ネコ	mja:
M 4	イヌ	?iŋ
M 5	イノシシ	ʃiʃi:
M 6	ブタ	?wa:
M 7	ウシ	?u:ʃi
M 8	ヤギ	çindʒa
M 9	ウマ	?uma:

〔鳥類〕

B 1	カワウ	?ato:
B 2	アジサシ類	sīrika:k。 kasodur
B 3	サギ類	sa:k
B 4	バン	kīmīr
B 5	チドリ類	hamadʒo:r

B 6 (アマミ) ヤマシギ	fj:gja:
B 7 サシバ (タカ)	ta:
B 8 コノハズク類	mjatkoḥo
B 10 ハト類	hato:
ズアカアオバト	?o:bato'
キジバト	karabato:
カラスバト	?ufibato'
B 11 カワセミ	kamdʒor(u)
B 12 アカショウビン	kwa:ru
B 13 キツツキ類	kī:tikkja:
B 14 ツバメ類	matagarasj̄
B 16 ヒヨドリ	çu:sj̄
B 17 アカヒゲ	?akaçik
B 18 イソヒヨドリ	?iʃo:kugum。 ?iʃo: 潮干狩や釣りのこと
B 19 ウグイス	mjaʃikjo
B 20 セッカ	tʃintʃin セキレイかも知れない
B 21 サンコウチョウ	dina:gja:
B 22 メジロ	medziro。 sa:mīとは言わない
B 23 スズメ	jumudur
B 24 ルリカケス	?ju:ʃa:
B 25 ハシブトガラス	gara:sj̄
B 26 ニワトリ	tur。 kuga: (卵)
〔爬虫類〕	
R 2 トカゲ類	dinogirja
R 3 キノボリトカゲ	NR
R 4 ヘビ類	NR
R 5 リュウキュウアオヘビ	hë:p
R 6 ガラスヒバァ	NR
R 7 アカマタ	matta:p
R 8 ヒヤン	ça:n
R 9 ハブ	ha:p
R 10 ヒメハブ	kwa:dʒirja:k
R 11 カメ類	kamī:
〔両生類〕	
A 1 シリケンイモリ	sī:tmo:r
A 2 カエル類	biki

〔昆虫類・その他〕

I 1 チョウ (ガ)

I 2 セミ類

I 3 トンボ類

I 4 バッタ類

I 5 カマキリ類

I 7 ハチ類

スズメバチ

アシナガバチ

チビアシナガバチ

I 8 アリ類

I 9 ハエ類

I 11 クモ類

〔海産動物〕

S 1 カニ類

S 2 エビ類

S 3 ヤドカリ類

S 10 魚類

ウナギ

フナ

メダカ

〔植物〕

P 1 サトイモ

gaku:

tʃo:tʃo: habira ガ

ki:ja:

jamatobë

ro:ptʃo ro:ptʃoと唱えながら釣った

gata:

jumu:

NR

tiburubatʃi

hatʃitiburu

gajabatʃi

ʔaŋ

ʔë:

kimbë. ʔo:bë ギンパエ

kubu: 家の中にあるクモ

gaŋ

magaŋ 毛のあるカニで食べられる

ʔa:gaŋ 赤いカニ

kusagaŋ

ʔiʃogaŋ 海にいるカニ

hamma: 砂の中にあるカニ

gasama ガザミ

ʔi:p

taŋga (:)

sai

ʔamam

ʔuna:k

ko: ʔuna:k 川にいるウナギ

duru ʔuna:k 田圃にいるウナギ

ʔuna

taju:

ʔumu:

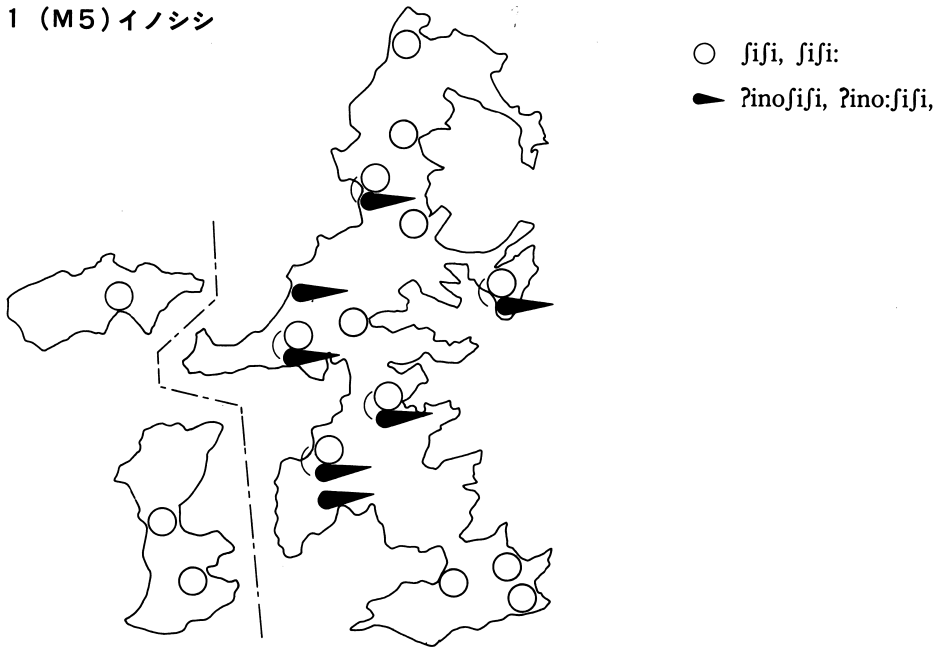
	クワズイモ	ta:ʔumu:	田圃に植える
P 2	サツマイモ	mudʒi	食べられる。触るとかゆくなる。
P 3	ヤマイモ	mudʒin fu:	茎のあえ物
P 4	木	baji	
P 5	草	hanu.sĩ	
P 6	竹	ko:fa	
	ホウライチク	kĩ:	
P 7	蔓	kusa	
P 8	イヌマキ	dë:	
P 9	イタジイ	k'imdʒe	生垣に使う
P 10	ソテツ	katra:	
P 11	マツ	kja:gĩ	
P 13	コメ	ʃi:gĩ。	ʃi: シイの実
	デイゴ	sĩti:ti。	nari ソテツの実
	ヤマモモ	matigi:	
	不明	kumi:。	ʔini: イネ
		dĩngĩ.	
		mumugĩ:	
		tĩngĩ:	

I 方言地図とその解説

先回行なった徳之島と比較すると、バリエーションが少ないという印象である。大きさという点では、なるほど、徳之島にゆずるとして、加計呂麻の地形は、山や入江が高く深く入りこみ、人の往来をはばむように見える。しかし、この自然現象は、方言の変異に、それほど差を与えていないようである。それでも、大きな加計呂麻と請・与路は、ある程度の差異を示す。徳之島における北部の金見・手々などを思わせる。加計呂麻の動物方言は、徳之島のそれに、概ね類似するが、ルリカケス、ウ、アジサシなど独特のものもある。共通語化の問題として興味あるところは、ブタ、ネコなどのように元々の方言を保つものが普通であるが、ネズミ、ヤモリのように変化してしまったものもあるし、メジロは、方言形の痕跡がかりうじて残っている。ツバメは、そろそろ変化を始めつつある。どういう理由で、原形を保ったり、変化してしまったり、しつつあったりするのかが、興味のあるところである。魚のことを沖縄の中南部の方言でʔju:といい、同じく北部でʔju:という。加計呂麻の魚は、沖縄北部のʔju:に較べ、ʔとjの間に、いくらかiの要素を残しているように観察された。犬のことを加計呂麻でʔin:といい、請・与路でʔin:という。奄美のiはエに対応するわけだから、或いはイヌに当たるのではなく、エヌに当たるのかもしれない。

方言地図の中の動物名および植物名のガジマルの表記は方言学専攻である野原の考えで行ったことを断っておく。

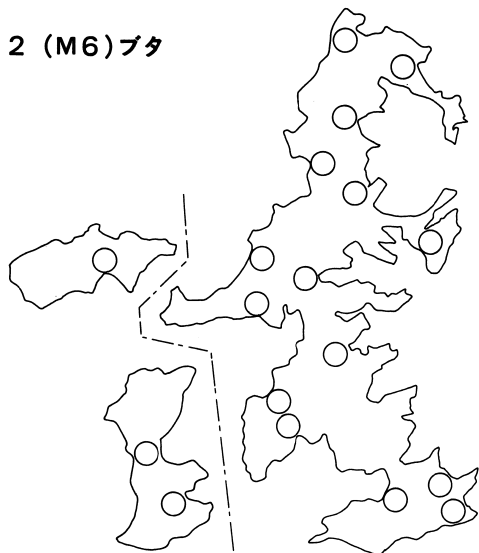
1 (M5) イノシシ



本来の形は○印のfifiのような形であるが、共通語のʔinofifiが入って来ている。須子茂・花富では、fifiが古くʔinofifiは新しいという意識がある。知之浦・押角・佐知克ではそういう意

識は無く、両方使う。西阿室・秋徳では、昔から ?inojifi などの形とのことである。これら7個所の地域は、だいたい加計呂麻島のまんなか辺りであるが、この地域で、共通語化が進行しつつあると見ることができる。

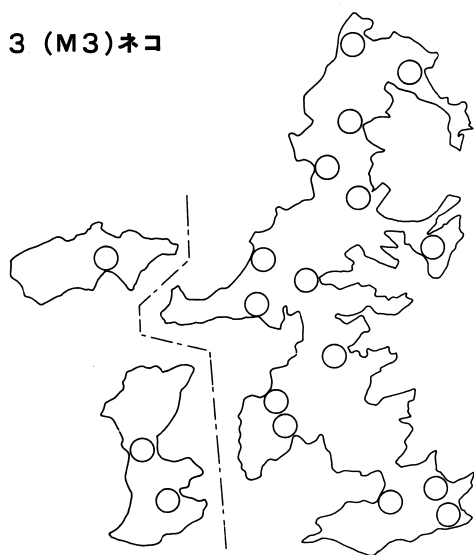
2 (M6)ブタ



○ ?wa:, ?wa

調査した18個所すべて○印である。押角・池地で?wa と短いが、あとは総て?wa: と長くなる。ほぼ変異の無いタイプである。南島の生活では、蛋白源・換金物・肥料にと無くてはならない動物だから、どの部落で誰に聞いても、すぐ答えが得られる。こういうところが、違いの出来にくい、他語の侵入を許さない理由なのであろうか。

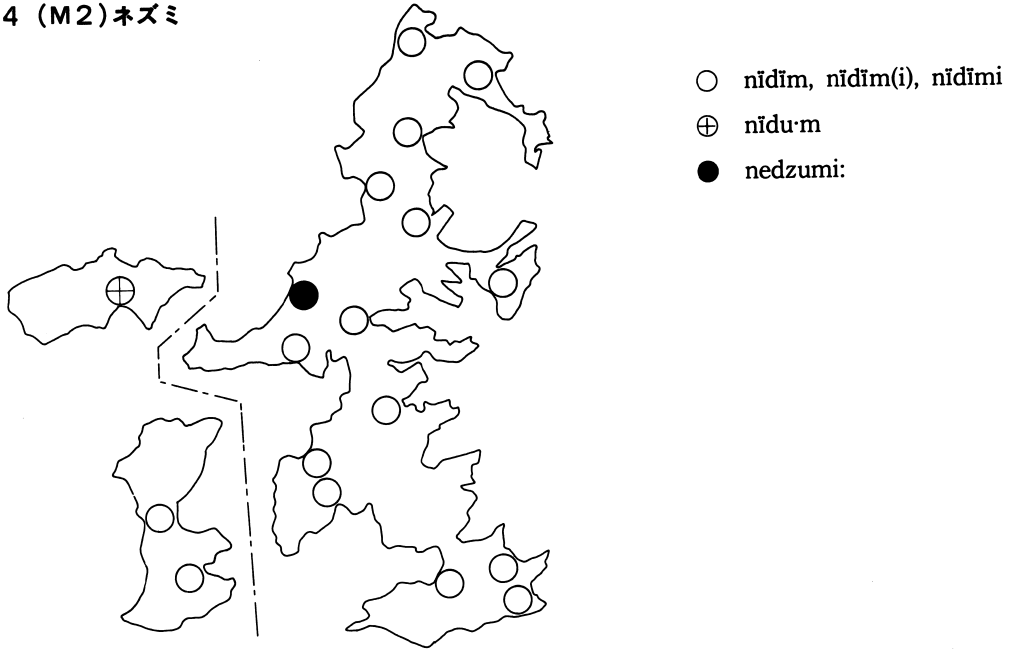
3 (M3)ネコ



○ mja:, mja

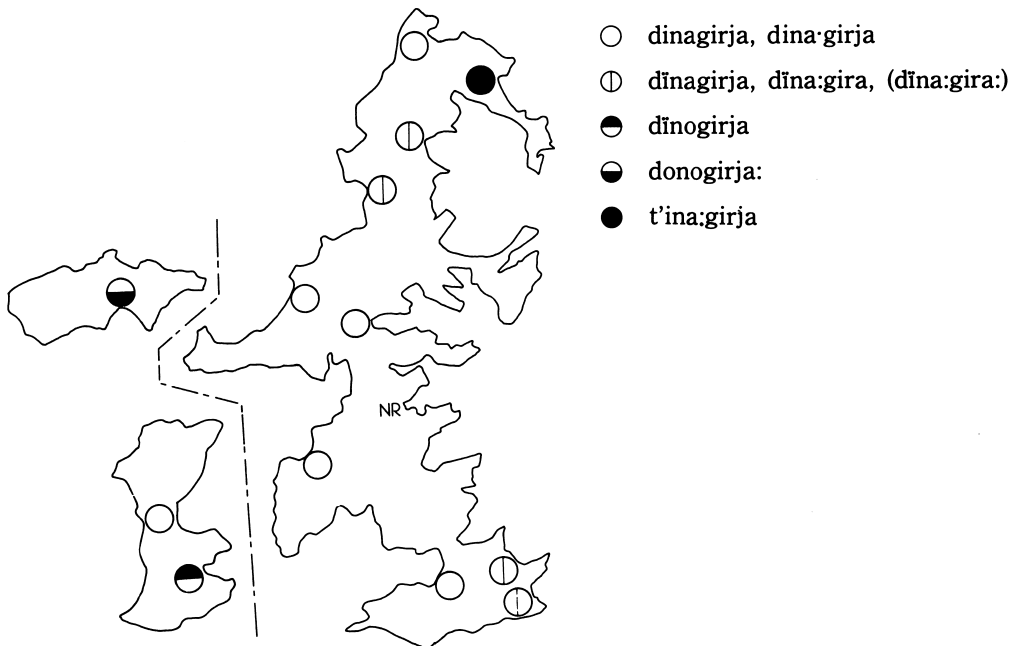
瀬相でmjaと短い、あとは総てmja:である。ネコの地図も不変化型の典型である。

4 (M2)ネズミ



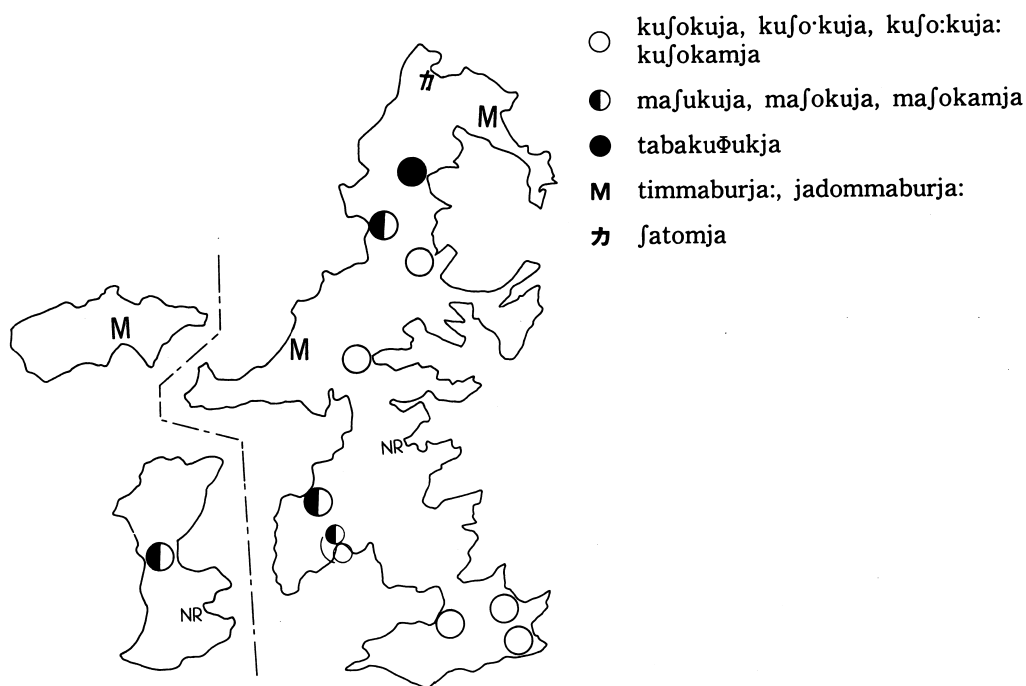
この地図も不変型といってよい。そのうち与路は *nīdum* と小異を示す。西阿室は共通語の影響で *nedzumi:* である。他は総て○印である。この共通語ネズミに起因するらしい形も本来のかたちでは無く、もともとの形に打ち勝って勢力伸張したものと思われる。

5 (R2)トカゲ類



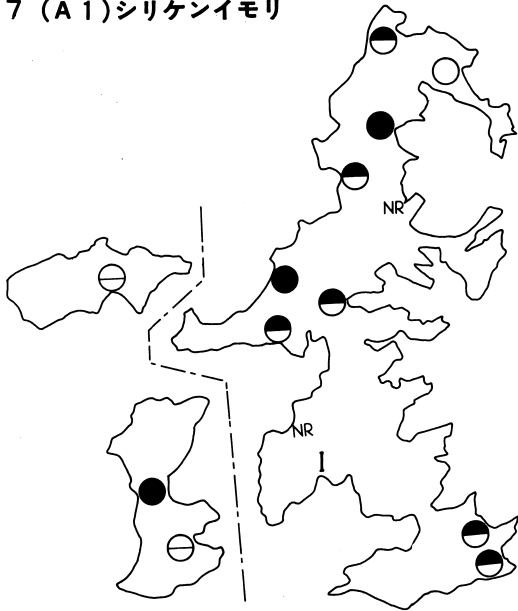
単語の頭にt'音がある点、芝は他の総ての地点と異なっている。語幹部分にo母音が現われるのは請阿室と与路である。接尾辞を見ると、東端の渡連・安脚場が-giraで、他の-girjaと対立している。東西の端とか請・与路に変わった形があるといえる。加計呂麻のトカゲはみな同系で「尾切れ+ア」に由来するように思われる。ただし、一緒に扱ったが、瀬相はヤモリのこと、渡連は鳥の名前かもしれないとのことであった。瀬相のそれは類似動物であるし、渡連のも混淆を起こしたものと見て、ひとまず本地図にまとめてみた。

6 (R3)キノボリトカゲ



徳之島ではそうでもなかったが、南島では、子供の遊びに起因する名称が多い。加計呂麻の命名のしかたも、この小動物に、唐がらし・塩・煙草などを口に突っ込んで、もがき苦しむのを見て遊ぶのに由来している。丸系統のは、そういうものの類である。Mは形態的な特徴や住んでいる場所に起因している。天や家を守るということらしい。天を守るというのは、この小動物のしぎまを見るに、なるほどと思われる命名であるが、家を守るというのは、ヤモリとの混淆を思わしめる。秋徳もトカゲとのことであるが、混淆の可能性があるので、ひとまずまとめて図に載せる。島の西端の実久のfatomjaは、カマキリと類縁性のある命名なので、注意を引くところである。さて地図は、丸系統が優勢で、M系が端の方に付いているというところである。変わった形は、端の方に多いと、ここでも言うことができそうである。

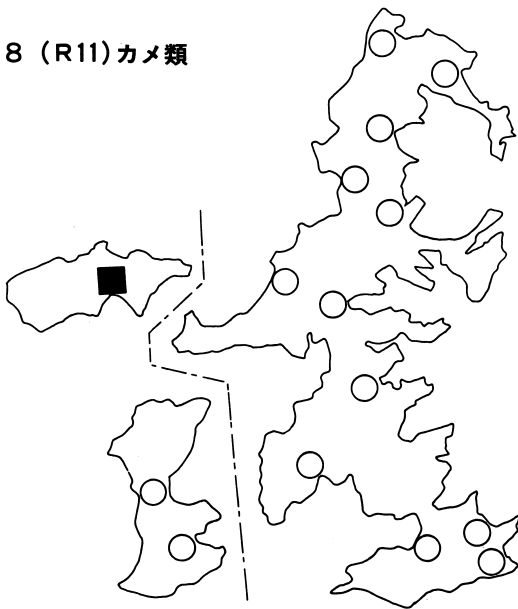
7 (A1) シリケンイモリ



- sodumor, so:domori, so:dīmori
- ◐ so:tumuri, so:tīmura, sotsumura
sītumor(i), sītimo:r, sītimo:r
- ⊖ sotmo:r, sī:tmor
- sīmo:r
- I imori

生息場所から考えて「清水守り」に由来する形で、沖縄とも共通である。シミズ（或いはシヨーズ）のズに当たる子音に重きを置いて分類してみる。●はd音を保って最も古い。2番目は◐でtu, tī, tsu, tiなどtに母音が付くもの、⊖は3番目でtの次の母音が落ちるもの。4番目は○で、⊖で述べた子音も落ちるものである。秋徳のIは共通語が侵入したものである。図7を見ると変化の激しい形は、周辺部にあると言えそうである。

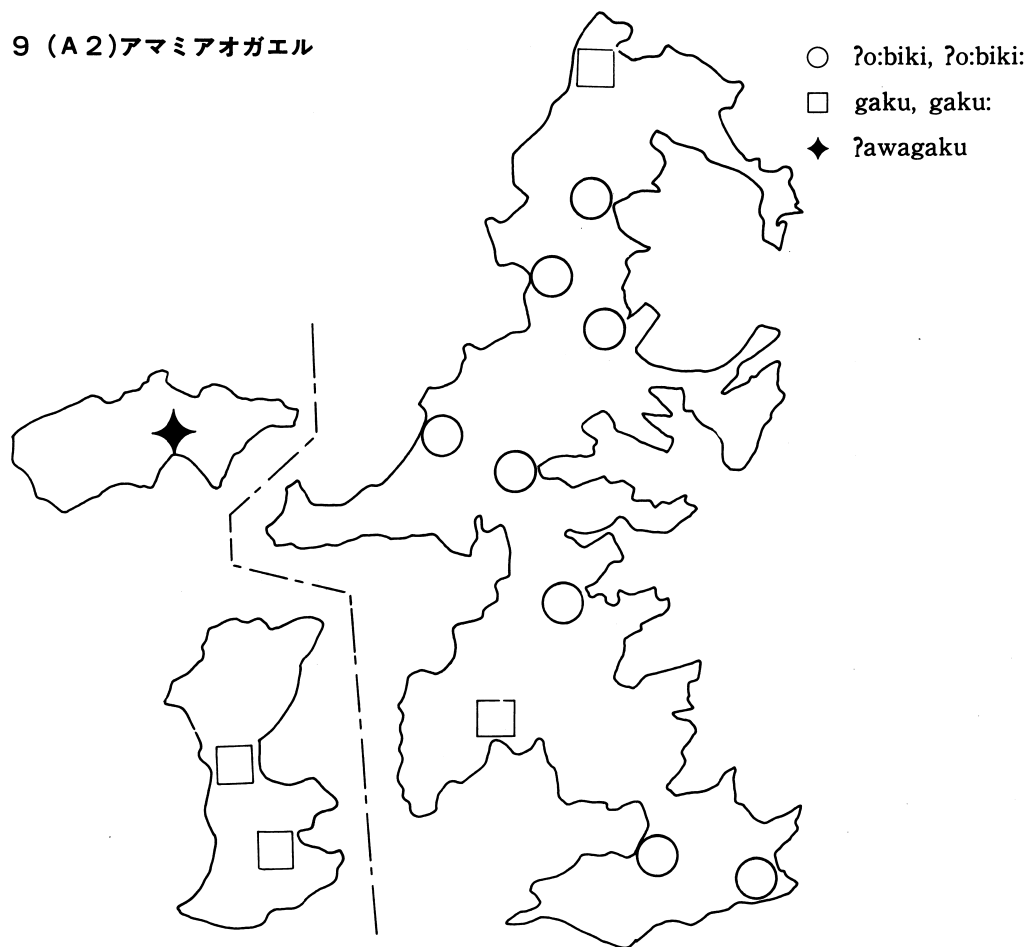
8 (R11) カメ類



- kami, kami:, kami:
- kauī

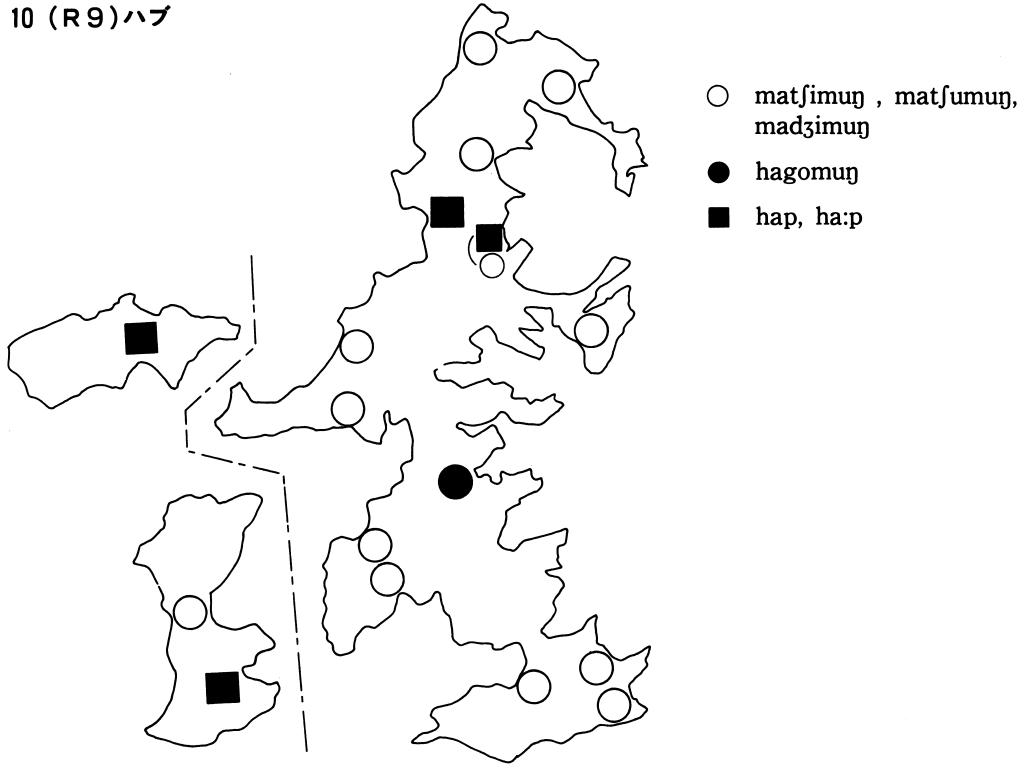
与路以外は、総て○印のkamiのような形である。与路のkaiは随分変わった形のようにあるが、音韻変化の結果出来た形である。従って、加計呂麻の方言形は、総てカメに遡る。地図は、独特な音韻変化をした与路だけが際立ったものになっている。

9 (A2)アミアアオガエル



普通の小さいカエルは、加計呂麻では、ほぼ共通でbikiと言い、大きいカエルもʔatari bikiのような言い方が多い。ここで扱うのは、それ以外のアオガエルで、それには、大体3通りの言い方がある。○印は、ʔo:bikiのような言い方で、色彩に由来する名称である。これが中心で、その周囲に□印のgakuなどが分布しているように見える。与路のʔawagakuは、変わった形であるが、前のʔawaは、アマ(雨)の変化したもののようなものである(類似の変化はカメのところにも見られる)。ʔo:bikiは青ガエルの意だから、前接部分は、青と雨の意ということになる。後接のbiki, gakuなどは、カエルの意である。ガクは恐らくカエルの鳴き声に由来する命名である。やはり周辺部分に、変わった形が分布するといえる地図である。

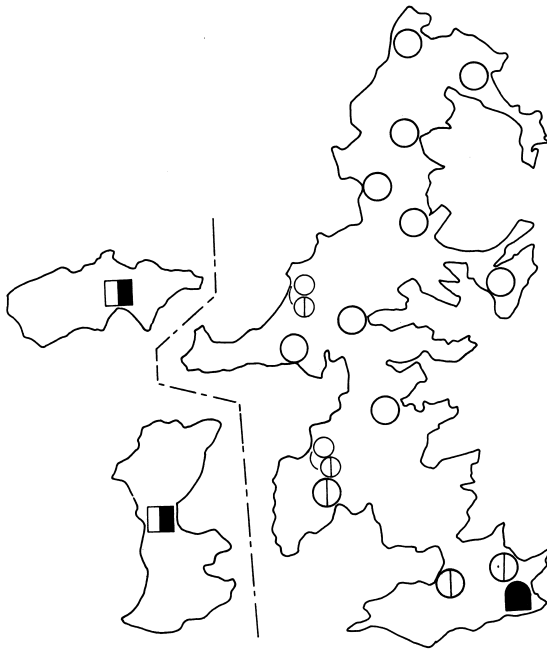
10 (R9)ハブ



毒蛇ハブの名称は○、●、■の3種を載せた。○印とhabuの併用のところが5箇所あるが、そのうち、瀬武と花徳でhabuは新しい言い方で、昔はmatfimuŋだったという情報があったので、他の3箇所も、これにならって、地図に載せなかった。瀬相は併用ではなくhabuしか得られなかったの、これも載せない。武名はhapという形なので○印と両方載せる。与路にはhap以外にもbë:という古そうな形もある。matfimuŋなどの○もhagomuŋなどの●も、直接そのものを指す言い方を避けたために出来た言い方だから、ハブを指す名称としては、新しいものである。habuは新しい形であろうが、■印、hapなどは古いものかもしれない。加計呂麻のハブの語史は、本来hapのような言い方のところへ、それを避けるために、○、●が発生伸張し、hapの勢力の衰えたところへ、余所からhabuが入って来たところである。そのさいhabuは、hapに類似するため、入りやすいであろう。

加計呂麻には、共通語のへびに当たる、即ち、蛇の総称としてのmufiという言い方がある。琉球方言の中では特徴的のように思われる。宮良当社の「日本方言集編」(『全集』1巻p455～6)などを見ると、このような例は指宿、五島、対馬、壱岐、青森などにある。このような周辺地域だけでは無く、考えてみるとマムシも真虫であろうから、昔は中央でもムシと言ったわけである。ともかく、加計呂麻の蛇の総称mufiは、沖縄には、そういう言い方は無いのだから、九州から入って来たものと考えてよからう。ついでに言うと、琉球の蛇の方言は、6種なら6種と、和名に当たる形があるので、ハブに当たる形だけを聞くと、当を得ないものになるかもしれない。

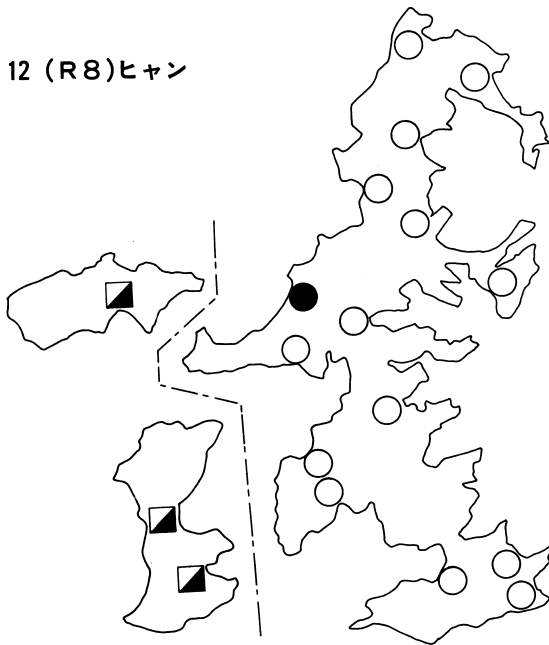
11 (R6) ガラスヒバー



- gara:sīp, gara:sup, garasup
- ① gara:subi, garasībi
- gara:sīçip
- ▣ çip, hē:p

加計呂麻東端の安脚場のgara:sīçipが最も古い形でガラスへビに由来する形であろう。最後のへビに当たるところが、p, biなどになっているのが優勢な形で、だいたい、西側に○印のp、東側に①印のbi系が分布している。請・与路の形は、前接ガラスに当たる部分が落ちた形か、ならば、もっとも新しいことになる。

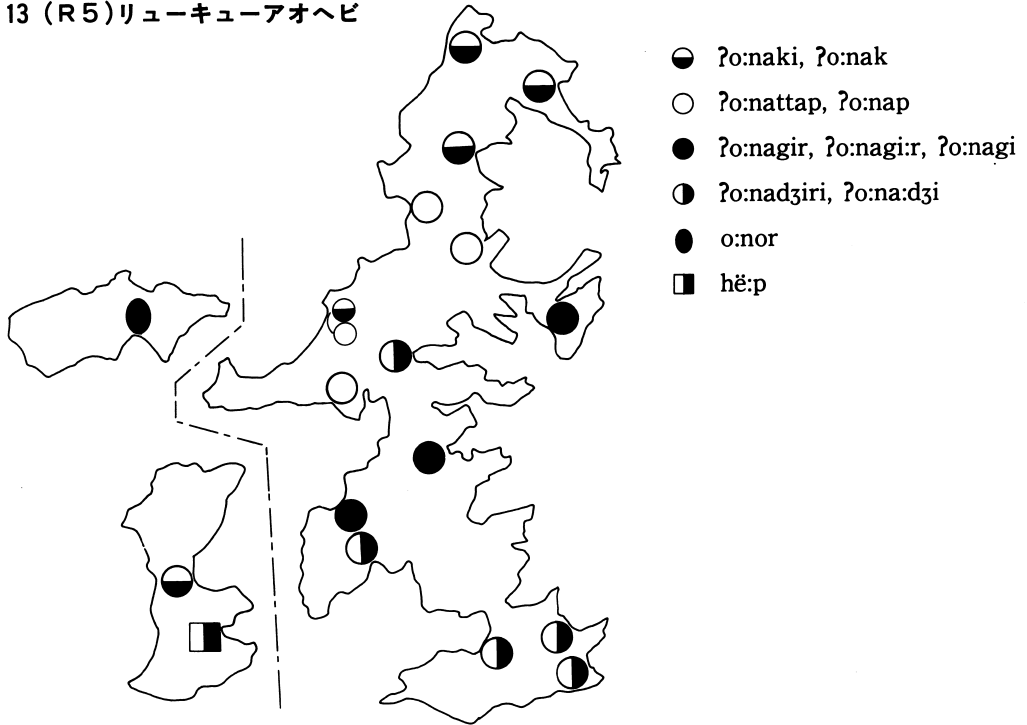
12 (R8) ヒャン



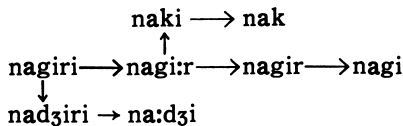
- ça:çaŋ
- ça:çabu, ça:çari
- ▣ çaŋ, ça:ŋ

çanはça:çanの前の部分が落ちた形とすれば、請・与路は、新しいことになる。しかし、徳之島の例から、逆にçanの方が原の形に近い可能性もある。すると、ça:çanは頭の部分の重複した形で、新しいことになりそうである。çanの語源は、日照りや針などに関係あるであろうか。よく分からないところである。西阿室のça:çabuはハブと混淆を起こしたようにも思われるが、ça:çariのçariの部分は、徳之島の例から考えると古そうにも思われる。

13 (R5)リューキューアオヘビ



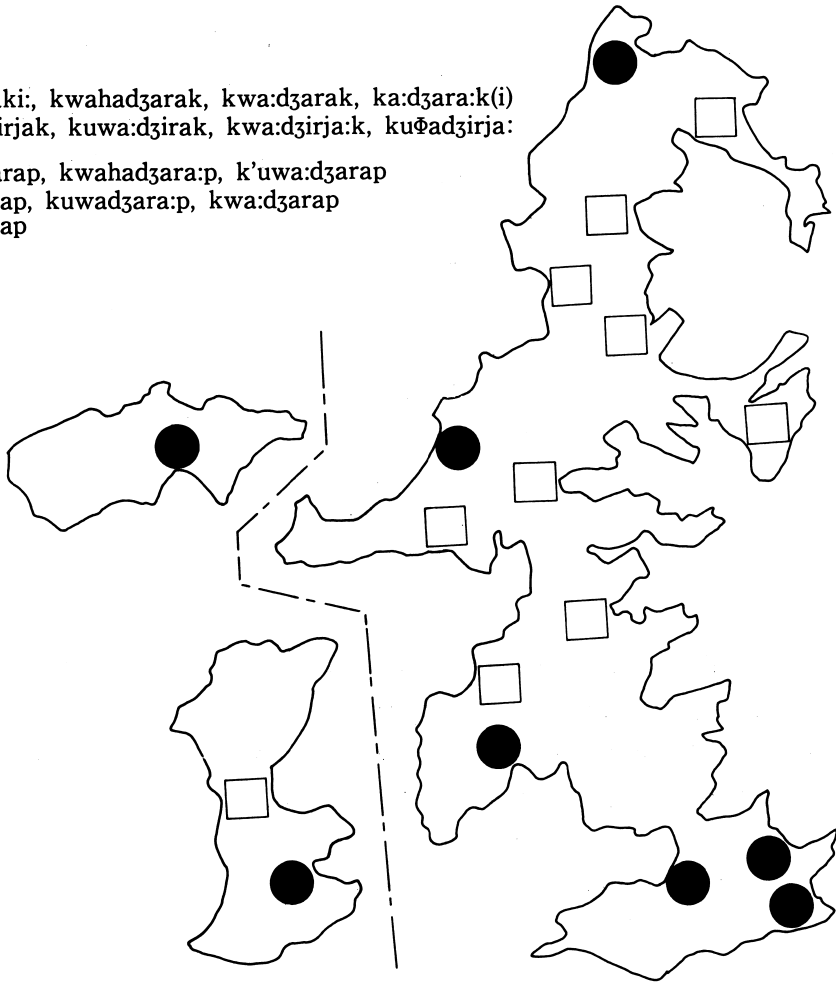
請阿室のhë:pは、同地点のガラスヒバーのçipと共に、へビから派生した語であろう。他の地域の語の?o:~o:は、このへビの青い色による命名である。後接部の総ての形は、nagiriから変化していったものと思われる。この形は、蛇の古称ノガに関係あるものであろうか。これら接尾部分の変化過程は、



というような所であろうか。与路のnorも、これらの形の変化形であろう。徳之島でnugja, nudzaのようにnuを保っていたが、加計呂麻はnaになっている。島しょ的な変化した形ということなのだろうか。nattapは、アカマタとの共通認識のようであり、napは、その変化と考えられる。地図をみると、請・与路は独特な形であり、丸型も東端・真中・西端とそれぞれ、まとまって分布している。○印も真中よりに分布している。

14 (R10)ヒメハブ

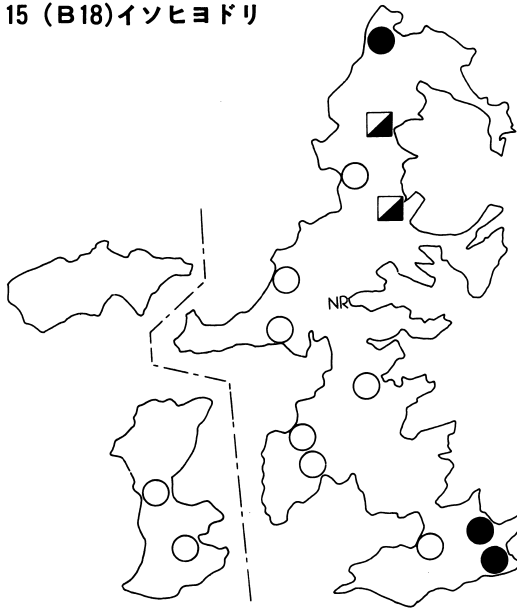
- kawadaraki:, kwahad3arak, kwa:d3arak, ka:d3ara:k(i)
kwaha:d3irjak, kuwa:d3irak, kwa:d3irja:k, kuφad3irja:
kwahad3arap, kwahad3ara:p, k'uwa:d3arap
- kuwad3arap, kuwad3ara:p, kwa:d3arap
kawad3arap



語末がp音か、k音等かで分類してみると、大体ABA分布のように見えてくる。すると、k音等が古いことになるのであろう。渡連はkuφad3irja:と云い、語末にpもkもないが、kの場合、その前の形がd3ir(j)a:という例があること、しかも、渡連の周囲に、その例があることなどから、kが落ちたものと解釈して●印に入れた。なお、西阿室は●印であるが、これ以外にもkawad3araという形もあるが、地図にはとらなかった。□対●が、ヘビ系統とノガ系統の衝突と見るなら、ノガの方が古いということになる分けである。kwahad3araなどの部分は、徳之島のヒメハブの方言と通ずる。生態に関係ある名称かと思われるが、詳細はわからない。

ついでに述べると、アカマタは、大体mattapのような形で、単一型といってよい。恐らく、最後のpはヘビを表しているものと思われる。沖縄のアカマターとは、アカ(赤)を除いた部分が似ているから、みな繋がりのある形である。

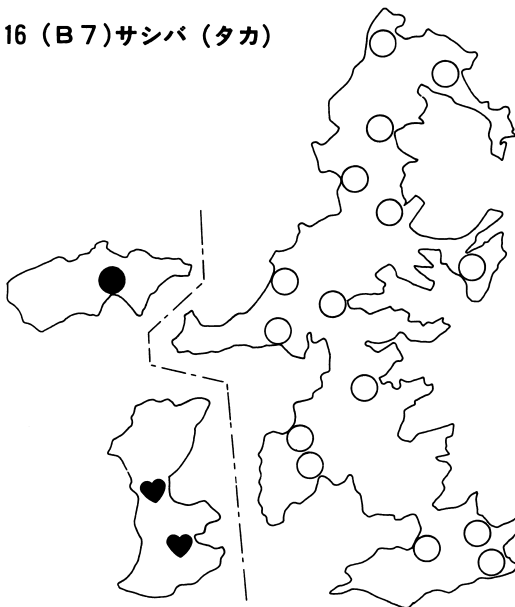
15 (B18) イソヒヨドリ



- ?ifo:sigum , ?iso:sikum , ?isosukum
- ?ifo:kugum , ?ifokugum , ?ifokugun
 ?ifokukum , ?ifikugum
- ?ifo:tigum , ?ifo:t'igu

イソヒヨドリの方言名の最初の部分 ?ifo , ?iso などは、この鳥の生息場所から考えて、磯のことと思われる。 ?ifi が 1 例あるが、 ?ifo が何かの類推で変わったものかもしれない。地図は ?ifo の次位の形に重きを置いて分類したものである。これによれば、東西端に●印があり、■印も音韻変化の面では、近い関係にあると考えられるから、ますます、こちらの方が、○印より古いと解釈できそうである。徳之島の方も丸・四角に関連ある形が多く分布している。しかも、摩擦音 s と破裂音 t の橋渡しをしそうな破擦音が見られる。

16 (B7) サシバ (タカ)

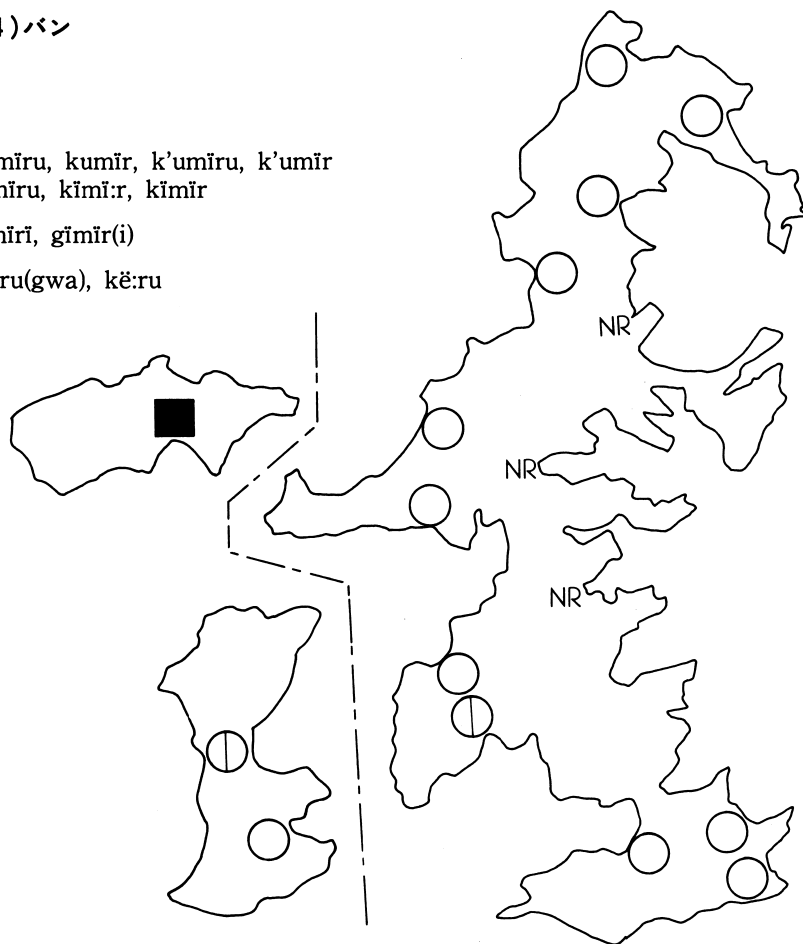


- taka
- taha
- ♥ ta:

本図は *taka* の *k* 音の消長を示している。与路が *k* 音を保って、もっとも古く、加計呂 麻島は、全部 *k* 音が *h* 音に変わっており、請島は *k* 音が無くなって、もっとも変化した形である。三つの各島が、それぞれ同形を保つという興味ある地図である。徳之島の場合、最北端に古形があったが、請・与路は新古両様ということになる。

17 (B4) バン

- *kumīru*, *kumīr*, *k'umīru*, *k'umīr*
kīmīru, *kīmī:r*, *kīmīr*
- ① *gīmīrī*, *gīmīr(i)*
- *ku:ru(gwa)*, *kē:ru*



丸印はバンを *kumīru* のように言うか、*gīmīrī* のように言うか、即ち、語頭の無声・有聲の関係を見たもの。①は秋徳と池地にあるわけである。海を隔てて、いわば対岸ということで、方言の類似性が考えられそうであるが、あまり認められない。この地図は、数少ないうちの例である。与路の *ku:ru* などは、随分、変わった形で、特異性を主張している。しかし、出自は *kumīru* の *m* が *u* に変化した結果できたもので、新しい形である(地図8 カメなど参照)。*gīmīrī* の *g* も、*k* の強い無気音のために出来たものであろう。したがって、○→①→■の順に変化したものである。ちなみに、上の語形の一拍めの母音に注目して地図を見ると、島の東側に中舌母音が集まるということになって、西側と対立することになる。

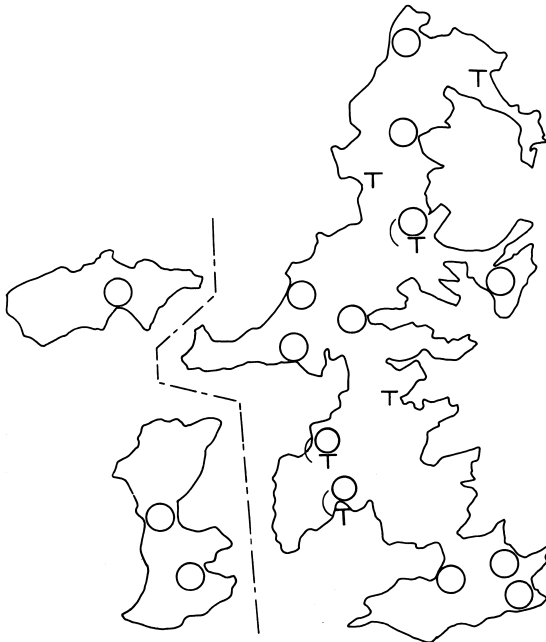
18 (B6)(アマミ)ヤマシギ



○ fi:gja, fi:gja:

鳥類の単一型の例である。この語に関して、ほとんど差異はない。

19 (B14)ツバメ



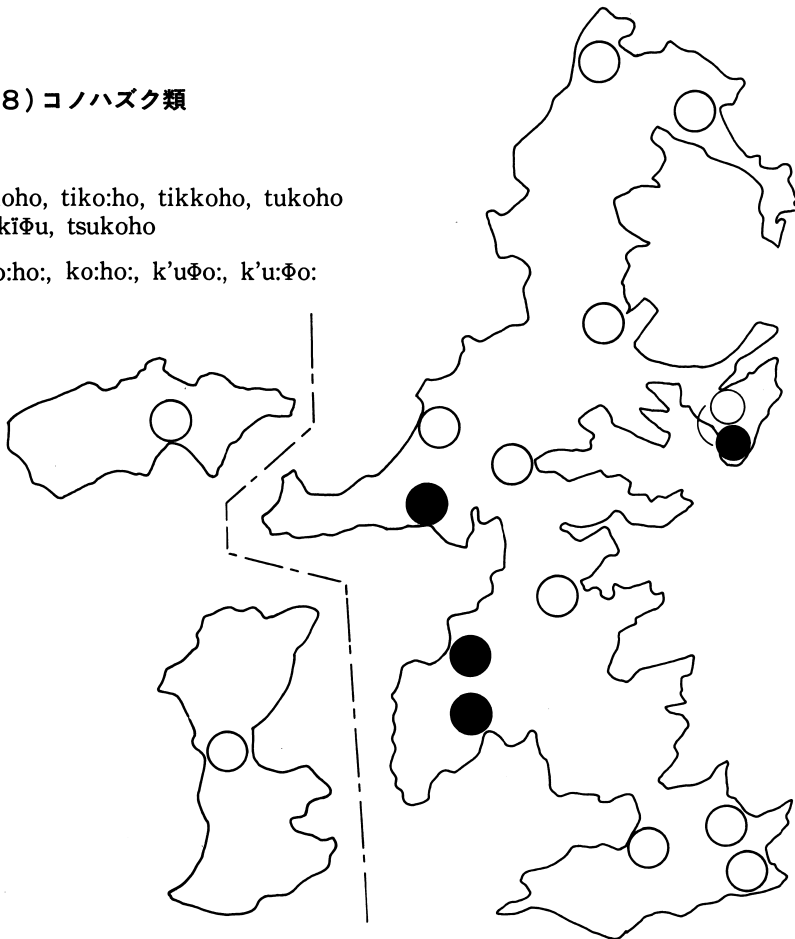
○ matagarasu, mata:garasu,
matagara:su
matagaras, matagaras̄

T tsubame

○印のmatagarasuのところへ、共通語のtsubameが侵入しつつある図である。佐知克・秋徳の話者は、前者が昔の言い方、後者は、今の言い方と変遷を語っていた。武名では、人によりtsubameであったり、matagarasuであったりする。芝・須子茂・押角では、tsubameになってしまっている。ツバメをmatagarasuというのは、だいたい、徳之島とも共通である。15世紀初めの資料である『琉球館訳語』に「麻達喇哀玆」とあり、マタアラツと読めるようであるが、加計呂麻のそれに、極めて類似した形である。沖縄では、マッター（あるいはマッテラー）と言うから、変化してしまったわけであり、徳之島・加計呂麻の方に古い形が残ったことになる。

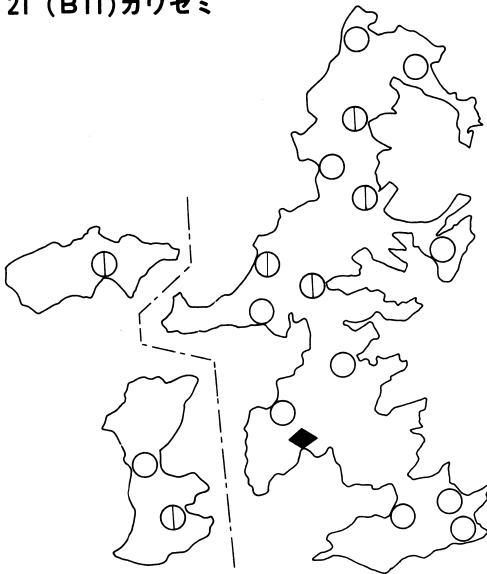
20 (B8) コノハズク類

- tikoho, tiko:ho, tikkoho, tukoho
tsikīΦu, tsukoho
- k'o:ho:, ko:ho:, k'uΦo:, k'u:Φo:



この種の鳥名を聞くと、mja:tikohoとmja:の付くのと、付かないのがでる。この図はmja:の付かないものの方である。恐らく、これらの語は、鳴き声による命名であろう。語頭に t (あるいはts) 音があるのと、落ちたものを見る地図であるが、後者は知之浦にもあるが、加計呂麻の中央の南側に3個所まとまって分布している。勿論●のほうが新しい。

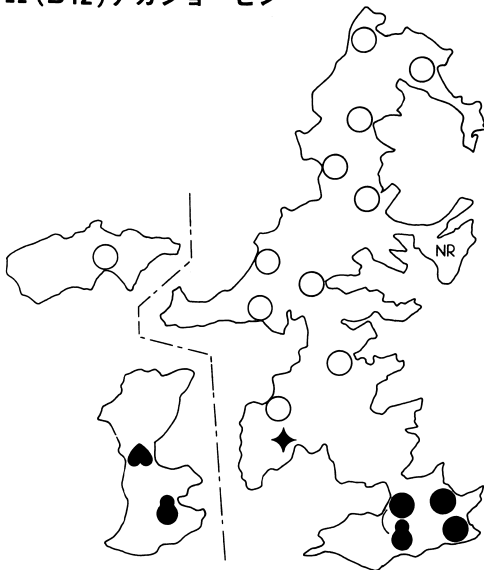
21 (B11)カワセミ



- kamduri, kamdu:r(i),
kamdū:r, kamdur(i)
kamdur, kamdurggwa,
kanduri, kamīdur
- ⊖ kamd3ori, kamd3o:ri,
kamd3or(u)
kamid3ori
- ◆ ko:gaŋ

本種の方言形は、カミドリ（神鳥）に由来する名称と思われる。鮮やかなヒスイ色という形態的特徴からか、神に関係ある名称が与えられるらしい。秋徳のko:gaŋは、カワカミ（川神）に由来する形である。他と異なる形であるが、命名の心意は同じである。秋徳以外は似ているが、3拍目のduかd3oかは、はっきり分かれるようである。トリに由来するなら、o母音を保持の方が古いし、破裂音のdか破擦音のd3は、前者の方が古い。しかし、分布は入り乱れていて、なんともいえない。芝・渡連はカワセミと明確には言えないが、ひとまず一緒に扱う。

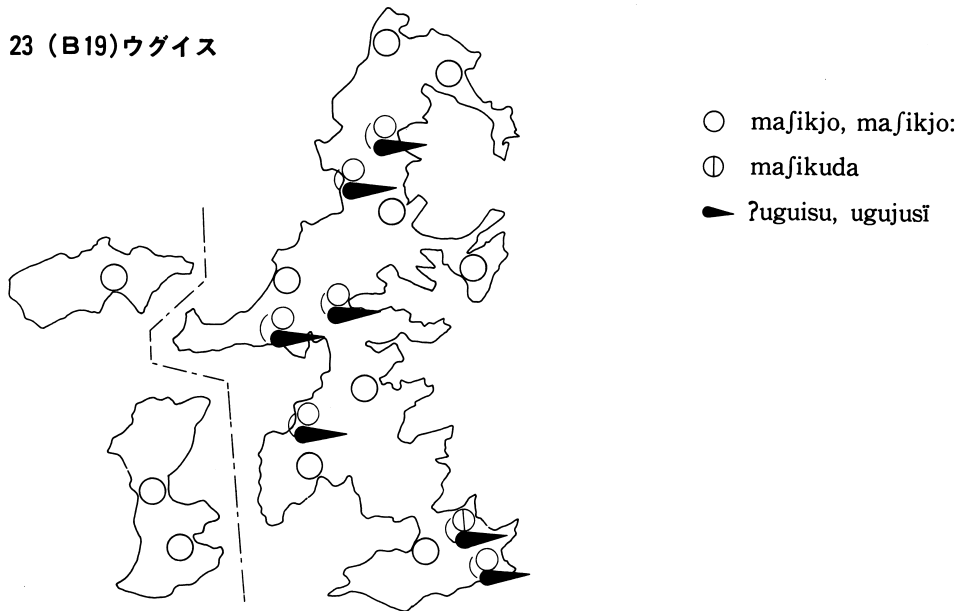
22 (B12)アカショービン



- kukaru, kukkaru, kukkaro:
kukkjaru, k'ukkjaru,
kukkja:ru, kukja:ru
- k'uΦa:ru, kuΦa:ru:, kwaha:ru:
- ⊖ kuwaru, kwa:ru
- ▲ kjokkjero:
- ◆ ?itʃugahaŋ

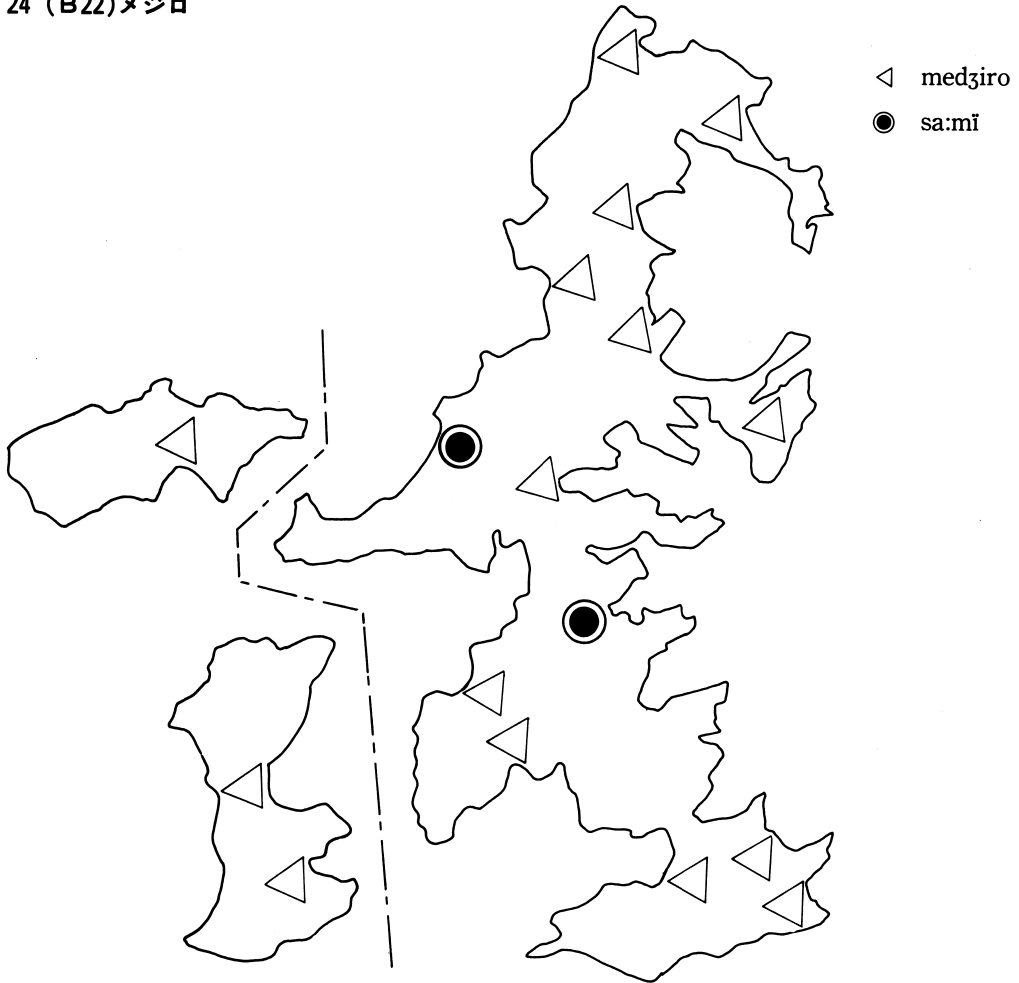
kukaru, kukkjaruのように、2拍めにk音を保つものが、もっとも古く、続いて●のh音に変わったもの、もっとも新しいのは、●の半母音・母音になってしまったものである。地図によれば、東端の方が新しいことを示している。諸鈍はh音と半母音wが併存で、新しくなりつつあるのを物語っているようである。池地のkjokkjoro:は、鳴声からの名称と思われるが、分布を見ると○系のところに類似した、この形が生まれたように思われる。或いは、○系そのものが、鳴声に由来する形なのかもしれない。秋徳の?itʃugahaŋは、特異なものである。民間語源によれば、?itʃuには、美しいという意があるとのことである。

23 (B19)ウグイス



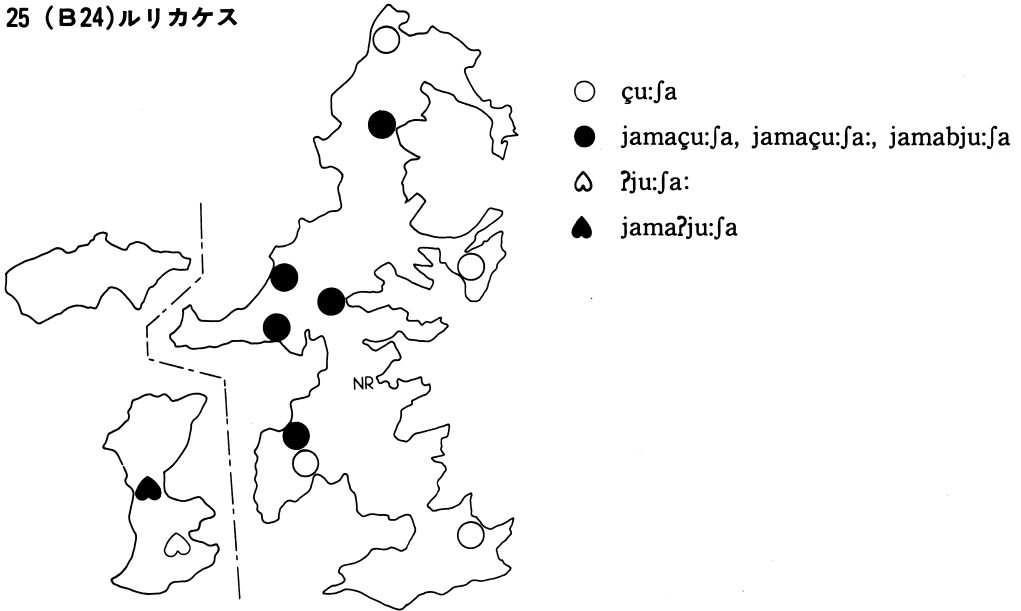
ウグイスのことを本来マシキョのような言い方をしている所に、共通語のウグイスが入って来て、語の分裂が起こった。本来からの言葉であるマシキョの方は、チャッチャッと鳴く幼鳥（と仮に呼ぶ）を指すようになり、ホーホケキョと鳴く成鳥（と仮に呼ぶ）をウグイスというようになった。目立つ鳴き方の方を共通語に奪われて行くのは、言語の強弱関係なのだろう。この関係が進むとチャッチャッと鳴く頃も、ホーホケキョと鳴く頃も、マシキョ・ウグイスの両方を使うようになる。武名・諸鈍のマシキョは幼鳥のことで、成鳥の名が欠けているところ、須子茂のウグイスは幼鳥のことと言うのは、混乱が起こったのであろう。徳之島北部でメジロのことをmasiki:dʒa（与名間）、masikjura（平土野）という。語の解釈に困ったが、加計呂麻調査後、また別の考え方が出来そうなので、一つの考えを述べておく。加計呂麻の渡連のmafikudaは、多くの例のmafikjoと同類と考えてよいであろう。そのmafikudaは、徳之島の平土野のmasikjuraと、よく似た形である。そこで平土野の例は、加計呂麻から海道を伝わって行ったものではないかと思うわけである。平土野の北の浅間には、薩隅方言のハナスイ（目白）が入っているし、平土野港の人の往来は、語の伝播の役をはたしていると思てよいのではないかと思う。

24 (B22)メジロ



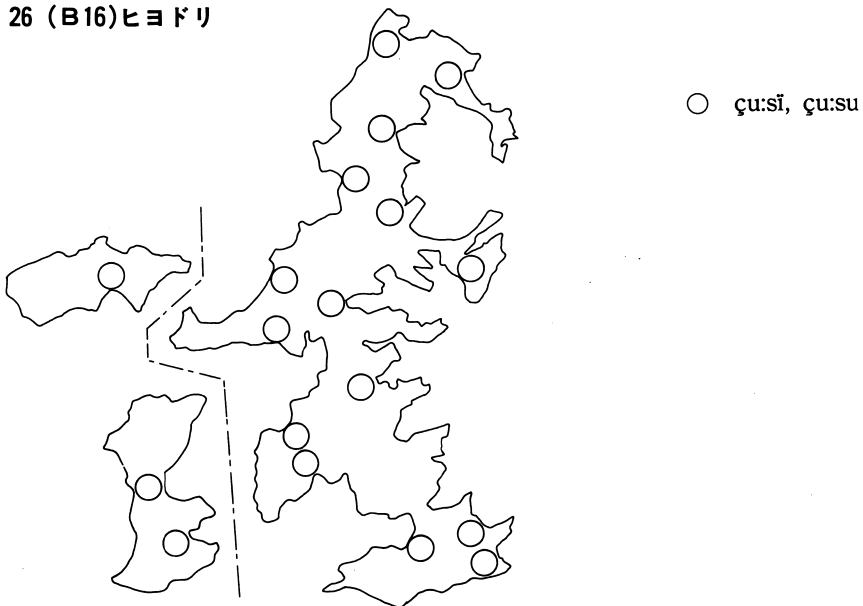
加計呂麻の本来のメジロの方言形は、共通語のメジロという形に、ほぼ占領されたといっ
てよい。もともとの形sa:mī が直ちに出たのは、西阿室と押角の2個所だけである。西阿室の話
者のなかには、この言葉は誰も知らないだろうと言って、別の形sa:mī:を教えてくれた。メジ
ロの方言形を聞くとき「sa:mīというのを聞いたことはありませんか」と誘導の質問をしたが、
結果は、あまりよくなく、次の5個所で痕跡を得るにとどまった。実久では、昔おじいさん達
がsa:mikagoと言っていたが、どういう鳥を入れたのかは分からない。須子茂では、聞いたこ
とがあるような気がするが、はっきりしない。武名は、昔の人はそう言っていたと聞いたこと
がある。秋徳は、昔おとなが使っていた。池地は、生きていれば、120歳くらいになる、おば
あさんがsa:miggwaと言っていた気がするというようなことであった。宮良当杜の「日本方
言彙編」(全集1巻p395)にサミュグッが見える。加計呂麻の実久か諸鈍のようであるが、
場所ははっきりしない。今は消えているが、宮良が調査したときは、本来の形があった分けで
ある。

25 (B24)ルリカケス



加計呂麻の本来の形は ɕu:fa で、請島では ʔju:fa であろう。池地のそのの意味は、山の陞である。姿は美しいが鳴き声は醜いという言葉がルリカケスを良く物語っている。jama (山)が付くのは生息場所のためである。分布は、だいたい○が両端に●が中央一帯というところである。26図は、単一型で大体 ɕu:sĩ である。ルリカケスの ɕu:fa と実によく似ている。大まかにいうと、末尾の sĩ と fa で両者を区別している。このことは、近い範疇として捉えていると考えてよいだろう。

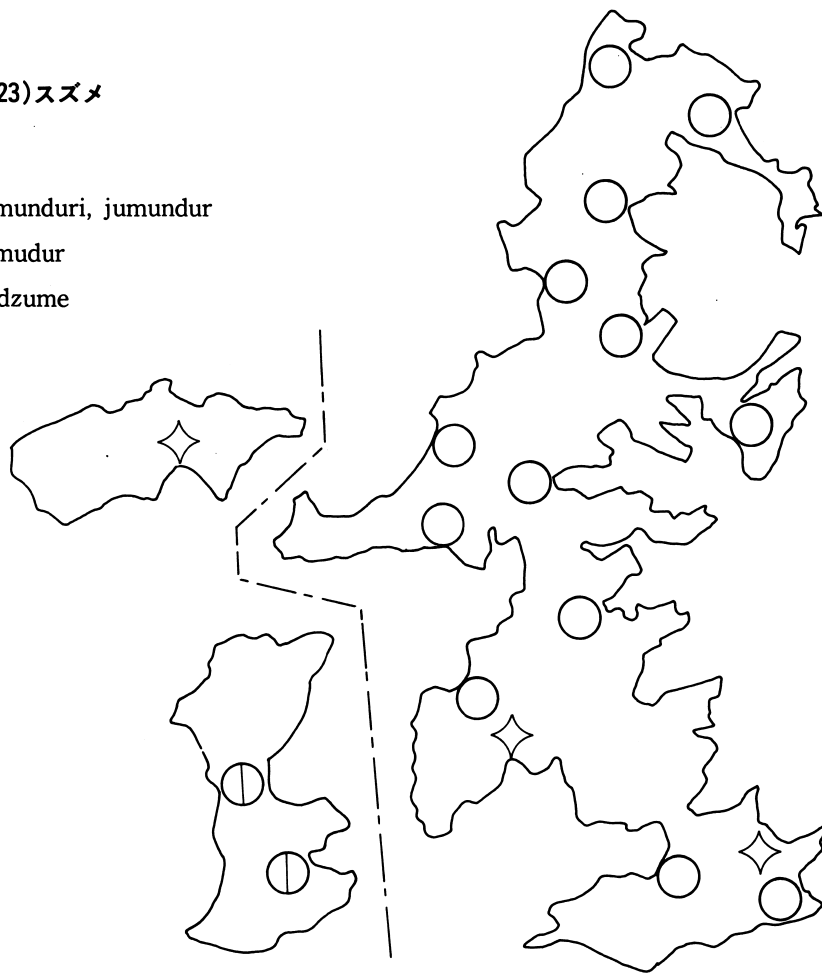
26 (B16)ヒヨドリ



大体 *cu:si* のような言いかたで単一型である。メジロのように、本来の形を急速に失いつつある一方、本形のように、いっこうに共通語化しないものもある。ルリカケスのように大島独特のものならともかく、ヒヨドリという共通語があり、比較的良好に知られている語であるにもかかわらず、侵入を受けず、本来の形を保つものもある。共通語化される、されないに、どういう傾向があるのか。語によって決まるのであって、一般的な傾向は無いのであろうか、よく分からないところである。

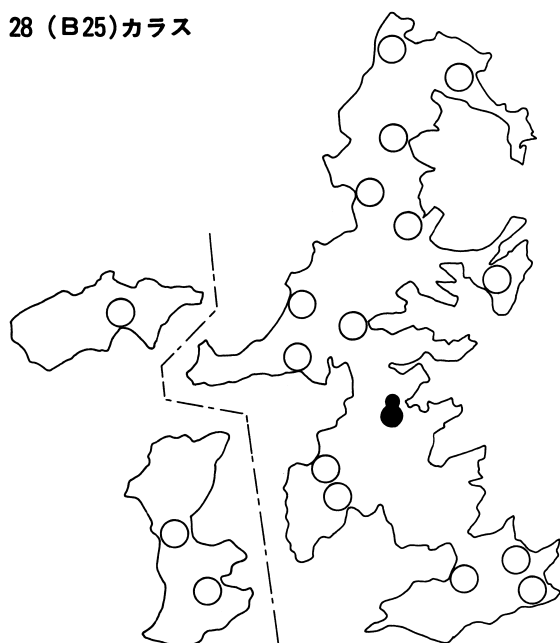
27 (B23)スズメ

- jumunduri, jumundur
- ① jumudur
- ◇ sudzume



与路・秋徳・渡連に共通語の *sudzume* が侵入して来ているが、渡連では、まだ話者の母の時代に *jumundur* と言っていたことを記憶している。共通語の影響で出来た3個所を除くと、ほぼ、みな同じ形である。加計呂麻が *jumundur* と3拍めに *n* 音があるのに対して、請島の方は、それが無いというくらいの違いしかない。これらは徳之島の *jundura* などという形と同形であり、従って、語源も同じく〈よも鳥〉に由来すると考えられる。

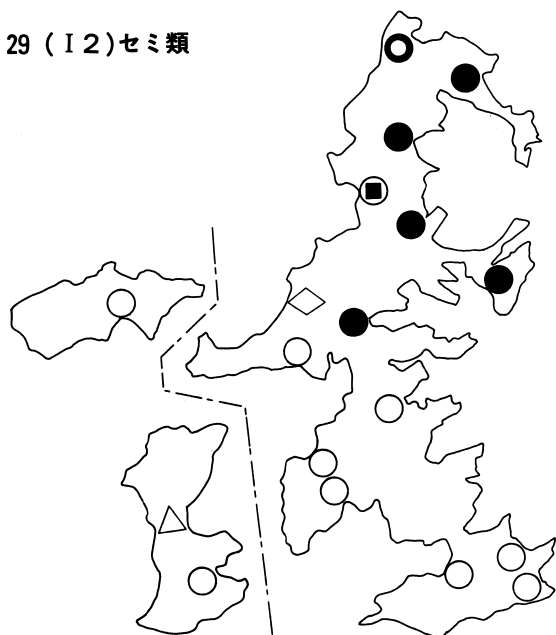
28 (B25)カラス



- gara:su, garasu, gara:sī, garasī
- garakkē

ほぼ、同じ語であるが、1個所押角だけがgarakkēと変わった形である。ただし、頭の部分のgaraは共通で、別のものではないから、新しく派生した形ではあるらしい。

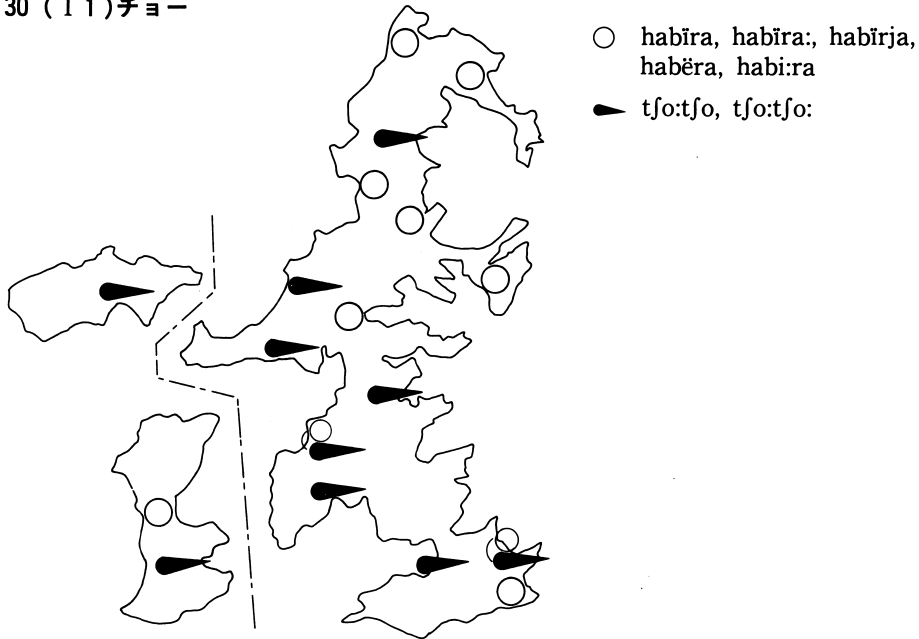
29 (I2)セミ類



- k'i:ja, k'i:ja:, ki:ja:, k'i:rja
- kju:wa
- gi:ja, gi:ja:, gi:gja
- gjafi
- ◇ ?asa:sa
- △ ?amagak

セミの名称を18個所で聞いた。加計呂麻には、セミが4～5種類は、いるはずだが、その名称は、13個所で1種、4個所で2種、1個所で3種だった。この傾向は、徳之島も似ており、沖縄などとは著しい違いを示す。大きいセミとして認識しているものに *kanigju:wa* のように *kani* を冠する言い方があるが、金の意であろう。もう一つは、*?asasa* のような言い方で、これは音まね語から出来た語であるが、外から入った新しいものであろう。西阿室の *?abura: ?asa:sa* という場合の語頭の *?abura:* は共通語のアブラゼミのアブラであろうから、いよいよ新しい形である。さて、この地図は、本来の形とおぼしきものの地図である。西阿室の *?asa:sa* と池地の *?amagak* は特異な形である。特に後者は、カエルを連想させる形である。事実、請・与路を初め、加計呂麻の実久・秋徳のアオガエルの名称は、ガクが付いている。恐らく、アオガエルが木にくっつく様子から連想しての称なのであろう。さて、この二つをにおいて、語頭が *k* 音か *g* 音かで見ると、西が *g* 音の●グループ、東が *k* 音の○グループというように分かれる。

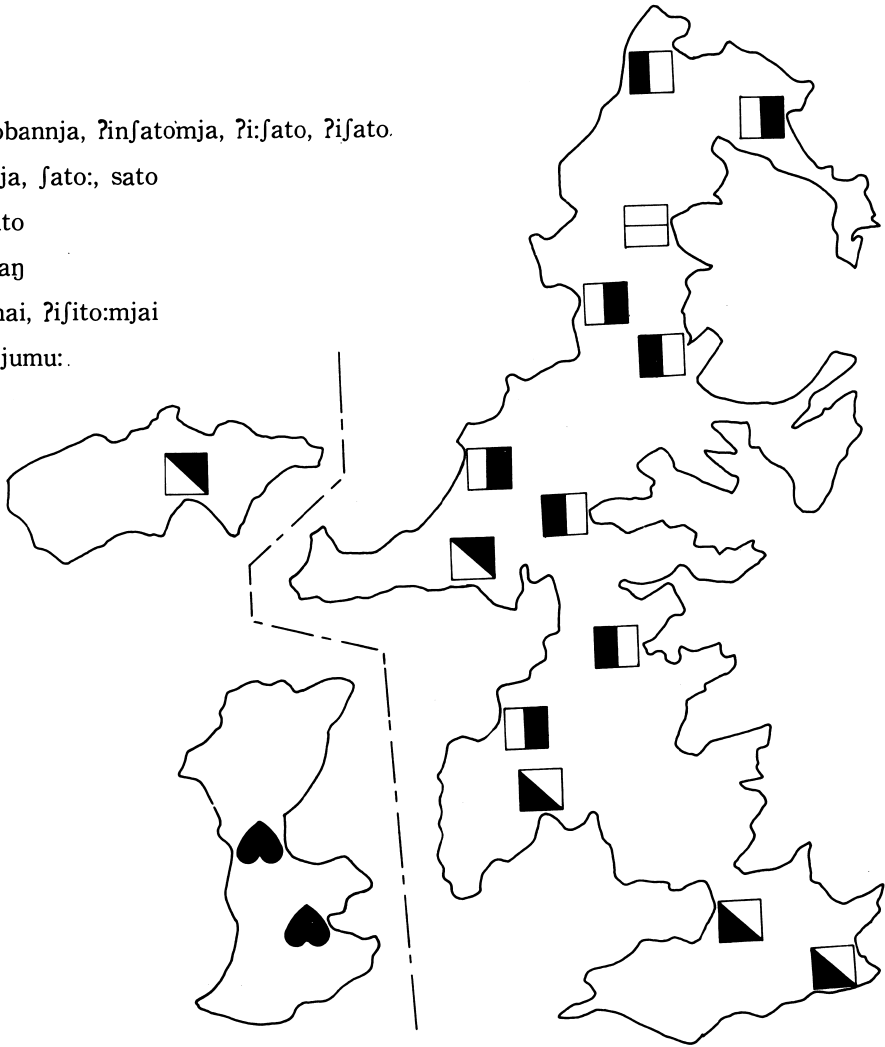
30 (I 1) チョー



本来の形として *habira* などというのがある所に、共通語から *tfo:tfo:* が入って来て語の衝突が起こり、今まさに白兵戦の状態というところである。18個所の本来の○印のところ、8個所 *tfo:tfo:* に取って代われ、佐知克でも、*habëra* は昔の言葉で、今は *tfo:tfo:* と言うとのことだから、間もなく○印は消える。渡連は *tfo:tfo:* は小さい蝶、*habira* は大きい蝶というように、意味の分化が起こったから、もう少しは、古いのも生きのびそうである。○印が、ちゃんとした形で生きているのは、18個所中8個所である。もう20～30年もすると、完全に消えてしまうであろう。しかし、押角、秋徳・諸鈍・与路・請阿室の5個所では、本来の形である○印の方が、蛾の意味に転換しているので、もう少しは生き延びるかもしれない。

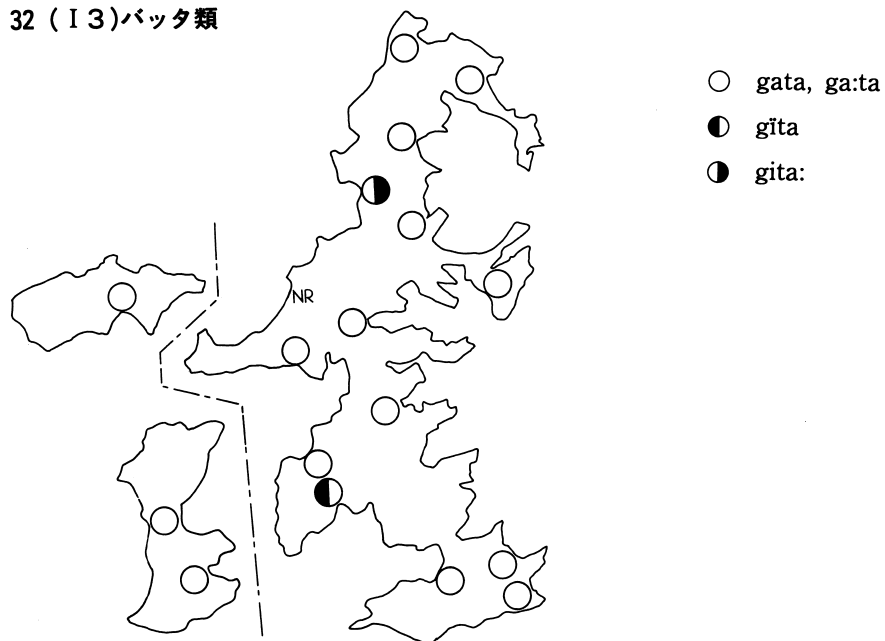
31 (I 4)カマキリ類

- ?iffatobannja, ?infatomja, ?i:fato, ?ifato.
- fato:mja, fato:, sato
- ?umifato
- ▣ ?ifitoban
- ▣ ?ifitomai, ?ifito:mjai
- ▲ jumu, jumu:.



この地図は四角の印と、請島にのみある▲に大きく分かれる。四角印を2種に分け、1つは?i:fatoとかfato:のように(-)sa-を含む形、もう1つは?ifitobanのように第2拍に-fi-を含む形である。大まかにいって、東が-fi-で、西の方が(-)sa-といえそうである。沖縄でも?isatu:というから、saの方が古いものと思われる。これらの語は?ifatoが幹の部分で、語頭の?iが落ちたり、いろいろな接辞が付いて、群を増やしている。それらのうち mai,mjai,njaなどは、言われるように「舞」に由来すると思われるが、banもそうなのかは、よく分からない。なお、佐知克はsatoといい、■であるが、?ifitobanという言葉もあり、カマキリが鎌を持ち上げて攻撃の姿勢をとるなど、おかしな仕草をすることを、そういうとのことである。仮に、これも■と考えると、東の勢力がもう1つ拡大することになる。請島のjumuなどは、独特な形である。大島北部に繋がるかもしれないとされるが、どうだろうか。雀の方言形の前の部分と同じ形でもあるし、これも棄て難いところである。

32 (I3) バッタ類



本図は単一型といってよい。秋徳gita、須子茂gita:は1拍めの母音が異なっているが新しい形か。ちなみに、徳之島も大体gataに類する言い方である。

注1 「東アジア言語の古層」中本正智参照（「言語」1987年、vol 16-7）

2 『琉球館訳語本文と索引』大友信一・木村晟参照

3 『奄美大島のことば』柴田武編参照

Ⅲ 民俗分類資料

原資料を基礎にして、加計呂麻島および与路島・請島における動物方言語彙の民俗分類を試みた。また、いくつかの動物については徳之島の方言語彙（野原・宮城，1986）との比較をおこなった。

—哺乳類の方言語彙と民俗分類—

M1. コウモリ類

ko:mori（実久・武名・知之浦・西阿室・瀬相・佐知克・秋徳・安脚場・諸鈍・与路）

komori（西阿室・請阿室）

ko:mor（須子茂・渡連）

ko:muu（瀬武・押角）

コウモリ類の方言語彙はko:moriというのが基本型である。

M2. ネズミ類

nīdim（実久・芝・須子茂・武名・知之浦・瀬相・花富・押角・佐知克・秋徳・渡連・安脚場・池地・請阿室）

nīdim(i)（瀬武）

nīdu'm（与路）

nedzumi（知之浦・西阿室）

nedzumi:（西阿室）

jannufi（須子茂）

ネズミ類はnīdim系が基本型であるが、jannufiという語彙もみられた。徳之島では手々と阿三でjuŋという語彙がみられるが、加計呂麻島ではそれに相当する語彙はみられない。瀬相ではnīdimの他にjamanīdimiとjimanīdimiという語彙が聞かれたが、個別名の対象動物を特定できなかった。しかし、徳之島ではjamanīdimiとは奄美大島や徳之島の森林に棲むトゲネズミを指している。話者の永井忠氏がその動物を知っていればトゲネズミの方言の可能性もあるが、トゲネズミは加計呂麻島に分布しないことや話者の永井忠氏の説明から想定すると、jamanīdimiの方はネズミ類とは系統が異なる食虫類のワタセネズミのようである。

同じく食虫類のジャコウネズミは徳之島ではd3a:, d3a:juŋという語彙が多くの集落で見られるが、加計呂麻島では知之浦でd3aha:という語彙がみられただけである。

M3. ネコ

mja (瀬相・秋徳)

mja: (実久・芝・瀬武・須子茂・武名・知之浦・西阿室・花富・押角・佐知克・渡連・安脚場・与路・池地・請阿室)

ネコはmja: が基本型であるが、徳之島のmaju, mjau, njauなどと同じ系統の語彙である。

M4. イヌ

?iŋ (芝・瀬相・花富・押角・佐知克・秋徳・渡連・実久・瀬武・須子茂・武名・知之浦・西阿室・安脚場・諸鈍)

?iŋ (池地・請阿室・与路)

M5. イノシン

fifi (実久・瀬武・須子茂・武名・知之浦・瀬相・花富・佐知克・渡連・安脚場・諸鈍・池地)

fifi: (与路・請阿室)

?inofifi (須子茂・知之浦・西阿室・押角・佐知克)

?ino:fifi (西阿室・花富・秋徳)

イノシン方言語彙の比較 (加計呂麻島と徳之島の場合)

加計呂麻島	徳之島
fifi, fifi:	jamasi, jamaŋi
?inofifi, ?ino:fifi	jansi, janŋifi
	ja:si, ?inofi

イノシンの方言語彙はfifi, ?inofifiが普通にみられる。徳之島では jama, jaŋ がつく jansi jamasi, janŋifiなどがみられ、加計呂麻島の語彙とは若干異なっている。

M6. ブタ

?wa (瀬相・池地)

?wa: (実久・芝・瀬武・須子茂・武名・西阿室・花富・押角・佐知克・秋徳・渡連・安脚場・諸鈍・請阿室)

M7. ウシ

?ufi (実久・芝・瀬武・須子茂・武名・知之浦・西阿室・瀬相・花富・押角・佐知克・秋徳・渡連・安脚場・諸鈍・池地)

?u:fi (請阿室)

M8. ヤギ

çindʒa (実久・芝・瀬武・須子茂・武名・知之浦・瀬相・押角・秋徳・渡連・安脚場・諸鈍・請阿室)

çindʒa: (西阿室・花富・佐知克)

ヤギはçindʒaが基本型である。これは沖縄島と同じであるが、徳之島のja:gi, jagiとは異なっている。

M9. ウマ

mma (芝・瀬相)

mma: (西阿室)

?mma (池地)

?uma (瀬武・須子茂・武名・知之浦・押角・秋徳・渡連・安脚場・与路)

?uma: (花富・佐知克・請阿室)

?uma' (諸鈍)

M10. ウサギ

?usak (安脚場・池地)

?usa' (瀬武)

?usa:k (須子茂・武名・与路)

?usa:gi (西阿室)

—鳥類の方言語彙と民俗分類—

B1. カワウ

?atoho (佐知克・秋徳)

?at'oho (安脚場)

?ato:ho: (須子茂・花富・渡連・諸鈍)

?ato: (請阿室)

bimbosak (池地)

カワウの方言語彙が加計呂麻島のほぼ全域で見られる。?atoho, ?ato:hoが基本型であるが、請阿室では若干の語尾変化がみられ、?ato:になり、池地ではまったく異なるbimbosak と呼ばれている。sak というのは池地や請阿室ではサギ類を指しており、bimbosak はサギの一種という民俗分類の概念であろう。

なお、徳之島ではカワウの方言語彙は聞かれなかった。

B 2. アジサシ類

- sirukaku (芝)
- sirka:ku (瀬相)
- sirika:ku (秋徳)
- sirika(:)ku (渡連)
- sirika:k (請阿室)
- sirikam (押角)
- sirikap (池地)
- sirkap (実久)
- sigikabu (武名)
- surukaku: (西阿室)
- suruka:p (与路)
- kasodur(i) (須子茂)
- kasodur (請阿室)
- gjaran (実久)

アジサシ類(おそらくはコアジサシ・エリグロアジサシなど)は夏鳥として南の方から飛来し、海岸の岩礁などで繁殖する。加計呂麻島でも周年生息しているわけではないが、全域で方言語彙がみられる。それはアジサシ類が群れを作りながら海に飛び込んで子魚を捕ったり、漁師たちの魚場の目印として、アジサシ類が目標になることが多く、生活に密着している鳥であることに起因しているのであろう。

基本型はsirukaku系であるが、それはアジサシ類の白い色に由来する呼称だと思われる。芝では女性の美しい眉をsirukaku majuと讃える言葉が聞かれた。須子茂や請阿室では“鰹鳥”の意味の語彙がみられる。また、実久ではgjaranという語彙もみられるが、意味は不明である。

B 3. サギ類

- sagja (実久・芝・瀬武・須子茂・武名・西阿室・瀬相・佐知克・秋徳・渡連・諸鈍)
- sagja: (押角・安脚場)
- sa:k (池地・請阿室)

Jiru'sak (与路)

サギ類はsagjaが基本型である。池地・請阿室ではsa:k という語彙がみられ、加計呂麻島の語彙とは異なっている。与路の Jiru'sak は“白いサギ”の意味である。徳之島では sa:gi 系の語彙が基本型で、sak の語彙はみられなかった。

B 4. バン

kumiru (実久・瀬武・須子茂)

kumir(u) (諸鈍)

kumir (芝・佐知克・渡連)

kumir (花富)

k'umiru (西阿室)

kimiru (安脚場)

kimir (請阿室)

gumiri (秋徳)

gimir(i) (池地)

ku:ru (与路)

kë:ru (与路)

バンは農家にとってはスズメと同様に身近にいる鳥類である。語彙の基本型は kumiru であるが、秋徳と池地では gumiri, gimir(i) の語彙がみられる。また、与路では ku:ru, kë:ru といういくぶん変化した語彙がある。

B 5. チドリ類

t'fidzurja (西阿室)

t'fidzurja (実久・池地)

t'fidzu'rja (与路)

t'fidzorja (芝)

t'fido:rja (須子茂)

t'fidorja (渡連)

t'fodori (瀬相・秋徳)

hamat'fodori (瀬武・押角・佐知克)

B 6. (アマミ) ヤマシギ

figja (芝・押角)

fi'gja (西阿室)

fi:gja (実久・須子茂・武名・瀬相・花富・佐知克・秋徳・池地)

fi:gja: (渡連・安脚場・諸鈍・請阿室)

jamafi:gja (西阿室)

アマミヤマンギは山地に棲む夜行性のシギ類で、人々には馴染みの少ない鳥類である。徳之島ではjasi:gja (与名間)、figi (中伊仙・井之川)、sīgi (尾母) の4集落で方言語彙がみられたのだが、加計呂麻島や与路島・請島の人々は、アマミヤマンギを食べたという話者が多く、その生態もよく知っている。

B 7. サシバ (タカ)

taka (与路)

taha (実久・芝・瀬武・須子茂・武名・知之浦・西阿室・瀬相・花富・押角・佐知克・秋徳・渡連・安脚場)

taha: (諸鈍)

taha: (西阿室)

ta: (池地・請阿室)

サシバ (タカ) の季節的な渡りは有名である。そのサシバの方言語彙は請島ではta:が、与路ではtakaの語彙がみられるが、基本型はtaha系である(16集落)。ところが、徳之島ではta:の語彙が圧倒的に多く(17集落)、taka, tahaはそれぞれ金見と手々で散見されるだけである。加計呂麻島と徳之島では優占する語彙がまったく対照的になっている。

B 8. コノハズク類

mja:tikoho (瀬武・須子茂・武名・瀬相・押角)

mja:tikoho: (安脚場・諸鈍)

mja:tiko:ho: (花富・秋徳)

mja:tikoho (実久)

mja:tsuko:ho: (知之浦)

mja:tkoho: (西阿室)

mjatkoho (請阿室)

mjatko (池地)

mjakkφu (西阿室)

mja:tkuφu (佐知克)

makkoho: (西阿室)

tikoho (武名・瀬相・池地)

t'ikoho (実久)
 tikoho' (渡連)
 tikoho (芝・諸鈍)
 tiko:ho: (安脚場)
 tikkoho (押角)
 t'ukoho: (与路)
 k'o:ho (知之浦)
 tsukoho (知之浦)
 tikīφu (西阿室)
 ku'φu: (花富)
 k'u:φo: (佐知克)
 ko:ho: (秋徳)

コノハズク類の方言語彙の二型の比較

調査地	mja: 型	tikoho 型
実久	mja:t'ikoho	t'ikoho
芝		tiko:ho:
瀬武	mja:tikoho	
須子茂	mja:tikoho	
武名	mja:tikoho	tikoho
知之浦	mja:tsukoho	tsukoho, k'o:ho
西阿室	mja:tkoho: mjakkφu, makkoho	tsikīφu
瀬相	mja:tikoho	tikoho
花富	mja:tiko:ho:	ku'φu:
押角	mja:tikoho	tikkoho
佐知克	mja:tkuφu	k'u:φo:
秋徳	mja:tiko:ho:	ko:ho:
渡連		tikoho'
安脚場	mja:tikoho:	tiko:ho:
諸鈍	mja:tikoho:	tiko:ho:
与路		t'ukoho:
池地	mjatko	tikoho
請阿室	mjatkoho	

コノハズク類はコノハズクとオオコノハズクが分布し、また、夏にはアオバズクが渡ってくるが、それらの鳴き声は普通の人には聞き分けることがきわめて困難である。方言語彙にmja:のつく語彙とつかないものがあるが、それは種の違いによる個別名ではなく、両種を混同して呼称していると解したほうが無難だと思われる。いずれも鳴き声（ネコのミャーとコッホッコッホッと聞こえる）に由来する語彙である。なお、コノハズク類は沖縄島や徳之島でも同系統の語彙である。

B 9. ミフウズラ

?udzura (安脚場)

B 10. ハト類

(総称)

hato (実久・芝・瀬武・知之浦・瀬相・花富・押角・佐知克・秋徳・渡連・安脚場・与路・池地)

hato' (諸鈍)

hato: (西阿室・請阿室)

hatu (武名)

(ズアカアオバト)

?o:hato (知之浦)

pī:hato (芝・知之浦)

?aubato (西阿室)

?aobato (実久・瀬武・瀬相・秋徳)

?o:bato (須子茂・武名・花富・押角・佐知克・渡連・諸鈍・池地)

?o:bato' (請阿室)

?o:bato: (安脚場)

(キジバト)

hato (芝)

karahato (知之浦)

pī:hato (武名)

karabato (実久・瀬武・須子茂・西阿室・瀬相・花富・佐知克・秋徳・渡連・池地)

karabato: (請阿室)

kara:bato (諸鈍)

pīpato (諸鈍)

(カラスバト)

?ufibato (実久・芝・瀬武・須子茂・武名・知之浦・西阿室・瀬相・花富・押角・佐知克・秋徳・渡連・安脚場・諸鈍・与路・池地)

?ufibato' (請阿室)

ハト類の民俗分類

調査地	ハト総称	ズアカアオバト	キジバト	カラスバト
実久	hato	?aobato	karabato	?ufibato
芝	hato	pī:hato	hato	?ufibato
瀬武	hato	?aobato	karabato	?ufibato
須子茂		?o:bato	karabato	?ufibato
武名	hatu	?o:bato	pī:hato	?ufibato
知之浦	hato	?o:hato pī:hato	karahato	?ufibato
西阿室	hato:	?aubato	karabato	?ufibato
瀬相	hato	?aobato	karabato	?ufibato
花富	hato	?o:bato	karabato	?ufibato
押角	hato	?o:bato		?ufibato
佐知克	hato	?o:bato	karabato	?ufibato
秋徳	hato	?aobato	karabato	?ufibato
渡連	hato	?o:bato	karabato	?ufibato
安脚場	hato	?o:bato:		?ufibato
諸鈍	hato'	?o:bato pī:pato	kara:bato	?ufibato
与路	hato			?ufibato
池地	hato	?o:bato	karabato	?ufibato
請阿室	hato:	?o:bato'	karabato:	?ufibato'

ハト類はズアカアオバト・キジバト・カラスバトが留鳥として分布している。総称としてhato系の語彙がみられ、それぞれの種には個別の方言語彙がみられる。その傾向は沖縄島や徳之島と同じである。徳之島ではhatu系の語彙が優占するが、加計呂麻島ではhoto系が優占している。

また、個別名ではズアカアオバトはその色彩（青緑色）にちなんだ呼称になっている。芝と知之浦では鳴き声に由来すると思われる語彙がみられる。色彩に着目する呼称は徳之島も同様である。キジバトはkarabato系の語彙が優占しているが、鳴き声に由来すると思われる語彙が武名と諸鈍でみられる。諸鈍では2通りの呼称がある。カラスバトも色彩（黒色）と鳴き声（牛の声）にちなむ呼称である。

キジバトの方言語彙の比較（加計呂麻島と徳之島の場合）

加計呂麻島		徳之島	
hato	(1)	hatu	(2)
karahato	(2)	jamabatu	(3)
pī:hato	(1)	tsitsībatu	(3)
karabato	(10)	tsit̄fībatu	(1)
karabato:	(1)	tsut̄fībatu	(1)
kara:bato	(1)	t̄fīfībatu	(2)
pī:pato	(1)	tsut̄fībatu	(1)
		hate:batu	(1)
		nt̄fībatu	(1)

（語彙の後は調査地の数）

徳之島ではキジバトの色彩（土色）や生息場所（山・畑）に由来する語彙がみられる。加計呂麻島のkaraは文様や綾などの意味であろうか。

B 11. カワセミ

- kanduri（須子茂）
- kamduri（知之浦・安脚場）
- kamdur(i)（押角）
- kamdu:r(i)（花富）
- kamdu:r（実久）
- kamdur（渡連・諸鈍）
- kamīdur（芝）
- kamdur（佐知克）
- kamid3ori（瀬相）
- kamd3ori（瀬武・西阿室）
- kamd3ori'（与路）
- kamd3o:ri（武名・西阿室）
- kamd3or(u)（請阿室）
- kamdurggwa（池路）
- ko:gaŋ（秋徳）

多くの話者がカワセミは神様鳥だという。方言語彙の kanduri, kamduri, kamd3ori など

は「神鳥」の意味である。そのような話は徳之島でも聞かれ、同じく *kandʒura*, *kangjura*, *gandʒuja* などの語彙がみられた。秋徳の *ko:gan* も同じく *ko*; (河) + *gan* (神) の意味であろう。 *kogan* が徳之島の井之川でもみられた。

B 12. アカシ ヨ ウビン

- kukaru* (須子茂)
- kukkaru* (西阿室・瀬相・与路)
- kukkaro:* (西阿室)
- kukkjaru* (芝・花富)
- k'ukkjaru* (押角)
- kukkja:ru* (実久・武名)
- kukja:ru* (瀬武・佐知克)
- kuɸa:ru:* (渡連)
- kuwaru* (諸鈍)
- kuwaha:ru* (安脚場)
- kwa:ru* (請阿室)
- kjokkjoro(:)* (池地)
- ?itʃugahan* (秋徳)

アカシ ヨ ウビンの方言語彙はその鳴き声に由来し、同系統の語彙は沖繩島・徳之島はもちろん南島全域でみられる。秋徳の *?itʃugahan* は他の地域とは異なっているが、話者の池田義男氏によると *?itʃu* とは「美しい絹糸」の意味だとのこと。 *gahan* は *gan* と同じく“神”だとすると、アカシ ヨ ウビンの美しい羽の色とカワセミ (神鳥) に似た姿を讃えた語彙と理解することができる。

B 13. キツツキ類

- kī:tikkja* (実久・芝・瀬相・須子茂・武名・佐知克・請阿室)
- kī:tikkja* (池地)
- kī:tukkja* (西阿室)
- tikkja:* (花富)
- kīdī:tukja* (渡連)
- kīdutʃikja* (瀬相)
- kutu:dukja* (安脚場)
- kitsutsuki* (秋徳)

キツツキ類の方言語彙は木をつつく行動に由来し、アカシ ヨ ウビン同様に南島全域に同系統

の語彙がみられる。

B 14. ツバメ類

matagarasi (池地・請阿室)

matagarasu (実久・瀬武・武名・知之浦・瀬相・佐知克・秋徳・渡連・安脚場・与路)

mata:garasu (諸鈍)

matagara:su (花富)

matagarasu: (西阿室)

tsubame (芝・須子茂・武名・押角・佐知克・秋徳)

ツバメ類の方言語彙の基本型はmatagarasuである。“尾羽が二股になっているgarasu (カラスで色が黒い)”、また“平たいカラス”の意味であろうか。

なお、徳之島ではgarasumataの他に garafimata (井之川)、garasimata (尾母) の語彙がみられた。

B 15. セキレイ類

tahandur(i) (押角)

tahandur (渡連)

ta:φuna:gja (安脚場)

tʃintʃin (安脚場)

セキレイ類の方言語彙の比較 (加計呂麻島と徳之島の場合)

加計呂麻島	徳之島
tahandur(i)	?abufikunagja (井之川)
tahandur	tanhatamarikugja (阿三)
ta:φuna:gja	dzunaga (阿権)
tʃintʃin	dʒu:dʒiru (松原)
	kantsira (池間)
	siguŋ (東目手久)

セキレイ類は尾が長く、飛びながらチンチンと鳴き、水田や畑地によくみられる鳥である。方言語彙もそのような棲み場所や鳴き声に由来するものである。徳之島では尾の長さになんだ語彙がみられる。

B16. ヒヨドリ

çu:sî (実久・芝・瀬武・須子茂・武名・西阿室・瀬相・花富・押角・佐知克・秋徳・
渡連・安脚場・諸鈍・与路・池地・請阿室)

çu:su (知之浦)

çu:duri (諸鈍)

ヒヨドリの方言語彙の基本型は çu:sî で、鳴き声に由来している。同系統の語彙は南島全域でみられる。

B17. アカヒゲ

?akaçigi (実久・芝・須子茂・武名・知之浦・瀬相・花富・押角・佐知克・秋徳・渡連・
諸鈍・池地)

?aka'çigi (安脚場)

?akaçigi: (与路)

?akaçige (瀬武)

?akaçi:k (請阿室)

B18. イソヒヨドリ

?ifikugum (請阿室)

?ifokugum (西阿室)

?ifo:kugum (須子茂・請阿室)

?ifokugun (秋徳・諸鈍)

?ifokukum (花富・押角・佐知克)

?isosukum (渡連)

?ifo:sigum (実久)

?iso:sikum (安脚場)

?ifo:tigum (武名)

?ifo:t'igu (瀬武)

mannusidu (西阿室)

イソヒヨドリの方言語彙の比較 (加計呂麻島と徳之島の場合)

加計呂麻島	徳之島
?ifo:kugum 系 (9)	?ifijibuji (1)
?isosukum 系 (3)	kansantsiku 系 (4)
?ifo:tigum 系 (2)	kikkoro 系 (3)

mannusidu (1)

siguη 系 (4)

?undui 系 (2)

*加計呂麻島の場合は厳密には全部同じ型 (語彙の後は調査地の数)

イソヒヨドリは海岸の岩礁地によくみられ、鳴き声のきれいな鳥である。方言語彙の初めの *ʔifo*, *ʔifi* は海岸や岩礁を意味していると思われる。徳之島では *ʔifi* のつく語彙は井之川だけでみられ、他には鳴き声に由来すると思われる *kikkoro* 系や *kansantsiku* 系、*siguη* 系、*?undui* 系などがみられた。加計呂麻島に比べ徳之島の方言語彙は変化に富んでいるといえる。

kugum 系や *sukum* 系の語は「こごむ (身をかがめる)」の意味だろうか。イソヒヨドリとは「岩礁地で身をかがめているもの」ということになる。

西阿室の *mannusidu* は話者の茂村真男氏によると、カイコのマユを取りにくるので、そのように呼称するとのことであった。

B19. ウグイス

mafikjo (実久・芝・瀬武・須子茂・武名・知之浦・西阿室・瀬相・押角・秋徳・諸鈍・請阿室)

mafikjo: (花富・佐知克・与路)

mafikuda (渡連・安脚場)

?uguisu (瀬武・須子茂・瀬相・佐知克・渡連・安脚場・諸鈍)

ウグイスは早春から初夏の繁殖期の頃にはきれいな声でホーホケッキョ (さえずり) と鳴くが、それ以外の時期にはチャッチャ (地鳴き) という声で鳴いている。加計呂麻島の人々はそのようなウグイスの鳴き声の変化をよく知っており、地鳴きをするのはウグイスの子供 (*mafikjo* 系) で、それがやがて *?uguisu* になると認識している。なお、徳之島の中伊仙ではウグイスを *ugidzamī* (キビ・メジロ) と呼んでいる。また、メジロを *masikjura* (平土野)、*masiki:dza* (与那間) と呼ぶところがあり、加計呂麻島の *mafikjo* 系の語彙が移入し、混同したことが伺える。

B20. セッカ

tʃintʃin (請阿室)

tʃintʃindori (武名)

tʃintʃindur (渡連)

tʃimtʃimdur(i) (花富)

tʃintʃira: (西阿室)

gaja:jumunduriggwa (安脚場)

çibari (須子茂・瀬相・渡連)

セッカはススキ草地や水田周辺でよくみられ、チンチンチンチンと鳴きながら舞い上がる小鳥である。方言語彙はそのようなセッカの鳴き声に由来したものになっている。安脚場の語彙は「カヤの中のスズメ」の意味である。また、çibariは実際のヒバリ（南島には分布しない）との混同である。

B21. サンコウチ ヨウ

dinaga (押角)

dina:gja: (請阿室)

dinagadur (池地)

サンコウチヨウは夏鳥として南方から渡ってくる、尾の長い鳥である。方言語彙はそのような姿に着目した呼称となっている。

B22. メジロ

medgiro (実久・芝・瀬武・須子茂・武名・知之浦・瀬相・佐知克・秋徳・渡連・安脚場・諸鈍・与路・池地)

medjiroggwa (瀬相)

ja:mi (西阿室)

ja:mĩngwa (西阿室)

sa:mĩ (実久?・須子茂・武名・西阿室・押角)

sa:mĩgwa (西阿室)

sa:mĩggwa (秋徳・池地)

メジロの方言語彙の比較 (加計呂麻島と徳之島の場合)

加計呂麻島	徳之島
medgiro 系 (15)	
sa:mi 系 (7)	sa:mĩ 系 (7)
	?issamĩ 系 (9)
	hanasi 系 (2)
	tsittsĩju 系 (2)
	tikkara (1)
	masikjura 系 (2)

(語彙の後は調査地の数)

メジロは可愛らしい姿ときれいな鳴き声のために飼われることが多く、親しみのある小鳥である。徳之島では普通にみられたsa:mi, ʔissamiなどの方言語彙が加計呂麻島では少なく、共通語のmedziroが広くみられた。

B23. スズメ

- jumunduri (実久・瀬武・須子茂・知之浦・西阿室・秋徳・安脚場・諸鈍)
- jumundur(i) (武名・押角)
- jumundur (芝・瀬相・花富・佐知克・渡連・請阿室)
- jumunduri: (西阿室)
- suzumi (渡連)

スズメは人間の生活空間の中で最も目につくに小鳥で、農家にとっては苗や稲穂を食い荒す「害鳥」として知られている。方言語彙もそのような意味をこめてjumuduri系の呼称が多くみられる。徳之島でも同様にjundura, janduraと呼ばれている。

B24. ルリカケス

- çu:fa (実久・知之浦・秋徳・渡連)
- ʔju:fa: (請阿室)
- jamaçu:fa (瀬相・花富・佐知克)
- jamaçu:fa: (西阿室)
- jamabi:fa (西阿室)
- jamaʔju:fa (池地)
- jamabju:fa (瀬武・知之浦)

ヒヨドリとルリカケスの方言語彙の民俗分類

調査地	ヒヨドリ	ルリカケス
実久	çu:sī	çu:fa
瀬武	çu:sī	jamabju:fa
知之浦	çu:su	çu:fa, jamabju:fa
西阿室	çu:sī	jamaçu:fa:, jamabi:fa
瀬相	çu:sī	jamaçu:fa
花富	çu:sī	jamaçu:fa
佐知克	çu:sī	jamaçu:fa
秋徳	çu:sī	çu:fa
渡連	çu:sī	çu:fa
池地	çu:sī	jamaʔju:fa
請阿室	çu:sī	ʔju:fa:

ルリカケスは奄美大島（加計呂麻島などを含む）の固有の鳥である。ルリ色の美しい姿に似つかず、その声はギャーギャーとうるさく、カラスやヒヨドリのように悪声の持ち主である。そこで、方言語彙もルリカケスの悪声にちなんで、*çu:fa*, *?ju:fa*, *jamaçu:fa*, *jamabju:fa* と呼称し、「山のヒヨドリ」を意味するところが広くみられる。また、請島の池地では「啞」ことを*?ja:fa*といい、「山の啞」を意味する*jama?ju:fa*という語彙がみられる。

B 25. ハシブトガラス

- garasu*（実久・瀬武・武名・佐知克・秋徳・諸鈍）
- gara'su*（安脚場）
- gara:su*（須子茂・知之浦・西阿室・渡連・諸鈍・与路）
- garasi*（瀬相・池地）
- gara:si*（芝・西阿室・花富・請阿室）

ハシブトガラスの方言語彙は*garasu*, *gara:su*が基本型で、加計呂麻島や与路島・請島までほぼ同じ系統である。徳之島では*su*がつかない*gara*, *ga:ra*の型である。

B 26. ニワトリ

- tur(u)*（秋徳）
- tur*（芝・須子茂・知之浦・瀬相・押角・佐知克・渡連・池地）
- tu:r*（請阿室）
- tu:ri*（与路）
- niwaturi*（実久・武名）
- tori*（西阿室）

ニワトリは*tu:r*系の語彙が優占しているが、徳之島では*tui*, *turi*などがみられた。

—爬虫類の方言語彙と民俗分類—

R 1. ヤモリ類

- jamori*（瀬武・須子茂・武名・西阿室・押角・佐知克・秋徳・安脚場・諸鈍）
- jamo:ri*（芝）
- jamor*（渡連）
- jamura*（西阿室）
- kuranaprja*（実久）

ヤモリ類の方言語彙の基本型はjamori系で、徳之島のように多様な語彙（15の呼称がある）はみられない。それは、沖縄島や徳之島で普通にみられるホオグロヤモリが加計呂麻島には分布せず、ヤモリ類に対して人々の関心がそれほど高くないことと関連しているかもしれない。実久ではkuranapnja という語彙がみられたが、これはニホンヤモリを指していると思われる。

R 2. トカゲ類

- dinagirja (実久・瀬武・瀬相・佐知克)
- dīnagirja (須子茂・池地・請阿室)
- dina'girja (西阿室・諸鈍)
- dīna:girja: (安脚場)
- donagirja (与路)
- t'ina:girja (芝)
- dīna:gira (渡連)
- dīna:gja (西阿室)
- dīna:ga (西阿室)
- mufukuja (秋徳)
- kufokuja (秋徳)

トカゲ類はオオシマトカゲ・ヘリグロヒメトカゲ・アオカナヘビが分布しているが、それらの個別名はみられなかった。トカゲ類は総称として呼称し、方言語彙の基本型はdinagirja系である。語彙は“尾の長いもの”を意味している。同系統の tina:gira, tsuna:gira などが徳之島でもみられるが、徳之島では他にも maho, ginata, kadzuj, kinugira, madzikuja などがあり、加計呂麻島よりも方言語彙は多様性に富んでいる。

なお、秋徳の mufukuja, kufokuja はキノボリトカゲを指しているのかも知れない。

R 3. キノボリトカゲ

- fatomja (実久)
- timmaburja: (与路)
- timmaburja (芝・瀬武)
- jadommaburja: (西阿室)
- jadommaburja (西阿室)
- kufokuja (瀬相・押角・佐知克・渡連)
- kufo:kuja (安脚場)
- kufo'kuja (諸鈍)
- kufokamja (武名)

mafokuja (池地)
 mafokamja (須子茂)
 tabakuφukja (瀬武)

キノボリトカゲの方言語彙の比較 (加計呂麻島と徳之島の場合)

加計呂麻島	徳之島
fatomja (1)	ʔissatumjau (1)
mafokuja 系 (2)	madzikuja (1)
kofokuja 系 (7)	
tabakuφukja (1)	
maburja 系 (4)	maho 系 (14)
	kī:nufa (1)
	kī:nuimanfo (1)
	kīnugira (1)

*加計呂麻島には与路・池地・請阿室を含む

キノボリトカゲの方言語彙はトカゲ類に比べると変化に富んでおり、概ね5つの型に区分できる。その中ではkufokuja系の語彙が優占している。徳之島ではほぼ全域にmaho系の語彙がみられるが、加計呂麻島と類似するような呼称もみられる。

加計呂麻島と与路島・請島におけるトカゲ類とキノボリトカゲの方言語彙の民俗分類は概ね6つの型に区分できる。

1. 実久の場合

(トカゲ類) ……………dinagirja

(キノボリトカゲ) ……fatomja

2. 芝・瀬武・与路の場合

(トカゲ類) ……………t'ina:girja, dinagirja, donagirja

(キノボリトカゲ) ……timmaburja, timmaburja:

3. 西阿室の場合

(トカゲ類) ……………dina'girja, dina:gja, dina:ga

(キノボリトカゲ) ……jadommaburja:, jadommaburja

4. 須子茂・池地の場合

(トカゲ類) ……………dinagirja

(キノボリトカゲ) ……………mafokuja

5. 瀬相・佐知克・諸鈍・安脚場・渡連の場合

(トカゲ類) ……………dinagirja, dīna:girja:, dina'girja, dīna:gira

(キノボリトカゲ) ……………kufokuja, kufo:kuja. kufo'kuja, kufokamja

6. 瀬武の場合

(トカゲ類) ……………dinagirja

(キノボリトカゲ) ……………tabakuɸukja

トカゲ類とキノボリトカゲを含める総称語彙は、徳之島ではmahoが見られたが、加計呂麻島ではそのような総称語彙はみられない。しかし、トカゲ類とキノボリトカゲを同一名で呼称することはなく、両者を明確に区分している。

R 4. ヘビ類

(総称)

mufi (実久・瀬相・須子茂・武名・押角・佐知克・秋徳・渡連・安脚場・諸鈍)

mu:fi (芝)

madʒimuŋ (実久)

ɕip (池地)

ヘビ類を総称する語彙としてmufiが全域でみられた。実久のは他の madʒimuŋ 地域ではハブを呼称する語彙である。また、池地の ɕip はガラスヒバアの呼称と同じである。ヘビの総称は徳之島ではみられなかったが、個別名は加計呂麻島と同系統の語彙がみられた。

ハブやヒメハブは有毒のヘビで、場合によっては落命することもあり、きわめて危険な動物だといえる。加計呂麻島や与路島・請島に分布するヘビ類の6種に個別名がみられることは、島に住む人々がヘビ類の危険性をよく認識しており、関心の高さを示すものである。

R 5. リュウキュウアオヘビ

?o:nak (実久・芝・瀬武・池地)

?o:naki (西阿室)

?o:nap (須子茂・武名・花富)

?o:nagi (知之浦)

?o:nagir (佐知克)

?o:nagi:r (押角)
 ?o:na:dʒi (安脚場)
 ?o:nadʒiri (瀬相・秋徳・渡連・諸鈍)
 ?o:nattap (西阿室)
 o:nor (与路)
 hë:p (請阿室)

リュウキユウアオヘビの個別名はその色彩に由来した“青いうなぎ”を意味している。同様の認識は徳之島でもみられ、?o:nugja, ?aonugjaなどの語彙がある。与路のo:norは“青もの”を意味し、請阿室のhë:pは“へび”の意味であろう。

R 6. ガラスヒバァ

garasup (瀬武・武名・西阿室・佐知克)
 gara:sup (須子茂・花富・押角)
 garasu:p (知之浦)
 gara:supu (西阿室)
 gara:sip (瀬相)
 gara:sip (実久・芝)
 gara:subi (西阿室・諸鈍)
 garasibi (秋徳)
 garasibi: (渡連)
 garasubi: (諸鈍)
 gara:sicip (安脚場)
 hë:p (与路)
 çip (池地)

ガラスヒバァは水辺に棲む黒っぽいへびである。その方言語彙は基本型である **garasupu**, **gara:susbi**などは“カラス（黒い）へび”の意味である。与路と池地の語彙は“へび”の意味である。和名のガラスヒバァ自体も南島の方言語彙をそのまま当てたものである。日本本土ではシマヘビの黒化型をカラスへびと別称することがあり、本土や南島の人々の認識の世界には「黒はカラスである」というイメージがあるようだ。

R 7. アカマタ

mattap (実久・瀬武・須子茂・武名・瀬相・秋徳・渡連・諸鈍・池地)
 matta:p (知之浦・与路)
 matta(:)p (芝)

matta:p (押角・佐知克・安脚場・請阿室)

mattabu: (西阿室・諸鈍)

?ahamattabu (西阿室)

nattap (花富)

アカマタの方言語彙はmattap系が基本型である。西阿室の?ahamattabuは“赤いマッタブ”の意味で、アカマタの赤い色に着眼した呼称である。そのような語彙は徳之島でもみられ、?a:mattibu, ?a:matteuなどと呼称されている。和名のアカマタは沖縄の方言をそのまま当てた呼称である。

R 8. ヒャン

ça:çaŋ (実久・芝・瀬武・須子茂・武名・知之浦・瀬相・花富・押角・佐知克・秋徳・渡連)

ça:ça:ŋ (安脚場)

ça:çari (西阿室)

ça:çabu (西阿室)

çaŋ (池地)

ça:ŋ (与路・請阿室)

ヒャンは奄美大島や加計呂麻島・与路島・請島に分布するコブラ科のヘビで、赤と黒の文様がリング状に並んでいる。徳之島や沖縄諸島に分布するものは赤と黒の文様は縦に走っており、ハイという別亜種名で呼称されている。

方言語彙の基本型はça:çaŋである。徳之島でも çari, çaru, sa:ru などの同系統の語彙がみられる。沖縄でもハイのことを çan, ça:ŋ と呼称している。和名のヒャンはそのような南島の方言語彙に由来している。ヒャンが出ると天気がよくなるとか咬まれたら雷の聞こえない洞窟の中に隠れて養生しないといけないなどの逸話があり、ヒャンは天候や気象に関する方言に関係があるかも知れない。

R 9. ハブ

matʃimuŋ (実久・武名・知之浦・花富・佐知克・秋徳・渡連・安脚場・諸鈍)

madʒimuŋ (西阿室・池地)

kĩmuŋ (西阿室)

hagomuŋ (押角)

hap (須子茂・武名・与路)

ha:p (請阿室)

habu (瀬武・西阿室・瀬相・花富・諸鈍)

bë (与路)

ハブの方言語彙の基本型は matʃimɯŋ で、他に kimmɯŋ, hagomɯŋ などがみられる。徳之島でも同系統の madʒɯŋ が優占している。語彙の意味は「怖いもの」「きたないもの」「おそろしいもの」などであろう。須子茂・武名・与路・請阿室では hap, ha:p などがみられる。与路では bë' の語彙がみられるがその意味は不明である。

R10. ヒメハブ

kawadaraki: (秋徳)

kwahadʒaraku (実久)

kwadʒarak (与路)

ka:dʒara:k(i) (西阿室)

kwaha:dʒirjak (安脚場)

kuwa:dʒirak (諸鈍)

kwa:dʒirja:k (請阿室)

kuɸadʒirja: (渡連)

kawadʒarap (芝・武名)

kwahadʒara:p (押角)

k'uwa:dʒarap (知之浦)

kuwadʒara:p (瀬武・須子茂・花富)

kuwa:dʒara:p (佐知克)

kwa:dʒarap (池地)

kwahadʒarap (瀬相)

kawadʒara (西阿室)

ヒメハブの方言語彙は各集落によって少しずつ異なっている。語彙の変異は、語尾がK音かP音かという違いである。徳之島では kwa:daro, kwa:dʒaro など8つの語彙がみられるが、すべて -ro, -ro: の語尾である。

方言語彙の意味はヒメハブの体型が短くて太いことから、いかにも「固いもの (kuɸa:, kuwa:)」をイメージさせることに由来しているのであろう。

加計呂麻島のヘビ類の民俗分類はヘビの総称をはじめ、島に分布する6種のヘビ類にそれぞれの個別名がみられる。個別名は集落毎に若干の相違がみられるが、すべて同系統の語彙がある。加計呂麻島におけるヘビ類の一般的な民俗分類は別記の通りである。

(へび総称)	(個別名)	
muji	?	?
	ʔo:nak, ʔo:nap, ʔo:nadʒiri	リュウキュウアオヘビ
	garasup, gara:subi, gara:sīçip	ガラスヒバァ
	mattap, matta:p, matabu:	アカマタ
	ça:çaŋ, ça:ŋ	ヒャン
	matʒimuŋ, kimmuŋ, hagomuŋ,	ハブ
	kwahadʒarak, kwaha:dʒirjak, kuwadʒara:p	ヒメハブ

与路島（与路）と請島（池地・請阿室）におけるへび類の民俗分類

生物群	与路	池地	請阿室
へび総称	?	çip	?
リュウキュウアオヘビ	o:nor	ʔo:nak	hë:p
ガラスヒバァ	hë:p	çip	?
アカマタ	matta'p	mattap	matta:p
ヒャン	ça:ŋ	çaŋ	ça:ŋ
ハブ	hap, bë:	madʒimuŋ	ha:p
ヒメハブ	kwa:dʒarak	kwa:dʒirja:k	kwa:dʒarap

アカマタ・ヒャン・ヒメハブの方言語彙は共通しているが、リュウキュウアオヘビ・ガラスヒバァ・ハブはそれぞれの集落で若干の違いがみられる。請阿室ではリュウキュウアオヘビとハブの呼称とガラスヒバァの呼称がそれぞれ類似している。与路ではリュウキュウアオヘビ・ガラスヒバァ・ハブなどに特異な語彙がみられた。

R 11. カメ類

kami (実久・瀬武・須子茂・武名・瀬相・押角・秋徳・渡連・安脚場・諸鈍・池地)

kami: (芝・西阿室・花富・請阿室)

kauī (与路)

カメ類の方言語彙はkamiが基本型であるが、与路ではkauīというかなり変化した語彙がみられる。徳之島ではすべてkamiであった。

—両生類の方言語彙と民俗分類—

A 1. シリケンイモリ

- sītimoːr (実久)
- sītimo:r (花富)
- si:tmo:r (請阿室)
- sītumor(i) (瀬相)
- sīmo:r (芝)
- so:dīmor (瀬武)
- so:domori (西阿室)
- so:tīmura (渡連)
- sotsumura (安脚場)
- so:tumuri (須子茂)
- sotmo:r (与路)
- sodumor (池地)
- imori (花富)

シリケンイモリの方言語彙は集落によって若干異なっているが、すべて同系統の語彙である。花富のimoriは共通語。

A 2. カエル類

(総称)

- biki (実久・芝・武名・瀬相・秋徳・押角・諸鈍・池地・請阿室)
- biki: (瀬武・須子茂・知之浦・西阿室・佐知克・安脚場・与路)
- tambiki (西阿室・秋徳)
- tambiki: (佐知克)
- (山にいる大きなカエル類…ハナサキガエル・オットンガエルなど)
- atarabiki (西阿室)
- ?atarabiki (須子茂)
- ?ataribiki (実久・瀬相・佐知克・安脚場・諸鈍)
- ?ottombiki (押角)
- ?ataŋ (秋徳)
- (アマミアオガエル)
- ?o:biki (須子茂・武名・西阿室・瀬相・押角・諸鈍)
- ?o:biki: (瀬相・安脚場)
- gaku (実久・秋徳・池地)

- gaku: (請阿室)
 ?awagaku: (与路)
 ?amagaeru (西阿室)

カエル類の方言語彙の民俗分類

調査地	カエル総称	山にいる大きなカエル	アマミアオガエル
実久	biki	?ataribiki	gaku
須子茂	biki:	?atarabiki	?o:biki
武名	biki		?o:biki
西阿室	biki:, tambiki	atarabiki	?o:biki
瀬相	biki	?ataribiki	?o:biki:
押角	biki	?ottombiki	?o:biki
佐知克	biki:, tambiki:	?ataribiki	
秋徳	tambiki	?atan	gaku
安脚場	biki:	?atarabiki	?o:biki:
諸鈍	biki	?ataribiki	?o:biki
与路	biki:		?awagaku:
池地	biki		gaku
請阿室	biki		gaku:

徳之島で。カエル類の総称として?atara, ?attanfo, bikkjaなどがみられたが、加計呂麻島ではすべてbiki系の語彙である。tambikiの語彙もみられるが、それはむしろ水田にいるヌマガエルの個別名だと思われる。山地の溪流に棲む大型のカエル類は?ataribiki, ?ottombiki, ?atanなどと呼称されている。また、アマミアオガエルはその色彩や雨が降るとよく鳴くことから、?o:biki, gakuなどと呼称されている。徳之島ではアマミアオガエルをbafaa:taraとも呼称するが、それは芭蕉の葉の上でよくみられることに由来している。加計呂麻島では芭蕉に由来する語彙はみられなかった。

A 3. オタマジャクシ

- bikin kwa (芝・安脚場)
 bikinukwa (安脚場)
 bikinukwa: (与路)
 buru: (西阿室)
 biru (瀬相・押角)

tabiru (佐知克・秋徳)

taju: (芝・佐知克)

otamadzakufi (与路)

?otamadzakufi (須子茂)

オタマジクシの方言語彙として、「カエルの子」を意味する *bikinukwa*, *bikin kwa* などがみられるが、徳之島と共通する *biru*, *tabiru* などの語彙もみられた。芝・佐知克では *taju:* がみられるが、押角・池地・請阿室では *taju*, *taju:* はメダカの呼称である。いずれも小さな動物であることから、メダカと混同しているのかも知れない。

—昆虫の方言語彙と民俗分類—

I 1. チョウ (ガ)

habëra (実久・芝・押角・佐知克)

habëru (諸鈍)

habïra (須子茂・武名・渡連・池地・請阿室)

habïra: (安脚場)

habi:ra (知之浦)

habïrja (瀬相)

habura (与路)

haburu (秋徳)

tfo:tfo: (瀬武・西阿室・花富・押角・佐知克・秋徳・渡連・諸鈍・請阿室)

tfo:tfo (与路)

ga: (武名)

チョウ (ガ) の方言語彙の比較 (加計呂麻島と徳之島の場合)

加計呂麻島	徳之島
habëra	habëru
habëru	habë:ru
habïra	habïru
habïra:	
habi:ra	kaïra
habïrja	kaïëra
habura	kambara
haburu	ko:ba:ra
	ko:ga:ra

チヨウの方言語彙の基本型はhabëraやhabiraである。徳之島では kabira, kabëra の語彙がかなりの集落で聞かれたが、加計呂麻島などではkaで始まる語彙はみられない。tʃo:tʃo: という共通語の語彙は多くみられる。

I 2. セミ類

- ki:ja (佐知克)
- ki:ja' (安脚場)
- ki:ja: (請阿室)
- k'i:ja (花富・押角・諸鈍)
- k'i:ja: (渡連)
- kju:wa (実久)
- ki:rja (秋徳)
- gi:ja (武名・瀬相)
- gi:gja (芝・瀬武・知之浦)
- gjaʃi (須子茂)
- ?amagak (池地)
- ?asasa (秋徳)
- ?asa:sa (西阿室)
- (アブラゼミ・クマゼミなど)
- kanik'i:ja (渡連)
- kanigju:wa (実久)
- jamatogi:gja (瀬武)
- ?asasa (池地)
- ?asa:sa (安脚場)
- kani?asasa (秋徳)
- ?abura:?asa:sa (西阿室)

セミ類の民俗分類

調査地	総 称	個別名 (クマゼミ・アブラゼミ)
実 久	kju:wa	kanigju:wa
渡 連	k'i:ja:	kanik'i:ja
安脚場	ki:ja'	?asa:sa
秋 徳	?asasa	kani?asasa
西阿室	?asa:sa	?abura:?asasa
池 地	?amagaku	?asasa

セミ類は総称として呼ばれることが多く、ki:ja系、ʔasasa系の語彙がみられる。特異的な語彙として、請島の池地でみられるʔamagak というのがあるが、徳之島の池間でこれに類似するga:kuがみられる。ʔamagakやga:kuは他の地域では通常はアマガエルを指す語彙として使われている。

アブラゼミやクマゼミなどを個別に言う場合にはkaniやkani, jamatoを、総称であるki:ja, ʔasasaなどの前に付けて区分している。沖縄ではセミ類のそれぞれの種類（クロイワニイニ・リュウキュウアブラゼミ・クマゼミ・クロイワツツク・オオシマゼミ）に応じた個別名がみられるが、加計呂麻島などではそれらのセミが分布しているにも関わらず、個別的な区分がみられない。それは徳之島でも同様である。このような事実は、島に住む人々のセミへの関心が少ないことに起因するのだろう。

I 3. トンボ類

(総称)

ʔiɕe:da (芝)

ʔakaʔiɕe:da (芝)

ʔo:ʔiɕe:da (芝)

ʔiɕeda (瀬相)

ʔihe:da (佐知克・秋徳)

ʔihe:da (武名・花富)

ʔe:da (西阿室・渡連・諸鈍)

ʔahaʔe:da (渡連)

ʔe:da (安脚場)

he:da (須子茂・秋徳)

hë:da (知之浦)

ʔë:da (与路)

ʔeheda (押角)

ʔe(he):da (花富)

ʔëhë:da (実久)

ʔënda (池地)

ʔa:san ënda (池地)

juʔitʃo (西阿室)

ʃimajuʔitʃo (西阿室)

ʔahajuʔitʃo (西阿室)

(イトトンボ類)

je:da (西阿室)

ʔeheda (実久)

- ʔehe:da (西阿室)
 ʔinaʔiçe:da (芝)
 (ヤンマ類)
 kanīʔihe:da (武名)
 kanī:maŋ (花富)
 kaniman (秋徳)
 kanītombo (武名)
 jamaända (池地)
 jamaʔeheda (押角)
 jamaʔehe:da (花富)
 jamaturja (渡連)
 jamatu:rja (安脚場)
 jamatobë (請阿室)
 tīŋgo:henda (芝)
 ʔuɸugamatʃi (実久)
 jamatoʔuɸugamatʃi (実久)
 juʃitʃo: (西阿室)
 jamatujuʃitʃo (西阿室)

トンボ類の民俗分類

調査地	トンボ総称	イトトンボ類	ヤンマ類
実久	ʔëhë:da	ʔeheda	ʔuɸugamatʃi jamatoʔuɸugamatʃi
芝	ʔiçe:da	ʔinaʔiçe:da	tīŋgo:henda
武名	ʔihe:da		kanīʔihe:da kanītombo
花富	ʔihe:da		kanī:maŋ jamaʔehe:da
秋徳	ʔihe:da		kaniman
池地	ʔända		jamaända
押角	ʔeheda		jamaʔeheda
安脚場	ʔe:da:		jamatu:rja
渡連	ʔe:da		jamaturja
請阿室			jamatobë
西阿室	juʃitʃo	je:da ʔehe:da	juʃitʃo: jamatujuʃitʃo

トンボ類では民俗分類がみられるが、多くの場合はセミ類と同様に基本型である $\text{?i}\text{çe:da}$, ?e:da , ?ihe:da , ?eheda などの前に kani , kani , jama などが付く型である。また、総称と個別名がまったく異なる語彙もみられる。

トンボ類の民俗分類には概ね2つの型がみられる。I型はトンボ総称とヤンマ類を区分する方法で、II型はトンボ総称とイトトンボ類、ヤンマ類を区分する方法である。I型はA—A'型とA—B型に細分され、II型はA—A'—A''型とA—A'—B型、A—B—A'型の3つに細分される。

I 型 (A—A' 型)

総 称	ヤンマ類
?ihe:da —————	kani?ihe:da , jama?ehe:da (武名・花富)
?ända , ?eheda —————	jamaända , jama?eheda (池地・押角)

I 型 (A—B型)

総 称	ヤンマ類
?ihe:da —————	kani:man , kaniman (花富・秋徳)
?e:da , ?e:da —————	jamaturja , jamaturja (渡連・安脚場)
?e:da —————	jufito (西阿室)

II 型 (A—A'—A'' 型)

総 称	イトトンボ類	ヤンマ類
$\text{?i}\text{çe:da}$ —————	$\text{?ina?i}\text{çe:da}$ —————	$\text{t}\text{i}\text{ŋ}\text{g}\text{o:henda}$ (芝)

II 型 (A—A'—B型)

総 称	イトトンボ類	ヤンマ類
$\text{?}\text{eh}\text{e:da}$ —————	?eheda —————	$\text{?u}\text{fugamat}\text{ʃi}$ (実久) $\text{jamat}\text{u}\text{fugamat}\text{ʃi}$

II 型 (A—B—A' 型)

総 称	イトトンボ類	ヤンマ類
$\text{jufit}\text{ʃo}$ —————	?eheda —————	$\text{jamatujufit}\text{ʃo}$ (西阿室)
	je:da —————	

I 4. バッタ類

gata (実久・瀬武・瀬相・押角・諸鈍・池地)

gata' (与路)

gata: (芝・知之浦・花富・佐知克・渡連・安脚場・請阿室)

gita: (須子茂)

gīta (西阿室)

gīta: (秋徳)

geta: (西阿室)

バッタ類は単純型で、*gata*, *gata:*などが基本型である。

I 5. カマキリ類

ʔinʃatomja (実久)

ʃato:mja (芝)

ʔiʃito:mjai (花富)

ʔiʃatomai (与路)

sato (須子茂・佐知克)

ʔiʃato (押角)

ʔi:ʃato (武名)

(ʃ)*ʃato:* (西阿室)

ʔumifato (瀬武)

ʃiʃitobaŋ (佐知克)

ʔiʃitobaŋ (秋徳・渡連・諸鈍)

ʔiʃito:baŋ (安脚場)

ʔiʃʃatobannja (瀬相)

jumu (池地)

jumu: (請阿室)

カマキリの基本語彙は語尾が*sato*, *ʃato*, *ʃitobaŋ*などで、それに*ʔiʃi*が付いた型である。

また、請島には*jumu*, *jumu:*という語彙がみられ、同じ孤島である与路島の*ʔiʃatomai*とは際だった違いを示している。

I 6. ゴキブリ類

kunnjato (実久・瀬武・須子茂・瀬相)

k'unnjato (武名・諸鈍・与路)

kunnjato: (西阿室)

kundʒa'to: (安脚場)

jamatomufi (実久・須子茂)

ゴキブリ類の方言語彙の基本はkunnjato系であるが、*jamatomufi*という語彙もみられる。この *jamato* (日本本土) *mufi* (虫) 系は徳之島では優占的な語彙であるが、加計呂麻島では実久と須子茂でしかみられない。

I 7. ハチ類

(総称)

hatfi (実久・瀬武・須子茂・武名・西阿室・瀬相・花富・押角・佐知克・秋徳・渡連・安脚場・諸鈍)

ha:tfi (芝)

ha'tfi (与路)

(スズメバチ)

tiburubatfi (須子茂・武名・佐知克・秋徳・安脚場・請阿室)

tiburubatfi (渡連)

t'iburubatfi (実久・瀬相・諸鈍)

tiburuba'tfi (芝)

tiburuba:tfi (瀬相・押角)

tiburubatfi: (西阿室)

tiburuba(:)tfi (花富)

t'uburubatfi (与路)

(アシナガバチ)

?*ahabatfi* (実久・須子茂・瀬相・花富・佐知克・秋徳・諸鈍)

?*aha'batfi* (安脚場)

?*ahaba:tfi* (瀬武)

?*aha:ba:tfi* (渡連)

?*akabatfi:* (西阿室)

hatfitiburu (請阿室)

(チビアシナガバチ)

gajabatfi (瀬武・須子茂・武名・瀬相・花富・佐知克・秋徳・諸鈍・請阿室)

gaja'batfi (安脚場)

gajaba'tfi (与路)

gajaba:t(i) (実久)

gajaba:tfi (渡連)

gajabatfi: (西阿室)

(ジバチの一種)

d3ibatfi (須子茂・武名・秋徳・諸鈍)

d3ibatf(i) (実久)

mitʃabatʃi (瀬武・瀬相)

mitʃabaˈtʃi (与路)

mitʃaba:tʃi (押角)

?aŋkobatʃi (佐知克)

ハチ類の民俗分類

調査地	ハチ総称	スズメバチ	アシナガバチ	チビアシナガバチ	ジバチ類
実久	hatʃi	tʻiburubatʃi	?ahabatʃi	gajabatʃ(i)	dʒibatʃ(i)
芝	ha:tʃi	tiburubaˈtʃi			
瀬武	hatʃi			gajabatʃi	mitʃabatʃi
須子茂	hatʃi	tiburubatʃi	?ahabatʃi	gajabatʃi	dʒibatʃi
武名	hatʃi	tiburubatʃi		gajabatʃi	dʒibatʃi
西阿室	hatʃi	tiburubatʃi	?akabatʃi:	gajabatʃi:	
瀬相	hatʃi	tʻiburubatʃi	?ahabatʃi	gajabatʃi	mitʃabatʃi
花富	hatʃi	tiburuba(:)tʃi	?ahabatʃi	gajabatʃi	
押角	hatʃi	tiburubatʃi:			mitʃaba:tʃi
秋徳	hatʃi	tuburubatʃi	?ahabatʃi	gajabatʃi	dʒibatʃi
佐知克	hatʃi	tiburubatʃi	?ahabatʃi	gajabatʃi	?aŋkobatʃi
渡連	hatʃi	tiburubatʃi	?aha:ba:tʃi	gajaba:tʃi	
安脚場	hatʃi	tiburubatʃi	?ahaˈbatʃi	gajaˈbatʃi	
諸鈍	hatʃi	tʻiburubatʃi	?ahabatʃi	gajabatʃi	dʒibatʃi
与路	haˈtʃi	tʻuburubatʃi		gajabaˈtʃi	mitʃaba:tʃi

ハチ類は人間に危害を加えることもある危険な昆虫であることから、人間の関心も当然高くなると思われる。ほとんど全ての調査地でハチ類の総称と個別名の区分がみられる。個別名はハチの形態 (tiburū, 頭の意味) ・色彩 (?aha, 赤い色の意味) ・棲み場所 (gaja, カヤの意味) ・dʒi, mitʃa土の意味) そして習性 (?aŋko, アリの意味) などに由来する呼称となっており、島に住む人々の自然認識のレベルの高さを示している。このような民俗分類は徳之島でも同様な傾向がみられる。

I 8. ハエ類

ϕei (瀬武)

ϕëi (実久・芝・瀬武・武名・瀬相・与路・池地・佐知克)

?o:bëi (実久)

ʔufibëi (実久)

ʔumabëi (実久)

kimbëi (与路)

φë: (押角・秋徳・安脚場・請阿室・渡連)

φii (西阿室)

ʔo:bii (西阿室)

ʔo:bei (西阿室)

ハエ類の基本語彙はφei, φëiであるが、キンバエ類を指す場合は、その色彩(ʔo: 青)に注目したʔo:bei, ʔo:bëiなどがみられる。また、牛や馬などにまつわり付くことで、ʔufibëi, ʔumabëiなどもみられる。

I 9. アリ類

ʔaŋ (実久・押角・佐知克・秋徳・渡連・池地・請阿室・須子茂・武名)

ʔa'ŋ (与路)

ʔa:r (押角)

アリ類の基本語彙はʔaŋで、単純型を示している。なお、徳之島ではʔani, ʔamiなどがみられる。

I 10. カ類

gadʒam (実久・瀬武・須子茂・武名・秋徳・諸鈍・池地)

gadʒa'm (与路)

gadʒa:m(i:) (西阿室)

gadʒaŋ (芝・瀬相・佐知克・渡連)

jamagadʒaŋ (芝)

カ類の基本語彙は単純型の gadʒam, gadʒaŋであるが、山やヤブなどにいるカ類は jama-gadʒaŋと別称している。

I 11. クモ類

(総称)

kubu (実久・瀬武・瀬相・押角・佐知克・渡連・与路・池地)

jaŋkubu (実久)

k'ubu (武名)

kubu: (芝・西阿室・安脚場・請阿室)

kubuganasī (西阿室)

kubu(:) (諸鈍)

k'ubu: (花富)

kubo (秋徳)

k'umu (花富)

(コガネグモの一種)

marukubu (押角)

(オオジョロウグモ)

manfeŋ (秋徳)

クモ類の民俗分類

調査地	総称	個別名
実久	kubu	jaŋkubu (ハエトリグモの一種?)
押角	kubu	marukubu (コガネグモの一種)
秋徳	kubo	manfeŋ (オオジョロウグモ)

クモ類の基本語彙はkubuで、単純型を示している。また、一部にはjaŋkubu marukubu, manfeŋという個別名もみられる。

I 12. ヤスデ類

tunduro (実久)

tinduru (与路)

ヤスデ類の方言語彙の比較 (加計呂麻島と徳之島)

加計呂麻島	徳之島
tunduro	?amadarimufi
tinduru	tuduru
	tudurumufi
	ki:gura

ヤスデ類は調査地が少ないこともあるが、徳之島のtinduruに類似する語彙が、実久と与路の二カ所でみられる。調査地を多くすれば?amadarimufi系の語彙がみられるかも知れない。

I 13. ムカデ類

mukade (実久・須子茂・渡連)

muka'de (安脚場)

jamamuka'de (安脚場)

ムカデ類の方言語彙の比較 (加計呂麻島と徳之島の場合)

加計呂麻島	徳之島
mukade	mukadʒa
muka'de	mukadʒi
	mukade

ムカデ類も調査地が少ないこともあるが、mukade という語彙がみられる。これは、徳之島でみられる mukadzu, mukadʒi, mukadʒa などよりも共通語化が進んでいることを示していると思われる。

I 14. カタツムリ類

tindar (実久・武名・瀬相・佐知克・渡連)

tinda:r (芝・瀬武)

tindari (須子茂・秋徳)

t'indari (諸鈍)

t'indarigja: (西阿室)

tindarigjo' (安脚場)

tindaru (花富)

tundari (花富)

katatsumuri (与路)

カタツムリ類の方言語彙の比較 (加計呂麻島と徳之島の場合)

加計呂麻島	徳之島
tindar	tsinnja
tindari	tʃinnja
t'indarigja:	tsinnjan
tindaru	tʃinnande:ra
tundari	tsinnande:ra

カタツムリ類は tindar 系の語彙が基本型である。徳之島では tsinnjan 系や tsinnjande:ra 系の語彙がみられるが、加計呂麻島ではそれらとは異なる語彙群になっている。花富では tunda

riという語彙がみられるが、これは実久や与路ではヤスデ類をさす語彙である。

I 15. ナメクジ類

nabikudʒiri (実久・瀬武・須子茂・武名・瀬相・安脚場・諸鈍)

nabikudʒir(i) (秋徳)

nabikudʒir (芝・渡連)

nabekudʒi (西阿室)

nabëkudʒiri (佐知克・与路)

ナメクジ類の方言語彙の比較 (加計呂麻島と徳之島の場合)

加計呂麻島	徳之島
nabikudʒiri	judarimufi
nabëkudʒiri	nanta
	nantakuzira

ナメクジ類は徳之島ではjudarimufiやnantakuziraなどの語彙がみられるが、加計呂麻島ではnabikudʒiri系の語彙が基本型である。

—海産動物の方言語彙と民俗分類—

S 1. カニ類

(総称)

gaŋ (芝・須子茂・瀬相・押角・佐知克・秋徳・渡連・池地・請阿室・実久・武名・西阿室・安脚場・諸鈍・与路)

(川や水田に棲むカニ・・・モクズガニ)

magaŋ (芝・瀬相・花富・秋徳・請阿室・実久・武名・安脚場・与路)

ta:gaŋ (池地)

ko:gaŋ (押角)

(畑や畦に大きな穴を開けるカニ・・・オカガニの一種)

timma (芝・瀬相・押角)

tĩmma: (諸鈍)

gĩdĩma:gaŋ (池地)

(赤いカニ・・・アカテガニの一種)

- ?a:gaŋ (請阿室)
 ?ahagaŋ (実久・佐知克)
 (海に棲むカニ・・・種不明)
 ?ifogaŋ (実久・芝・請阿室)
 (浜に棲むカニ・・・種不明)
 hamma (与路・池地・請阿室)
 (川や畑に棲むカニ・・・種不明)
 ?a:fi:gaŋ (瀬相・秋徳)
 fi:gaŋ (安脚場)
 kusagaŋ (請阿室)
 (海にいるカニ・・・ガザミの一種)
 gasama (武名・請阿室)
 gasama' (与路)

カニ類の民俗分類

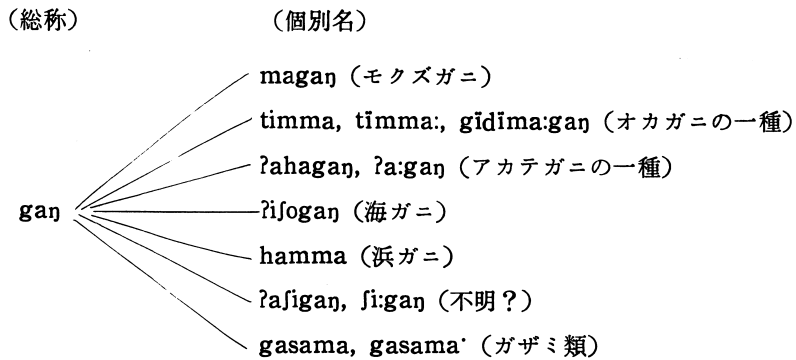
調査地	カニ総称	モクズガニ	オカガニsp	アカテガニsp	不明
実久	gaŋ	magaŋ		?ahagaŋ	?ifogaŋ 海
芝	gaŋ	magaŋ	timma		?ifogaŋ 海
武名	gaŋ	magaŋ			
瀬相	gaŋ	magaŋ	timma		?a:fi:gaŋ 川
押角	gaŋ	ko:gaŋ	timma		
佐知克	gaŋ			?ahagaŋ	
秋徳	gaŋ	magaŋ			?a:fi:gaŋ 川
諸鈍	gaŋ		timma:		
安脚場	gaŋ	magaŋ			fi:gaŋ 畑
与路	gaŋ	magaŋ			hamma 浜
池路	gaŋ	ta:gaŋ	gi:di:ma:gaŋ		hamma 浜
請阿室	gaŋ	magaŋ		?a:gaŋ	hamma 浜 ?ifogaŋ 海

カニ類の総称は gaŋ と呼ばれているが、畑地や水田・河川など人間の生活環境の近くに生息し、馴染みの深い動物であることから、いくつかのカニについては個別名がみられる。特に、川や水田でよくみられるモクズガニは食用になることから、ほとんどの調査で個別名が聞かれた。また、畑や畦道に大きな穴をあけるオカガニ類についてもいくつかの調査地で個別名がみ

られた。

海浜に棲むカニ類にも個別名がみられるが、種を特定するまでには至らなかった。おそらくは海ガニ・浜ガニくらいの呼称だと思われる。

加計呂麻島や与路島・請阿室島のカニ類の民俗分類を要約すると下記のようになる。



S2. エビ類

(大きいエビ・・・イセエビなど)

?ip (須子茂・瀬相・渡連)

?i:p (実久・武名・花富・秋徳・安脚場・諸鈍・与路・池地・請阿室)

?ep (西阿室)

?ebi: (西阿室)

(小さなエビ・・・ヌマエビなど)

sai (請阿室)

saë: (押角・秋徳・渡連・諸鈍)

sei (実久・花富)

sëi (武名・池地)

(手の長いエビ・・・テナガエビなど)

tanga (実久・須子茂・諸鈍・与路・瀬相・押角・秋徳・渡連・池地)

tanga(:) (請阿室)

tanga: (西阿室・安脚場)

tangan (武名)

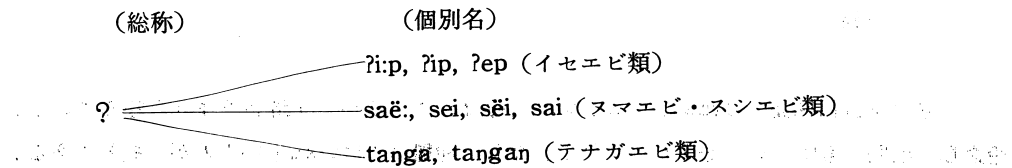
(ゾウリエビ?)

tutfigan (武名)

エビ類の民俗分類

調査地	大きいエビ	小さなエビ	手長エビ
実久	ʔi:p	sei	tanga
須子茂	ʔip		tanga
武名	ʔi:p	sēi	tangan
西阿室	ʔep, ʔebi:		tana:
瀬相	ʔip		tanga
花富	ʔi:p	sei	
押角		saë:	tanga
秋徳	ʔi:p	saë:	tanga
渡連	ʔip	saë:	tanga
安脚場	ʔi:p		tanga:
諸鈍	ʔi:p	saë:	tanga
与路	ʔi:p		tanga
池地	ʔi:p	sēi	tanga
請阿室	ʔi:p	sai	tanga(:)

エビ類の民俗分類は、概ね「大きいエビ」「小さなエビ」「手長エビ」の3つのグループに区分できる。これは沖縄島や徳之島などでも普通にみられる区分法である。エビ類は食用にもなることから、また、形態的な特徴などから、人間の関心が高く個別名（グループ名）で区分されている。加計呂麻島でのエビ類の民俗分類は概ね下記の通りである。



S 3. ヤドカリ類

ʔaman (押角)

ʔamam (秋徳・諸鈍・請阿室)

陸域に棲むオカヤドカリ類や海に棲むヤドカリ類も総称としてʔaman, ʔamamと呼称されている。

S 4. 貝類

- minja (実久・与路)
(タニシ)
tammja (安脚場)
tammja: (花富)
tammja (実久・佐知克・与路)
(タカラガイの一種)
?ufigwa (須子茂・瀬相)
(アワビの一種)
mariminja (安脚場)
(ヤコウガイ)
jakugë (安脚場)

貝類は食用になることから、当然人々の関心が高く、個別名が豊富である(松井、1983)。今回の調査は他の動物調査に付随して行われたので、方言語彙の列数は少ないが、実物の貝類を持参して調査をすれば語彙数はもっと増えると思われる。

貝類の総称はminjaで、タニシはtammjaという個別名で呼ばれている。また、タカラガイ類はその形態(ずんぐりして黒っぽい)から?ufigwaと呼ばれている。徳之島の山では?usimjaと呼んでいる。

S 5. タコ類

- tuhu (実久)
tuho (須子茂)
toho (諸鈍)
to: (与路)

タコ類は加計呂麻島ではtuhu, tuho, tohoと呼ばれているが、与路島ではto:と呼んでいる。徳之島の池間でもto:という語彙がみられる。なお、沖縄島ではtakuというのが一般的である。

S 6. イカ類

- ?ikja (実久・須子茂・諸鈍)
?ikja: (与路)
(コウイカの一種)
kubufumi (実久)

イカ類は総称として?ikja, ?ikja:と呼んでいるが、コウイカ類をkubufumiと個別名で呼ぶ

所がある。

S 7. ウニ類

- gatiti (実久・武名・瀬相・諸鈍)
- gat'iti (安脚場)
- gatitʃi (西阿室)
- gati:ti (須子茂)
- gatu'ti (与路)
- juni (須子茂・瀬相・安脚場・諸鈍)
- kurujuni (須子茂)

ウニ類は食用に供するものは gatiti 系の語彙で呼ばれているが、畑の肥料などに使うものは juni として区別している。

S 8. ナマコ類

- fikiri (須子茂)
- tuhofikiri (須子茂)
- to:fikiri (西阿室)

ナマコ類は多くの人々には馴染みのない動物であるが、fikiri という語彙がみられた。その中で、食用に供するものは tohofikiri, to:fikiri と呼ばれている。tuhō, to: はタコの意味である。なお、徳之島の井之川では fikkira と呼んでおり、加計呂麻島と同系統の語彙だと思われる。

S10. 魚類

- ?iju: (渡連)
- ?iju (芝・須子茂・諸鈍・与路)
- ?ju: (西阿室)
- ?ju (西阿室)
- (ウナギ類)
- ?unak (実久・瀬相・渡連・池地)
- ?una:k (芝・花富・押角・請阿室)
- ko?una:k (請阿室)
- duru?una:k (請阿室)
- (フナ)
- ku:ju: (芝)

φuna (押角・池地・請阿室)

(メダカ)

taju (押角・池地)

taju: (請阿室)

(コイ)

koi (芝)

(サメ類)

saba (西阿室・与路)

(ウツボ類)

?uzi: (西阿室)

?udu (実久)

?udu: (与路)

(ハリセンボン類)

?abasi (諸鈍)

?abasi: (西阿室)

(カツオ)

kasu: (芝・西阿室)

魚類の総称として?iju, ?juなどの語彙がみられる。魚類は食用として重要な動物であり、人々の関心が高いことから、その民俗分類は生物群と多くの場合は符合する。魚類の方言語彙については漁師などから詳細に調査すれば加計呂麻島および与路島・請島の民俗分類がより正確に浮かび上がるであろう。

—参考文献—

天野鉄夫(1979)『琉球列島植物方言集』。新星図書。那覇

大友信一・木村晟(1979)『琉球館訳語本文と索引』。小林印刷

柴田 武編(1984)『奄美のことば』。秋山書店

当山昌直(1983)阿嘉島の動物の方言について。沖縄県立博物館総合調査報告書Ⅲ—座間味村—。23-29

当山昌直(1984)浜比嘉島の動物方言。やちむん 8:53-61

当山昌直(1987)伊計島の動物の方言。沖縄県立博物館総合調査報告書Ⅳ—伊計島—。35-43

中本正智(1981)『図説琉球語辞典』。力富書房。東京

中本正智(1987)東アジア言語の古層。言語。16(7): 86-99

野原三義・宮城邦治(1986)徳之島の動物方言語彙。徳之島調査報告書(4)。91-175。沖縄

国際大学南島文化研究所

松井 健(1983)『自然認識の人類学』. どうぶつ社. 東京

松井 健(1975a) 民俗分類の構造—南西諸島の場合—. 季刊人類学. 6(1):3-68

松井 健(1975b) 民俗分類の機能—南西諸島の場合—. 季刊人類学. 6(2):84-124

宮良当壮(1982) 日本方言彙編. 『宮良当壮全集』第1巻. 第一書房. 東京